画　情　資　料

2010年度

講　義　計　画

桃山学院大学

講　義　計　画

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－自動車産業論　＜春＞	
門　脇　轟　二	２単位

【講義概要】
自動車産業の発展の歴史を振り返りながら、現在自動車産業が直面している課題を考察する。

【学習目標】
自動車産業の直面している課題を考察する。

【講義計画】
第１回　自動車産業の現況を概観
第２回　自動車の発明
第３回　ヨーロッパでの自動車の発展とアメリカへの伝播
第４回　アメリカでの自動車産業の勃興
第５回　世界大恐慌と自動車産業、ヨーロッパの自動車産業、日本の自動車産業の勃興
第６回　ヨーロッパの国民車構想
第７回　日本及びアジアの国民車構想
第８回　日本の自動車産業の復興
第９回　世界の自動車産業の発展(1960～1980年)
第10回　世界の自動車産業の発展(1980～2000年)
日米自動車摩擦ー自動車輸出自主規制、構造協議、経済包括協議
第11回　中国の自動車産業の発展(１)
第12回　中国の自動車産業の発展(２)
第13回　自動車の環境・省エネ対策ー新技術の模索
第14回　自動車産業の現状と課題

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　80%
期末試験に加えて、期間中に不定期に４～５回レポートを提出して貰い、それらを総合して成績評価をする。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－就職試験対策のための数学　＜春＞	
三　原　裕　子	２単位

【講義概要】
総合適性検査（SPI）は、採用選考時における筆記試験として多くの企業で実施されています。もともとSPIは企業の人事選考等において、適材適所を把握するために利用されていましたが、現在では企業サイドが多数の応募者を絞り込むために適性検査が実施されるようになっています。
SPIは能力適性検査と性格適性検査とに分かれており、特に能力適性検査では、言語能力や数学の問題を中心とした論理的思考・数理能力等（非言語能力検査）が試されます。しかし、非言語能力検査では、思考、判断、作業の早さおよび正確さを測定するために行うもので、その出題内容としては、中学から高校レベルの問題が中心に出題されます。ところが、難易度は中学レベルといえども時間制限に比べると問題数が多いということから、少しでも早い段階でとにかくたくさんの問題をこなして、慣れることが肝心です。そこで、少しでも多くの問題を、かつより早く解けるようになるために、徹底的に問題を解いていこうと思います。
また本講義では、初回にアンケートを行い、みなさんが苦手だという問題を優先的に講義を進めていく予定です。

【学習目標】
本講義の目標は、非言語能力の中でも特に数学を中心に、数多くの問題を解くことで就職試験に備え、さらに半年間で各自が苦手である分野を克服する事を目標とします。

【講義計画】
第１回　ガイダンスおよびアンケート
第２回　推論[講義と問題演習]
第３回　推論[問題演習]
第４回　集合[講義と問題演習]
第５回　集合[問題演習]
第６回　順列[講義と問題演習]
第７回　組み合わせ[講義と問題演習]
第８回　順列、組み合わせ[問題演習]
第９回　確率[講義]
第10回　確率[問題演習]
第11回　確率[問題演習]
第12回　表の読み取り[講義と問題演習]
第13回　表の読み取り[問題演習]
第14回　損益算、速さ・距離・時間[講義と問題演習]

【成績評価の方法】
試験　100%　出席　０%
試験の内訳として、小テスト、中間テスト、学期末試験を予定しています。

【参考文献】
適宜指示します。

【備考】
レジメを適宜配布します。また、受講生の理解度に応じて、講義のペースが変更される場合があります。
【準備学習の指示】
講義開始前にあらかじめ予習して頂くものはありません。ただし、授業が始まるとレジュメを配布し講義を進めていきますので、その際には前もってレジュメに目を通すなどの予習を心がけてください。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－ファッション産業論　＜通期＞	
富　澤　修　身	４単位

【講義概要】
まず、現代のファッションとファッション産業の概観を論じる。本論の第１部「資本主義社会とファッション」では消費生活サイドから論じる。第２部「ファッション産業論」では供給サイドから論じる。第２部では、クリエーション、マーケットイン、情報技術の活用、広告、グローバル化、都市とファッション、地球環境配慮とユニバーサルファッションについて論じる。

【学習目標】
身近なファッションを取り上げて、学問をする意味や楽しさを学ぶ。ファッションの奥深さを実感して欲しい。また、ファッションビジネスに関心ある学生は、１年間受講すれば、ファッションとファッション産業についての十分な知識を修得することができる。就職活動にも必ず役立つ。

【講義計画】
第１回　はじめに
第２回　１．社会、衣服、ファッションビジネス(１)
第３回　１．社会、衣服、ファッションビジネス(２)
第４回　２．資本主義社会における消費(１)
第５回　２．資本主義社会における消費(２)
第６回　３．衣服の変化とファッション現象(１)
第７回　３．衣服の変化とファッション現象(２)
第８回　３．衣服の変化とファッション現象(３)
第９回　４.20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化(１)
第10回　４.20世紀後半日本の消費生活と衣生活の変化(２)
第11回　５．世界繊維産業の見取り図(１)
第12回　５．世界繊維産業の見取り図(２)
第13回　６．３大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容(１)
第14回　６．３大繊維市場圏の形成とファッションビジネスの変容(２)
第15回　７．日本のファッション産業システム(１)
第16回　７．日本のファッション産業システム(２)
第17回　７．日本のファッション産業システム(３)
第18回　８．ファッション産業システムの情報化(１)
第19回　８．ファッション産業システムの情報化(２)
第20回　９．ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動(１)
第21回　９．ファッションコミュニケーションの構造と消費者行動(２)
第22回　10．縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部(１)
第23回　10．縫製基地としての中国と消費市場としての中国都市部(２)
第24回　11．ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業(１)
第25回　11．ニューヨーク市のファッションビジネスとアパレル産業(２)
第26回　12.都市生活のファッション化とファッションビジネス創造
第27回　13.繊維アパレル産業と社会的責任
第28回　14.終章

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
主レポートは、前期と後期に提出してもらう。講義の区切りのよいところで授業時間の10分ほどを使って小レポートを作成してもらう。出席点は受講者のノートをベースに採点する。ノートのコピーの提出は、前期と後期の終了時点を予定している。

【教科書】
富澤修身 ファッション産業論 創風社

【備考】
【準備学習の指示】毎回講義終了時に、次回の講義の範囲となる教科書のページを指定して、予習の指示を出す。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特講－マーケティング概論―自動車　＜秋＞	
門　脇　轟　二	２単位

【講義概要】
主に自動車産業を事例にマーケティングの概念を概説する。

【学習目標】
マーケティングの基本的な概念の理解と実習。

【講義計画】
第１回　最近の日本におけるマーケティング上の問題、マーケティング概念の起源。
第２回　アメリカにおけるマーケティング概念の起源
第３回　日本のマーケティングの芽生え(１)
第４回　日本のマーケティングの芽生え(２)自動車産業の勃興
第５回　日本の近代マーケティング導入の歴史
第６回　マーケティング戦略の策定　SWOT分析
第７回　マーケティングの４P　PRODUCT（製品）１
第８回　マーケティングの４P　PRODUCT（製品）２
第９回　マーケティングの４P　PRODUCT（製品）３
第10回　マーケティングの４P　PRICE（価格）
第11回　マーケティングの４P　PLACE（流通）
第12回　マーケティングの４P　PROMOTION（販売促進）
第13回　中小企業のマーケティング
第14回　マーケティングのキーワード

【成績評価の方法】
試験　20%　レポート　80%
期末試験に加えて、期間中に不定期に４～５回レポートを提出して貰い、総合的に成績評価をする。

科目名　クラス　講義区分	
経済学特別講義－戦後日本経済の光と影　＜秋＞	
伊代田　光　彦	２単位

【講義概要】
During the past half century the Japanese economy has seen rapid changes and remarkable progress. What kind of changes have we had in these years? In what sense can we say that we have had progress?
The lecture shows historical changes of the Japanese economy by using tables and figures in the beginning. Then it focuses on the following three points:(a)rapid economic growth and its bright and gloomy sides, (b)the bubble economy and its consequences, and (c)some current topics. We show some lessons from the lecture above (a) and (b).

【学習目標】
The purpose of this lecture is:(a) to learn some lessons from rapid economic growth and the bubble economy, and (b) at the same time to grasp an overview of the development of the postwar Japanese economy.

【講義計画】
第１回　１．Introduction
Introduction (lecture guide, plan, etc.)
第２回　２．Historical Changes of the Japanese Economy
Facts (economic growth, economic structure)
第３回　Reforms and the beginning of strong growth
第４回　＊Presentation by the students
Education system and the problems in his or her country
第５回　３．Rapid Economic Growth
General background
第６回　Positive effects
第７回　Negative effects
第８回　Towards a welfare-oriented society
第９回　４.Bubble Economy and its Consequences
Bubble age (burst, triggering role of policies)
第10回　The process of bursting the bubble
第11回　Its consequences (bad loan, outstanding government bonds)
第12回　５.Some Current Topics
Income and assert distribution
第13回　Typical household and pension scheme
第14回　６.Concluding Remarks
The quality of life in the mature society

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
Evaluation will be based on attendance (30%), and two papers (reports)(70%).

【教科書】
Handouts will be provided.
Short reading series will be provided.
Or(Forthcoming)Mitsuhiko Iyoda, Postwar Japanese Economy.

【参考文献】
Ito, Takatoshi (1992). The Japanese Economy, chap.3, Massachusetts Institute of Technology.
Tsuru, Shigeto (1993). Japan's Capitalism, chap.3, Cambridge University Press.
Itoh, Makoto (2000). Japanese Economy Reconsidered, chap.4, Palgrave.

【備考】
Study Guide: To review the handout is needed, which makes sure of your lecture-understanding. This is your minimum requirement for the next lecture. Studying "Reading Materials" or "Textbook" is strongly recommended.
・英語による講義
・02～04E生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経済学入門［編入生用］　＜通期＞	
一ノ瀬　　篤	４単位

【講義概要】
はじめて経済問題を考える人を念頭において、経済の基本的なメカニズム、制度、用語を講義する。

【学習目標】
経済学というよりは、経済現象・経済問題に関する基礎知識の説明・学習を目標とする。とくに基礎的な経済用語の習得を重視。

【講義計画】
第１回　生産と流通
第２回　消費と投資
第３回　貯蓄
第４回　資本主義と社会主義
第５回　経済成長：資本の蓄積
第６回　経済成長の指標
第７回　国民所得概念
第８回　国民所得の流れ
第９回　貿易の役割
第10回　国際取引、国際収支
第11回　日本の国際収支
第12回　為替相場
第13回　為替相場理論
第14回　前半の回顧
第15回　中間試験
第16回　金本位制度
第17回　IMF制度
第18回　変動相場制への移行
第19回　銀行の役割
第20回　中央銀行の役割
第21回　株式会社と株式市場
第22回　財政収入１：租税
第23回　財政収入２：国債
第24回　財政支出
第25回　日本の年金
第26回　ケインズ思想
第27回　マネタリズム
第28回　回顧１：通貨制度と為替相場制度
第29回　回顧２：国債累積のはらむ諸問題
第30回　期末試験

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　20%　出席　20%

【教科書】
一ノ瀬作成の講義レジメを用いる。

科目名　クラス　講義区分	
経済学のための数学入門　＜春集＞	
藤　間　　真	４単位

【講義概要】

経済学部は文系だとされています。しかし、経済学を理解するには数学の素養があった方がはるかに効果的に理解できます。しかも、高校までの数学とは少し毛色の違った数学ですし、入試対策のテクニック等は不要ですから、今まで苦手に思ってきた諸君でも、再スタートだと思って努力すれば経済学部で要求される数学の基礎は理解できるはずです。

小中高の数学の知識をも復習しながら進む予定ですから小中高で数学を苦手にした諸君でもそのことで恐れることはありません。しかし、受験テクニックは扱いませんし、高校までの数学とは違う視点での数学を講義しますので、自分の頭を使い手を動かして考えることも必要になってきます。

なお、履修登録時のPC操作程度のスキルを要求するPC上の教材を援用することも講義計画執筆時現在検討中です。

【学習目標】

この講義の目的は、経済学の視点から小中高の数学、特に「論理」「数と式」「数の計算」「一次・二次方程式」「確率」「統計」「微分」「行列」を見直し、整理すると同時に更なる高みを目指すことにあります。

なお、2009年度以前の同名の科目から展開方向などの変更を予定しています。

【講義計画】

第１回　第一回にオリエンテーションを行います。また、第28回以降は、総まとめを予定しています。

その間に、「論理と表現」「数と式」「数の計算」「一次・二次方程式」「微分」「行列」について、演習を交えながら講義します。

問題演習によって、受講生の理解度を頻繁にはかりその結果に応じて各内容の難易度と進度を調整しますので、下記予定に変更があることは十分予想されます。その変更については、講義中にアナウンスする予定です。

第２回　論理と表現
第３回　論理と表現
第４回　論理と表現
第５回　PCの数学応用
第６回　グラフの経済学への応用
第７回　グラフの経済学への応用
第８回　中間まとめ
第９回　数と式
第10回　数と式
第11回　行列の基本と経済学への応用
第12回　行列の基本と経済学への応用
第13回　行列の基本と経済学への応用
第14回　行列の基本と経済学への応用
第15回　行列の基本と経済学への応用
第16回　中間まとめ
第17回　一次・二次方程式の基本と経済学への応用
第18回　一次・二次方程式の基本と経済学への応用
第19回　一次・二次方程式の基本と経済学への応用
第20回　一次・二次方程式の基本と経済学への応用
第21回　中間まとめ
第22回　微分の基本と経済学への応用
第23回　微分の基本と経済学への応用
第24回　微分の基本と経済学への応用
第25回　微分の基本と経済学への応用
第26回　微分の基本と経済学への応用
第27回　PCの数学応用
第28回　総まとめ
第29回　総まとめ
第30回　総まとめ

【成績評価の方法】

講義で扱った各分野について、演習問題、期末試験、期末レポートの点数の最大のものをその分野の得点として、それらの合計で評価します。

なお、本講義の評価時に、出席点は加味することはありませんが、きちんと出席していれば、単位認定できるように講義運営する予定です。

詳細は、オリエンテーション時に示します。

【参考文献】

講義中に指示します。

【備考】

【準備学習】

予習は要求しませんが、復習は要求します。

科目名　クラス　講義区分	
経済原論　01＜通期＞	
大　澤　　健	４単位

【講義概要】

私たちが暮しているのは「市場経済」あるいは「資本主義」と言われる社会です。現在、「グローバリゼーション」という現象が進行する中で、「市場経済」、「資本主義社会」が世界を覆い尽くそうとしています。

この講義では、世界に広がる「市場」や「資本」の基本的な性質を解説しながら、われわれの社会の基本的な仕組みをより深く学ぶことを目指しています。

【学習目標】

「市場」「貨幣」「資本」といったわれわれの社会の基本的なキーワードの意味を理解するとともに、資本主義社会がどのような性格をもち、どのように運動していくのかといった経済の基盤となる知識の習得を目標とする。

【講義計画】

第１回　ガイダンスと講義についてのアンケート
第２回　１．市場経済の仕組み　「市場経済」とは何か。
第３回　貨幣の諸機能と商品流通
第４回　銀行信用と通貨制度
第５回　２．資本の生産過程　資本の定義とその意味
第６回　資本主義社会の特徴①　利潤追求とその社会的意味
第７回　資本主義社会の特徴②　資本主義の矛盾
第８回　相対的剰余価値とイノベーション
第９回　資本の蓄積と過剰人口
第10回　３．資本の流通過程　資本の循環
第11回　資本の循環と流通費
第12回　資本の回転
第13回　資本の回転とストック・フロー
第14回　資本主義的再生産過程
第15回　再生産過程と資本の矛盾
第16回　４．資本の総過程　剰余価値と利潤
第17回　平均利潤の形成過程
第18回　商業資本とその意味
第19回　商品取引資本と貨幣取引資本
第20回　利子生み資本とその意味
第21回　利子生み資本と株式会社
第22回　５．資本主義の全体像　資本循環の３局面
第23回　資本の循環と４つの市場
第24回　６．資本主義の発展過程　国家の意味とその役割
第25回　資本の歴史を作り出す諸要因
第26回　大航海時代と重商主義
第27回　産業革命と帝国主義
第28回　戦後の世界と国家的資本主義
第29回　グローバリゼーションの進展①
第30回　グローバリゼーションの進展②

【成績評価の方法】

試験　80%　レポート　15%　出席　５%
夏休み中にレポートを課す予定。それを加点要素として考慮する。
レポートを提出しない事による減点はない。

【教科書】

柴田信也編著 政治経済学の原理と展開 創風社

【備考】

経済学基礎理論Bを受講していることが望ましい。これを受講していることを前提とした講義を行う。

受講に先立って、経済学基礎理論Bの講義ノートをもう一度見返すとともに、テキストについても通読の上、分らない部分をチェックしておくこと。

・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経済原論　02＜春集＞	
滝　田　和　夫	４単位

【講義概要】
この講義ではマルクスの経済学について解説する。そこでは『資本論』全三巻の基礎概念や基本的論理構造の解説と問題点の検討を中心に講義を進める。それと同時に、マルクスの経済学と古典派経済学との関わりや、現代マルクス経済学の到達点、さらにはいわゆる近代経済学との相違もできるだけ明らかにしていきたい。

【学習目標】
マルクスの経済学の基礎的な概念の習得と体系的理解を目標とする。

【講義計画】
第１回　１　経済学の対象と方法１
第２回　１　経済学の対象と方法２
第３回　２　市場経済　２．１　はじめに　２．２　商品とは何か
第４回　２．３　商品経済１
第５回　２．３　商品経済２
第６回　２．３　商品経済３
第７回　２．３　商品経済４
第８回　２．３　商品経済５
第９回　２．４　貨幣経済１
第10回　２．４　貨幣経済２
第11回　２．４　貨幣経済３
第12回　３　資本とその増殖　３．１　はじめに　３．２　資本の増殖
第13回　３．３　労働力商品
第14回　中間テスト
第15回　３．４　資本の生産過程１
第16回　３．４　資本の生産過程２
第17回　３．４　資本の生産過程３
第18回　４　価格と利潤　４．１　はじめに　４．２　個別的価値と市場価値１
第19回　４．２　個別的価値と市場価値２
第20回　４．３　生産価格、一般的利潤率の形成１
第21回　４．３　生産価格、一般的利潤率の形成２
第22回　４．３　生産価格、一般的利潤率の形成３
第23回　５　資本の再生産と蓄積　５．１　はじめに　５．２　資本の蓄積過程１
第24回　５．２　資本の蓄積過程２
第25回　５．２　資本の蓄積過程３
第26回　５．３　社会的総資本の再生産過程１
第27回　５．３　社会的総資本の再生産過程２
第28回　５．３　社会的総資本の再生産過程３

【成績評価の方法】
試験　90％　レポート　０％　出席　10％
基本的に中間試験と期末試験の成績によるが、出席を若干加味する。

【教科書】
平井規之・北川和彦・滝田和夫 経済原論 有斐閣

【参考文献】
置塩信雄（著）『マルクス経済学』筑摩書房
森嶋通夫（著）高須賀義博（訳）『マルクスの経済学』（『森嶋通夫著作集７』）岩波書店

【備考】
【準備学習の指示】テキストを事前に一読しておくのが望ましい。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経済原論　03＜秋集＞	
松　尾　　純	４単位

【講義概要】
19世紀に誕生した「現存社会主義」の崩壊とその後の資本主義経済への「復活」、中国共産党の推進する「市場社会主義」建設。これらの事態は、マルクスが構想した社会主義社会とはどのようなシステムであったのか、そして、それは人類が求める理想社会を実現するものであるのか、という問題を我々に投げかけている。
他方、ソ連・東欧の「現存社会主義」の崩壊によって一旦「勝利」したと見られた資本主義も、21世紀に入ってますますその行方は不透明となりつつあり、現存の資本主義社会は人間に幸福をもたらしているとは必ずしもいえない状況が続いている。
本講義では、このような問題状況を解決する糸口を得るために、百数十年前に資本主義批判と社会主義の実現を目指して誕生したマルクス経済学の新世紀における”再構築”を目指す。そのため、従来科書的に理解されてきたマルクス経済学の諸命題について根本的な再検討を加えつつ、講義を進めていく。

【学習目標】
上記の講義を通じて、歴史の進行と共に様々に変化する政治状況や経済状況を、客観的・批判的に理解しうる（経済学部卒業者に相応しい）専門的教養を身につけることを学習目標にする。

【講義計画】
第１回　講義全体の概説。講義の進め方・成績評価の方法等のガイダンス。
第２回　マルクス・エンゲルスのいわゆる「唯物史観」とは何か。
第３回　労働疎外論とは何か。
第４回　マルクス・エンゲルス共著の『共産党宣言』には何が書かれているか。
第５回　マルクスが描いた社会主義像。
第６回　ソ連・東欧の「社会主義」の歴史。
第７回　中国の社会主義の歴史と現状。
第８回　経済学の対象と方法。
第９回　商品論Ⅰ。価値実体論。
第10回　商品論Ⅱ。価値形態論。
第11回　貨幣論Ⅰ。貨幣の基本的機能（価値尺度、主通手段）。
第12回　貨幣論Ⅱ。本来の貨幣の諸機能。
第13回　貨幣の資本への転化論。
第14回　資本の本源的蓄積。
第15回　剰余価値論Ⅰ。剰余価値の生産方法。
第16回　剰余価値論Ⅱ。資本主義における労働生産力の発展。
第17回　資本蓄積論Ⅰ。
第18回　資本蓄積論Ⅱ。
第19回　資本の流通過程。資本の循環。資本の回転。
第20回　資本の流通過程。再生産表式論。
第21回　利潤論Ⅰ。利潤・平均利潤・費用価格・生産価格。
第22回　利潤論Ⅱ。利潤率の傾向的低下法則論
第23回　商業資本論。
第24回　利子生み資本論。
第25回　信用論Ⅰ
第26回　信用論Ⅰ
第27回　地代論。差額地代論。絶対地代論。
第28回　講義の総括。

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
学期末の試験は行わない。
成績評価は、授業時間内に予告なしに実施する６回の小テストによって行なう。
小テスト得点合計（各回20点満点）によって成績評価を行う。小テストの得点合計が60～69点であればC評価となり、70～79点であればB評価となり、80点以上であればAとなる。
出欠調査は行わない。

【参考文献】
市販の教科書等は使用しない。代わりに、可能なかぎり、講義要旨・参考資料等の資料を配布する。資料配付は各回の講義に必要な資料ををその都度講義時間内に限って配布する。

【備考】
【準備学習の指示】
すでに配布された講義要旨・参考資料等の資料をよく読んだ上で、分からない論点や記述部分について自分で調査したり質問事項をまとめておくとともに、次回講義での議論の展開に備えておくことこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経済社会学　＜秋＞	
大　倉　季　久	２単位

【講義概要】
この講義では、1980年代後半以降、アメリカを中心に発展してきた「新しい経済社会学」の潮流をもとに、経済現象を社会学的に捉える視点と方法について概説する。とくに市場メカニズムの現代的な特徴の解明に焦点を据えて、経済現象を読み解く視点としての「埋め込みアプローチ」の特色について議論していく。経済活動が直面している現実の具体的な成り立ちを注視しながら、その中で起こってくる人びとの経済行動の変化や、そこから引き起こされるさまざまな問題の構造的な背景を捉える視点としての「新しい経済社会学」の視点を知ることにより、日ごろ見聞きしているさまざまな経済現象について、慣れきった見方を再考する機会となればと思っている。

【学習目標】
経済現象を捉える基本的な視点として「埋め込みアプローチ」の特徴を理解すること、および「埋め込みアプローチ」を通して今日起こっている経済現象の背後に存在するさまざまな問題の様相を社会学的に認識すること。

【講義計画】
第１回　イントロダクション：人びとの経済行為をどう理解するか？
第２回　市場化の時代としての現代社会
第３回　経済学と経済社会学
第４回　「埋め込みアプローチ」の基礎(１)弱い紐帯の強さ
第５回　「埋め込みアプローチ」の基礎(２)ネットワーク理論
第６回　「埋め込みアプローチ」の基礎(３)「埋め込みアプローチ」とは？
第７回　市場メカニズムの捉え方(１)市場の中のネットワーク
第８回　市場メカニズムの捉え方(２)企業の秩序としての業界
第９回　市場メカニズムの捉え方(３)制度としての市場
第10回　グローバリゼーションの制度的基礎
第11回　金融の世界
第12回　エコロジーの経済社会学(１)現代日本の森林問題
第13回　エコロジーの経済社会学(２)現代森林問題の経済社会学的特質
第14回　まとめ：アダム・スミスの遺産

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　40%　出席　０%
読書レポート（30%）と学期末試験（60%）、講義内容に関するリアクション・ペーパー（10%）によって評価する。出席はとらないが、毎回出席することなしに単位を取得することは難しいだろう。
詳細は第１回の授業時に指示する。

【参考文献】
渡辺深編,『新しい経済社会学：日本の経済現象の社会学的分析』上智大学出版（2008年).
マーク・グラノヴェター『転職：ネットワークとキャリアの研究』ミネルヴァ書房（1998年).
そのほか、適宜指示する。

【備考】
【本科目の履修が可能な者について】
本講義の基本的な内容は2009年度に開講された「社会学特講：経済社会学への招待」と同一であるため、すでにこの科目の単位を取得している者については履修を認めない。
【準備学習の指示】
本講義は経済社会学の理論的な枠組みの概説が中心となる。具体的な事例については時間が許す限り取り上げるが、単位の取得を目指すにあたっては、日ごろから新聞の経済関連の記事や講義内で取り上げた文献について精読することが早道である。
・02～09生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理演習Ｉａ　01＜秋＞ 経済情報処理演習Ｉａ　02＜秋＞	
麻　生　憲　一	２単位

【講義概要】
あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】
アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。
同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】
第１回　表計算ソフト基本操作のまとめ
第２回　マクロの自動記録機能
第３回　プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
第４回　プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
第５回　複利計算プログラムの作成
第６回　データ型の設定
第７回　データ整列プログラム
第８回　データ探索プログラム
第９回　計算とプログラムの効率化
第10回　金融計算プログラムの作成
第11回　計測と制御
第12回　C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
第13回　統計ソフトの利用法
第14回　統計ソフトでのプログラミング
第15回　試験（プレゼンテーション）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
出席、期末課題、個別プレゼンテーションの結果を総合して評価を行う。

【教科書】
使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ただし、大学で配布される「ユーザーズガイド」は利用する。

【参考文献】
授業中、その都度指示をする。

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理演習Ｉａ　03＜秋＞ 経済情報処理演習Ｉａ　04＜秋＞	
村　松　郁　夫	２単位

【講義概要】
あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】
アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。
同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】
第１回　表計算ソフト基本操作のまとめ
第２回　マクロの自動記録機能
第３回　プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
第４回　プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
第５回　複利計算プログラムの作成
第６回　データ型の設定
第７回　データ整列プログラム
第８回　データ探索プログラム
第９回　計算とプログラムの効率化
第10回　金融計算プログラムの作成
第11回　計測と制御
第12回　C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
第13回　統計ソフトの利用法
第14回　統計ソフトでのプログラミング
第15回　まとめ

【備考】
準備学習の指示
経済情報処理演習Ｉｂを履修，あるいは，それに関する知識を修得していることが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理演習Ｉａ　05＜秋＞	
義　永　忠　一	２単位

【講義概要】
あらかじめ用意されたアプリケーション機能を受動的に利用するだけでなく、各自に適した形でコンピュータを使いこなす第一歩として、VBA（ Visual Basic for Application ）をもちいたプログラム作成演習を行う。表計算ソフトの初歩操作を既に体験済みの受講生を対象としたい。

【学習目標】
アプリケーション機能を受動的に利用する段階からさらに進んで、マクロやプログラミング機能を活用した情報処理へのレベルアップをめざす。
同時に、プログラミングの基本作法に触れ、より高度なプログラミング学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】
第１回　表計算ソフト基本操作のまとめ
第２回　マクロの自動記録機能
第３回　プログラミング操作の基本、アプリケーションとプログラミングの相違点
第４回　プログラミングの発想とアルゴリズム・フローチャート
第５回　複利計算プログラムの作成
第６回　データ型の設定
第７回　データ整列プログラム
第８回　データ探索プログラム
第９回　計算とプログラムの効率化
第10回　金融計算プログラムの作成
第11回　計測と制御
第12回　C言語やJAVAなど他のプログラミング言語の利用法
第13回　統計ソフトの利用法
第14回　統計ソフトでのプログラミング

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　70%

【教科書】
オリジナル資料をコピーして配布します。

【参考文献】
適宜、指示します。

【備考】
準備学習の指示
第１回目の時に、説明をします。主に、当日の内容を各自で自習し、スキルを確実に身につけることです。

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理演習Ｉｂ　01＜春＞ 経済情報処理演習Ｉｂ　02＜春＞	
麻　生　憲　一	２単位

【講義概要】
経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】
情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。
さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】
第１回　新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
第２回　行政機関の経済情報へのアクセス
第３回　統計資料・調査レポートへのアクセス
第４回　地域と企業活動に関する経済情報源の検索
第５回　経済統計データとは
第６回　経済統計データの検索と入手
第７回　経済統計データの整理・グラフ化
第８回　記述統計手法（平均・分散）
第９回　記述統計手法（相関・回帰）
第10回　記述統計手法（クロス集計）
第11回　人口・労働データの分析
第12回　物価・企業データの分析
第13回　景気指標・ビジネスサーベイの分析
第14回　国民経済計算データによる日本経済の分析
第15回　試験（プレゼンテーション）

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　10%　出席　40%
出席、期末課題、個別プレゼンテーションの結果を総合して評価を行う。

【教科書】
使用しない。必要に応じてプリントを配布する。ただし、大学で配布される「ユーザーズガイド」は利用する。

【参考文献】
授業中、その都度指示をする。

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理演習Ｉｂ　03＜春＞ 経済情報処理演習Ｉｂ　04＜春＞	
村　松　郁　夫	２単位

【講義概要】
経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】
情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。
さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】
第１回　新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
第２回　行政機関の経済情報へのアクセス
第３回　統計資料・調査レポートへのアクセス
第４回　地域と企業活動に関する経済情報源の検索
第５回　経済統計データとは
第６回　経済統計データの検索と入手
第７回　経済統計データの整理・グラフ化
第８回　記述統計手法（平均・分散）
第９回　記述統計手法（相関・回帰）
第10回　記述統計手法（クロス集計）
第11回　人口・労働データの分析
第12回　物価・企業データの分析
第13回　景気指標・ビジネスサーベイの分析
第14回　国民経済計算データによる日本経済の分析
第15回　まとめ

【備考】
事前学習の指示
コンピュータ操作に関する基本的知識を修得していることが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理演習Ｉｂ　05＜春＞	
義　永　忠　一	２単位

【講義概要】
経済情報や経済統計データの入手方法・検索方法について演習を行い、さらにそれらの利活用について演習を行う。インターネットに点在する経済情報資源・経済統計データの詳解、検索方法とその利用方法に関する解説と演習、経済統計の入手方法と加工方法に関する解説と演習などがテーマとなる。

【学習目標】
情報システム、特に経済情報システム、統計データベースの活用法への習熟をめざす。さらに、取得した文字情報や統計データの加工分析法の基礎を学び、より高度な学習への足がかりとすることをめざす。

【講義計画】
第１回　新聞社・通信社の経済情報へのアクセス
第２回　行政機関の経済情報へのアクセス
第３回　統計資料・調査レポートへのアクセス
第４回　地域と企業活動に関する経済情報源の検索
第５回　経済統計データとは
第６回　経済統計データの検索と入手
第７回　経済統計データの整理・グラフ化
第８回　記述統計手法（平均・分散）
第９回　記述統計手法（相関・回帰）
第10回　記述統計手法（クロス集計）
第11回　人口・労働データの分析
第12回　物価・企業データの分析
第13回　景気指標・ビジネスサーベイの分析
第14回　国民経済計算データによる日本経済の分析

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　70%

【教科書】
オリジナル資料をコピーして配布します。

【参考文献】
適宜、指示します。

【備考】
準備学習の指示
第１回目の時に、説明をします。主に、当日の内容を各自で自習し、スキルを確実に身につけることです。

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理演習Ⅱ　＜秋集＞	
荒　木　英　一	４単位

【講義概要】
プログラミングの基本作法と、経済学（社会科学）への応用例を学びます。最初は、統合環境（R）での簡単なスクリプト作成から入ります。慣れてきたら、より高度なテクニック（Unixの操作とシェルスクリプト、RubyもしくはC言語のプログラミング）に挑戦しましょう。
プログラミングの基本作法を習得すると、人にはできないことを、より効率的に素早くできるようになります。ソフトに最初から備わっている機能を使うだけでなく、自分で考えて工夫して、より賢くコンピュータを活用できるからです。
講義内容は難しくはありませんが、プログラムのロジックをじっくり辛抱強く追っていく姿勢が必要です。でも、我慢して基本を習得した後には、人には味わえない楽しさや心強さがあなたを待っているはず。プログラミングを学んで、コンピュータ活用の世界（視野）を広げてみませんか。

【学習目標】
（１）プログラミングの基本作法の習得
（２）経済学（社会科学）での応用例にふれる

【講義計画】
第１回　プログラミングことはじめ
第２回　変数とは
第３回　いろんなグラフ
第４回　おカネの計算いろいろ
第５回　変数の型
第６回　配列とは
第７回　反復処理
第８回　条件分岐
第９回　いろんな演算子
第10回　関数の自作（１）
第11回　関数の自作（２）
第12回　データ加工（１）
第13回　データ加工（２）
第14回　シミュレーション（１）
第15回　シミュレーション（２）
第16回　Unix(Linux)とは
第17回　Unixコマンド（１）
第18回　Unixコマンド（２）
第19回　Unixコマンド（３）
第20回　シェルスクリプト
第21回　C言語入門（１）
第22回　C言語入門（２）
第23回　C言語入門（３）
第24回　C言語入門（４）
第25回　C言語入門（５）
第26回　シェルスクリプトとの連携
第27回　応用分析（１）
第28回　応用分析（２）
第29回　試験
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%

科目名　クラス　講義区分	
経済情報処理論　＜秋集＞	
井　田　憲　計	４単位

【講義概要】
経済学部生のための情報処理基礎を講義します。つまり、コンピュータのハードウェアとソフトウェアの仕組みを中心に情報処理の基礎知識を解説するとともに、あわせて、経済学におけるコンピュータ利用の現状と可能性について概説します。

【学習目標】
講義の目標は、コンピュータやネットワークの基本的な仕組みをおさえて「賢く正しい」使い方を身につけること、経済学（社会科学）学習へコンピュータを活用していく手がかりをつかんでもらうことです。

【講義計画】
第１回　コンピュータとは(コンピュータの種類、パーソナルコンピュータの機能)
第２回　情報社会とコンピュータ
第３回　コンピュータによる情報の表現
第４回　コンピュータによる計算の仕組み
第５回　コンピュータによる情報処理の仕組みと構成装置
第６回　パーソナルコンピュータの仕組み
第７回　ソフトウェアの構成
第８回　オペレーティングシステム
第９回　アプリケーションソフトウェア(１)
第10回　アプリケーションソフトウェア(２)
第11回　アプリケーションソフトウェア(３)
第12回　コンピュータ・ネットワーク(１)
第13回　コンピュータ・ネットワーク(２)
第14回　コンピュータ・ネットワーク(３)
第15回　学内の情報環境について
第16回　経済学の研究・学習とコンピュータ１(インターネット資源の活用)
第17回　経済学の研究・学習とコンピュータ２(統計処理)
第18回　経済学の研究・学習とコンピュータ３(シミュレーション)
第19回　プログラミング言語の種類と特徴
第20回　アルゴリズムと流れ図
第21回　プログラミングの基礎(１.データの型と構造)
第22回　プログラミングの基礎(２.反復処理と条件分岐)
第23回　プログラミングの基礎(３.関数とライブラリ)
第24回　プログラミングの基礎(４.効率的アルゴリズムの選択と設計)
第25回　プログラミングの基礎(５.データの整列法)
第26回　プログラミングの基礎(６.線形探索と二分探索法)
第27回　計測と制御
第28回　経済学とコンピュータ
第29回　試験・まとめ
第30回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　40%　レポート　30%　出席　30%
[中間レポート](配分30%)は学期途中に一回実施、[出席・講義時間中の小テスト](配分30%)は不定期に実施する予定です。

【教科書】
必要に応じ、プリント等を配布します。

【参考文献】
大島篤(著)『３DCGでよくわかる パソコン解体全書』高陵社書店(税込￥3150)　ISBN:978-4771106543

【備考】
［準備学習について］　受講生には予習に加えて、空き時間等を利用し積極的に課題に取り組むことが求められます。

科目名　クラス　講義区分	
経済数学　＜秋集＞	
三　原　裕　子	４単位

【講義概要】
本講義では経済学を理解する上で、最低限必要な数学および応用問題を解くために必要となる数学の知識を学ぶことを目的とします。経済学では、どの主体（消費者、企業、政府）のどのような行動に注目するかによって、必要となる数学の知識が異なります。さらに、連立方程式の解を求めるために、代入法、加減法、行列という３つの方法を用いても同じ解が導き出せるのと同様に、ある１つの結論を導くためにその方法として、複数の数学的な手法が存在する事があります。よって、経済学をより深く理解するためには、自分自身が使える「数学の知識」という引出しをより多く持っておくことは非常に有益であり、時と場合によってどの引出しをあけて使うか、という判断が的確に出来なければなりません。
そこで本講義では、この引き出しを増やすべく、経済学で必要となる数学的な手法を幅広く勉強していきます。

【学習目標】
本講義の目標は、経済学の基礎からある程度の応用にまで対応できるよう、数学の知識を養い、かつ理論的に分析できる力も同時に付けていくことを目標とします。

【講義計画】
第１回　ガイダンスおよびアンケート
第２回　方程式と関数
第３回　連立方程式の復習
第４回　連立方程式を用いた経済学の応用例
第５回　連立方程式を用いた経済学の応用例
第６回　関数とは？
第７回　経済学で登場する主な関数
第８回　一変数関数の微分法
第９回　一変数関数の微分を用いた経済学での応用例
第10回　一変数関数の微分を用いた経済学での応用例
第11回　多変数関数の微分法（偏微分）
第12回　偏微分を用いた経済学での応用例
第13回　他変数関数の微分法（全微分）
第14回　全微分を用いた経済学での応用例
第15回　合成関数の微分法
第16回　合成関数を用いた経済学での応用例
第17回　ラグランジュ乗数法
第18回　ラグランジュ乗数法による最適制御問題
第19回　ラグランジュ乗数法による最適制御問題
第20回　確率
第21回　確率を用いた経済学での応用例
第22回　差分方程式
第23回　差分方程式
第24回　差分方程式を用いた経済学での応用例
第25回　差分方程式を用いた経済学での応用例
第26回　行列
第27回　行列を用いた経済学での応用例
第28回　経済学（ミクロ経済学、マクロ経済学）の総まとめとしての問題演習

【成績評価の方法】
試験　60%　レポート　０%　出席　40%
試験の内訳として、小テスト、中間テスト、学期末試験を予定しています。また、これとは別に宿題を課すことがありますが、こちらは提出をもって小テストと同じ扱いにします。

【参考文献】
E.ドウリング著　大住栄治/川島康男訳　『入門例題で学ぶ経済数学』CPE出版株式会社　2004年
矢野健太郎・石原繁編　『微分積分』　裳華房　1991年

【備考】
テキスト指定はしません。代わりにレジメを適宜配布します。
【準備学習の指示】
講義開始前にあらかじめ予習して頂くものはありません。ただし、授業が始まるとレジュメを配布し講義を進めていきますので、その際には前もってレジュメに目を通すなどの予習を心がけてください。
また、授業では頻繁に図を用いますので、定規は必ず持参して下さい。

科目名　クラス　講義区分	
経済政策　＜春集＞	
津　田　直　則	４単位

【講義概要】
経済政策は政府の目標と手段の関係について議論する学問分野です。制度やシステムレベルの議論では経済体制論になります。またマクロやミクロの経済理論と関係してくる政策論もあります。最初は経済政策思想や経済体制論を取り上げ、授業の後半では、経済政策の各論や日本経済における具体的な政策問題を扱います。

【学習目標】
経済政策論の背景には思想や理論があること、また、思想や理論に関する見解の相違がどのように経済政策論に反映するかを理解できるようにします。2010年度は、金融危機による不況の広がりと、世界文明が転換していく問題を経済体制論としていくつもの章で大きく取り上げます。

【講義計画】
第１回　授業スケジュールと現代社会の歴史的意味を説明し第１章の経済政策の課題へとつなぐ。
第２回　第１章　現代経済と経済政策論の課題
第３回　第２章　新自由主義とアメリカ経済１　新自由主義思想
第４回　第２章　新自由主義とアメリカ経済２　アメリカ経済の実態
第５回　第２章　新自由主義とアメリカ経済３　金融恐慌と世界不況
第６回　第３章　新しい経済体制１　３つの危機と新しい経済体制の方向
第７回　第３章　新しい経済体制２　非営利セクター
第８回　第３章　新しい経済体制３　世界の協同組合１
第９回　第３章　新しい経済体制４　世界の協同組合２
第10回　第３章　小テスト
第11回　第４章　市場機構と経済政策１　ミクロ経済学と効率
第12回　第４章　市場機構と経済政策２　市場の失敗と経済政策
第13回　第４章　市場機構と経済政策３　マクロ経済理論と財政金融政策
第14回　第４章　市場機構と経済政策４　経済理論と経済政策の誤り
第15回　第５章　日本経済と経済政策１　日本の財政構造と金融秩序
第16回　第５章　日本経済と経済政策２　ケインズ派と新古典派の論争１
第17回　第５章　日本経済と経済政策３　ケインズ派と新古典派の論争２
第18回　第５章　日本経済と経済政策４　雇用と政策１
第19回　第５章　日本経済と経済政策５　雇用と政策２
第20回　小テスト
第21回　第６章　資源・エネルギー・環境・食料問題１　問題の全体像
第22回　第６章　資源・エネルギー・環境・食料問題２　歴史的経緯と実態１
第23回　第６章　資源・エネルギー・環境・食料問題３　歴史的経緯と実態２
第24回　第６章　資源・エネルギー・環境・食料問題４　政策的課題
第25回　第７章　新しい経済体制と地域社会１　３つの危機と地域社会
第26回　第７章　新しい経済体制と地域社会２　南大阪地域社会の再生構想
第27回　第７章　新しい経済体制と地域社会３　社会的企業
第28回　講義の振り返りまたは期末テスト

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　10%　出席　０%
小テストを２回行い評価に加味します。Ｄ評価または小テスト欠席者にはレポート提出の機会があります。レポート10%とはその意味です。

【教科書】
なし

【参考文献】
授業資料は授業中に配布します

科目名　クラス　講義区分	
経済成長論　＜秋集＞	
西　川　憲　二	４単位

【講義概要】
世界をみると、多数の経済的に貧しい国々と少数の豊かな国が存在する。この事実から豊かになることが如何に困難であるかがわかる。なぜ世界に貧しい国と豊かな国が現存するのか、その理由を歴史の観点からと、経済理論の観点から考察する。

【学習目標】
経済発展の歴史的背景と、経済成長理論の基礎を修得することを学習目的とする。

【講義計画】
第１回　経済成長とは
第２回　経済覇権の歴史概括
第３回　中世から近代へ１
第４回　中世から近代へ２
第５回　遠隔地商業の発達
第６回　大航海
第７回　ポルトガルの繁栄
第８回　スペインの繁栄
第９回　オランダの繁栄
第10回　フランスの繁栄
第11回　ドイツの繁栄
第12回　イギリスの繁栄
第13回　イギリスの外交戦略
第14回　イギリスの産業革命
第15回　アメリカ合衆国の繁栄
第16回　経済成長は必要か
第17回　経済成長の定義
第18回　経済力の測定方法
第19回　日本のGDPの構成
第20回　経済成長の歴史的事実に関する７つの特徴
第21回　労働増加型技術進歩
第22回　先進国での技術進歩の概要
第23回　知的財産権
第24回　GDPの決定メカニズム
第25回　所得・支出分析
第26回　フローとストック
第27回　恒常成長経路
第28回　経済発展のパターン
第29回　試験

【成績評価の方法】
１回の小テストと３回のレポート(各10点満点)と定期試験(100点満点)の合計で、80点以上をＡ、70点以上をＢ、60点以上をＣ、60点未満をＤとする。

【参考文献】
キンドルバーガー「経済大国興亡史」岩波書店、2002年
サムエルソン・ノードハウス「サムエルソン経済学」岩波書店
後藤晃「ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝと日本経済」岩波新書、2000年

か行

科目名　クラス　講義区分	
経済地理学　＜秋集＞	
野　尻　　亘	4単位

【講義概要】
経済地理学は経済活動や産業活動が、どの地域に、具体的に、どうして成立するのかを研究対象とする学問である。その理論として、産業や企業がどのような場所に立地し、集積するのかという立地論や集積論がある。経済のグローバル化と産業空洞化のもとで、かっては地場産業の担い手であった中小企業でさえ、低廉な労働力を求めて、アジアに進出している。このような状況のなかで各地域を均等に発展させることは可能だろうか。あるいは大都市圏や先進国に経済活動が集中する不均等発展はいたしかたないことなのであろうか。理論研究を行う。

【学習目標】
具体的な地域や抽象的な空間における産業・企業の立地・集積や都市の形成について、社会的・歴史的背景とともに、新旧の経済理論との関係のもとで学習する。中学や高校の地理の授業のように地名・地図が関係することはないが、大学の経済学の教科書に書かれていることと、数学は関係するので、注意されたい。

【講義計画】
第１回　経済地理学とは何か　クルーグマンの学説を事例として
第２回　経済理論と地理理論
第３回　地理学の対象　地域と空間
第４回　等質地域と結節地域
第５回　絶対位置と相対的距離
第６回　空間の生産と空間の消費　ギデンズの学説を中心に
第７回　古典的地理学　生態学と景観論
第８回　地理学における例外主義批判　計量地理学の成立
第９回　批判的地理学・マルクス主義地理学の誕生
第10回　資本主義世界の空間的形成　大航海時代から近代世界システムの形成
第11回　産業革命と植民地市場の創設
第12回　世界主要工業地域の形成
第13回　戦前日本の工業地域形成
第14回　高度経済成長期の産業立地
第15回　フォーディズムの空間編成
第16回　オイルショック以降の産業構造転換にともなう立地変動
第17回　ポスト・フォーディズムの空間編成
第18回　古典的立地論における距離と輸送費の概念
第19回　チューネンの農業立地論
第20回　ウェーバーの工業立地論
第21回　マーシャルの外部経済・集積論
第22回　レッシュの市場立地論
第23回　クリスタラーの中心地理論
第24回　クルーグマンの新経済地理学
第25回　シカゴ学派都市社会学
第26回　新都市社会学の都市研究
第27回　ハーヴェイの建造環境論
第28回　ポストモダン都市の空間構造
第29回　ポストモダンの経済地理学
第30回　まとめ　今後の経済地理学の課題

【成績評価の方法】
試験　100%

【教科書】
杉浦章介 都市経済論 岩波書店

【参考文献】
授業中に適時、関係する重要な欧米の論文、日本の著作については紹介します。日本語の文献については、大学図書館で学習してください。

【備考】
授業は生き物である。経済地理学の新しい学説は海外で次々と発表されるので、授業者がはそれらを追っていくなかで、当然シラバスの授業内容・順序を最新の学説に合わせて、修正・変更することもありうる。予め承知されたい。経済学・社会学の専門用語については、専門の事典・百科事典で予習および復習確認し、なお不明な点があれば質問に来ること。

科目名　クラス　講義区分	
経済統計　＜春集＞	
桂　　昭　政	4単位

【講義概要】
経済統計は、新聞紙上等でGDP、失業率、消費者物価指数等の経済指標が報告されるごとく事実認識手段として、また理論あるいは仮説の検証ないし実証手段として今日よく利用されている。本講義では日本経済の全体像を把握するうえで、あるいは日本経済の現状を理解するうえで肝要なSNA統計、とりわけ国民所得統計の特質と利用について、および個別分野の統計である産業統計、家計統計、労働統計、物価統計等の特質ないし利用を中心に講義を進めていく。なお、パソコンによる計算、グラフ作成等の実習を可能な限り行い、講義内容の一層の理解に役立てるようにする。

【学習目標】
講義を通じて各種の経済指標、経済統計の理解を促進するとともに、日本経済の現状についての理解も深めることができればと思っている。

【講義計画】
第１回　１.この授業に関するガイダンス
なお、データ処理実習等の関係で順序が変動する場合がありうる。
第２回　２.SNA統計と日本経済の全体像
第３回　３.国民所得統計とGDP指標
第４回　４.国民所得統計とGDE指標
第５回　５.経済統計と統計分類
第６回　６.国民所得統計と生産構造、所得分配構造、蓄積構造
第７回　７.国民所得統計と統計分析（１）－寄与度、寄与率
第８回　８.国民所得統計と統計分析（２）－寄与度、寄与率
第９回　９.産業に関する統計－事業所統計の解説
第10回　10.事業所統計から見た日本の産業構造
第11回　11.産業構造と統計分析－特化係数
第12回　12.労働に関する統計（１）－労働力調査の解説
第13回　13.労働力調査から見た就業構造－労働力率、完全失業率
第14回　14.労働に関する統計（２）－賃金構造基本調査の解説
第15回　15.賃金構造基本調査から見た賃金構造
第16回　16.労働に関する統計（３）－毎月勤労統計調査の解説
第17回　17.毎月勤労統計調査から見た労働時間の実態
第18回　18.家計に関する統計－家計統計調査の解説
第19回　19.家計調査から見た家計消費の実態
第20回　20.貯蓄動向調査と貯蓄分布
第21回　21.家計の収入、貯蓄、資産の格差構造とローレンツ曲線、ジニ係数
第22回　22.家計の収入、貯蓄、資産データからローレンツ曲線の作成（１）
第23回　23.家計の収入、貯蓄、資産データからローレンツ曲線の作成（２）
第24回　24.家計の収入、貯蓄、資産データからジニ係数の計測（１）
第25回　25.家計の収入、貯蓄、資産データからジニ係数の計測（２）
第26回　26.指数－個別指数と総合指数、指数算式
第27回　27.物価指数の計測（１）
第28回　28.物価指数の計測（２）
第29回　29.学期末試験

【成績評価の方法】
試験　90%　出席　10%
出席評価は10%と低いが小テストの実施→翌授業の小テストの講評を通じて授業内容の理解が深まるとともにそれが期末テストに影響するから10%ということで授業への出席をあなどってはならない。

【教科書】
開講時に指示する

【備考】
【準備学習の指示】
常日頃から新聞等の経済記事に出てくるGDP、完全失業率、ジニ係数等々の主要な経済指標に関心をもち、授業での経済指標の見方、使い方の説明を受け入れやすいようにすること。つまり、絶えず経済指標の載っている記事等に関心をもって授業にのぞむことを心がける。

科目名　クラス　講義区分	
経済法　＜通期＞	
牛　丸　與志夫	4単位

【講義概要】
独占禁止法は、企業活動を規制することにより、公正かつ自由な競争を促進し、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進することを目的とするものである。独占禁止法の理解には、法律の条文を直接、読み、また、判決および審決における具体的な事例の検討が不可欠である。講義では、①テキスト、②独禁法判決・審決判例百選を常時、携帯すること。

【学習目標】
講義では、独占禁止法の基本的知識と応用力の取得を目標とするものである。

【講義計画】
第１回　独占禁止法の目的・構成と手続き―　独占禁止法の基礎概念
第２回　公正取引員会の組織と構成
第３回　行政的救済―違反事件の処理手続
第４回　刑事制裁
第５回　民事上の救済手段
第６回　私的独占の禁止
第７回　カルテルの規制
第８回　カルテルの形態
第９回　国際カルテルの規制
第10回　事業者団体の活動規制（１）
第11回　事業者団体の活動規制（２）
第12回　行政指導とカルテル
第13回　カルテルの適用除外
第14回　価格の同調的引上げの理由報告制度
第15回　結合・集中規制―合併
第16回　分割・役員兼任等
第17回　独占的状態に対する措置
第18回　不公正な取引方法の概説
第19回　排他条件付取引
第20回　再販売価格の拘束
第21回　拘束条件付取引
第22回　不当な差別的取扱い
第23回　不当対価
第24回　不当な顧客誘引・強制―欺まん的顧客誘引
第25回　抱き合わせ販売
第26回　取引上の地位の不当利用
第27回　競争者の事業活動の不当妨害
第28回　知的財産権と独占禁止法
第29回　政府規制と独占禁止法
第30回　国際取引と独占禁止法

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%
期末試験で評価する。

【教科書】
岸井大太郎その他４名　経済法―独占禁止法と競争政策（第５版補訂）有斐閣
厚谷襄児・稗貫俊文編　独禁法審決・判例百選（第６版）有斐閣

【参考文献】
土田和博・岡田外司博『演習ノート経済法』法学書院

科目名　クラス　講義区分	
刑事訴訟法　＜秋集＞	
大久保　正　人	4単位

【講義概要】
新聞やテレビなどで報道される刑事事件の数々は、「捜査の端緒」「捜査」「公訴提起」「公判手続」「裁判（判決）」「刑の執行」という、刑事訴訟法が規定する手続の流れに沿って処理されています。
刑事訴訟法の目的は、人権を保障しながら真実を発見することにありますが、ここに「真実発見」という利益と「人権保障」という利益は、本来、相容れない性質を有することから、この利益の対立が、刑事手続における理論と現実の「溝」を生み出しています。
本講義においては、「真実発見」と「人権保障」という利益の対立構造を理解し、それらを合理的に調和させる方法について学習します。

【学習目標】
本講義は、刑事訴訟法を初めて学ぶ学生を対象として、法の「全体像」を把握することを目標とします（細かい「論点」の研究は行いません）。
毎回、詳細なレジュメを配布します。板書は一切しませんので、講義中は、その内容について、頭の中で「イメージ」を膨らませてみてください。

【講義計画】
第１回　刑事訴訟法・入門（１）
第２回　刑事訴訟法・入門（２）
第３回　刑事訴訟法・入門（３）
第４回　刑事訴訟法・入門（４）
第５回　刑事訴訟法・入門（５）
第６回　捜査（１）　捜査の端緒
第７回　捜査（２）　捜査の原則
第８回　捜査（３）　身柄の確保
第９回　捜査（４）　供述証拠の獲得
第10回　捜査（５）　物的証拠の収集 ①
第11回　捜査（６）　物的証拠の収集 ②
第12回　捜査（７）　被疑者の防御権
第13回　公訴提起（１）　被疑者から被告人へ
第14回　公訴提起（２）　訴因と公訴事実
第15回　公判手続（１）　総論
第16回　公判手続（２）　証拠 ① 総説
第17回　公判手続（３）　証拠 ② 要件（A）
第18回　公判手続（４）　証拠 ③ 要件（B）
第19回　公判手続（５）　証拠 ④ 伝聞
第20回　公判手続（６）　証拠 ⑤ 自白
第21回　裁判
第22回　刑の執行（１）　刑罰制度・犯罪者の処遇
第23回　刑の執行（２）　死刑
第24回　総合（１）　少年・精神障害者に対する手続
第25回　総合（２）　裁判員制度 ① 基礎知識編
第26回　総合（３）　裁判員制度 ② 発展編
第27回　おわりに（１）　総復習 ①
第28回　おわりに（２）　総復習 ②
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%
原則として「試験」のみで評価する予定ですが、状況によっては、「出席」を考慮する可能性もあります。

【教科書】
渡辺咲子　刑事訴訟法講義（第５版）不磨書房

【参考文献】
必要に応じて紹介します。

【備考】
「準備学習の指示」
予習：テキストの該当分野を読んできてください。
復習：配布したレジュメの内容について再確認してください。

科目名　クラス　講義区分	
刑法各論　＜秋集＞	
江　藤　隆　之	４単位

【講義概要】
刑法は、犯罪と刑罰について定めた法律です。刑法各論の講義では、刑法典に定められた犯罪の個別の成立要件およびそれに対応する刑罰の種類および分量の確定を探究します。具体的には、個人的法益に対する罪、社会的法益に対する罪、国家的法益に対する罪の順に講義します。刑法各論を学ぶにあたっては、理解すべきことが多いので、予習・復習を十分にしてください。
なお、学習を助けるため、毎回プリントを配布します。

【学習目標】
各犯罪の成立要件を通説・判例の立場を中心に理解することを目標にします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス・刑法各論の意義と対象
第２回　殺人の罪・同意殺人の罪
第３回　暴行の罪・傷害の罪
第４回　過失傷害の罪
第５回　堕胎の罪・遺棄の罪
第６回　脅迫の罪・逮捕および監禁の罪
第７回　略取および誘拐の罪
第８回　性的自由を害する罪
第９回　住居を侵す罪・秘密を侵す罪
第10回　名誉に対する罪・信用に対する罪・業務に対する罪
第11回　財産犯総説
第12回　窃盗の罪・強盗の罪
第13回　詐欺の罪・恐喝の罪
第14回　横領の罪・背任の罪
第15回　盗品等に関する罪・毀棄および隠匿の罪
第16回　騒乱の罪・放火および失火の罪
第17回　出水および水利に関する罪・往来妨害の罪
第18回　通貨偽造の罪
第19回　文書偽造の罪
第20回　有価証券偽造の罪・印章偽造の罪
第21回　公衆衛生に対する罪
第22回　風俗に対する罪
第23回　国家の存立に対する罪・内乱および外患に関する罪
第24回　国家の作用に関する罪・公務の執行を妨害する罪
第25回　逃走の罪・国家の司法作用に対する罪
第26回　汚職の罪
第27回　外国に対する罪・国交に関する罪
第28回　特別刑法の罪
第29回　学年末試験

【成績評価の方法】
原則として試験結果に基づいて評価します。ただし、出欠をとった場合やレポートを課した場合などは、その評価も加味します。

【教科書】
川端博　レクチャー刑法各論　法学書院

【参考文献】
講義中に適宜指示します。

【備考】
講義には六法を持参してください。
・02～05生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
刑法総論　＜春集＞	
江　藤　隆　之	４単位

【講義概要】
刑法は、犯罪と刑罰について定めた法律です。刑法総論の講義では、犯罪成立要件の一般的原理を探究します。具体的には、刑法への導入、犯罪論体系の意義、犯罪論体系の内容、刑罰論の順に講義します。刑法総論を学ぶにあたっては、体系的な思考が求められますので、予習・復習を十分にしてください。
なお、学習を助けるため、毎回プリントを配布します。

【学習目標】
刑法の体系を通説的に理解することを目標にします。

【講義計画】
第１回　ガイダンス・刑法の意義と機能
第２回　刑法および刑法理論の歴史的発展
第３回　刑法の基本原則・刑法の法源及び解釈
第４回　刑法の適用範囲・犯罪の意義・種類
第５回　犯罪論の体系・一般的行為概念
第６回　構成要件の概念
第７回　犯罪の主体・法人の犯罪能力
第８回　行為
第９回　因果関係
第10回　構成要件的故意・過失
第11回　構成要件的事実の錯誤
第12回　不真正不作為犯
第13回　違法性の概念
第14回　一般的正当行為
第15回　これまでの復習
第16回　正当防衛・緊急避難
第17回　正当化事情の錯誤
第18回　責任の概念
第19回　責任能力・原因において自由な行為
第20回　違法性の認識とその可能性・期待可能性
第21回　未遂犯の処罰根拠・実行の着手
第22回　不能犯
第23回　中止未遂
第24回　共犯の基本概念
第25回　共同正犯
第26回　教唆犯・従犯
第27回　罪数論
第28回　刑罰論
第29回　学期末試験

【成績評価の方法】
原則として試験結果に基づいて評価します。ただし、出欠をとった場合やレポートを課した場合などは、その評価も加味します。

【教科書】
川端博　レクチャー刑法総論　第２版 法学書院

【参考文献】
講義中に適宜指示します。

【備考】
講義には六法を持参してください。
・02～05生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
刑法入門　＜春＞	
大久保　正　人	２単位

【講義概要】
マスメディアによる連日の犯罪報道などから、「犯罪」に対して怒りや不安を覚え、犯罪と刑罰を規定する「刑法」や、刑法を手続的に実現する「刑事訴訟法」に対して興味を抱いた学生は多いでしょう。また、「犯罪はどうして発生するのか」、「犯罪をどのように防止（抑止）すべきなのか」、「犯罪（者）にどのように対応すべきであるのか」など、「刑事政策」的な視点から自問した学生もいるでしょう。
刑法入門においては、これから「刑法（総論・各論）」「刑事訴訟法」等の専門科目を本格的に履修する前段階として、刑事法の全体像を幅広く学習することを通して、その基礎となる知識・感覚を習得していきます。

【学習目標】
本講義は、刑法（刑事法）を初めて学ぶ学生を対象として、専門的に「刑法総論」「刑法各論」「刑事訴訟法」を履修するのに際して必要となる「基礎知識」「法的感覚」を習得することを目標にします（細かい「論点」の研究は行いません）。
毎回、詳細なレジュメを配布します。板書は一切しませんので、講義中は、その内容について、頭の中で「イメージ」を膨らませてみてください。

【講義計画】
第１回　はじめに（刑事法の世界）
第２回　刑法総論（１）
第３回　刑法総論（２）
第４回　刑法総論（３）
第５回　刑法各論（１）
第６回　刑法各論（２）
第７回　刑法各論（３）
第８回　刑法各論（４）
第９回　刑事訴訟法（１）
第10回　刑事訴訟法（２）
第11回　刑事訴訟法（３）
第12回　刑事訴訟法（４）
第13回　刑事政策
第14回　おわりに（総復習）
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%　レポート　０%　出席　100%
原則として「試験」のみで評価しますが、欠席日数に応じて、試験の点数から「減点」を行う予定です。

【教科書】
本間一也・城下裕二・丹羽正夫（編著）New Live 刑事法 成文堂

【参考文献】
必要に応じて紹介します。

【備考】
「準備学習の指示」
予習：テキストの該当分野を読んできてください。
復習：配布したレジュメの内容を再確認してください。
・10J生対象

科目名　クラス　講義区分	
計量経済学　＜春集＞	
荒　木　英　一	４単位

【講義概要】
現実世界のデータを分析して、ある主張が間違っていないかどうかを検証したり、あるいは将来の経済の動きを予測したりするのが、計量経済学の目的です。この講義では、コンピュータ（表計算ソフトと統計ソフト）を活用しながら、まず、データ処理の基本の基本からはじめて、いくつかの分析手法を学びます。ひととおりの基礎知識を習得した後に、具体的な経済分析例を紹介します。プロ野球の順位予想、学歴・人種・性別による賃金差別、死刑制度は凶悪犯罪の抑制に効果を持つか、世界・地域における貧富格差は解消に向かうか、失われた10年を経て日本経済に起きた構造変化とは何だったのかといった問題を、データに基づいて実証的に考察してみましょう。

【学習目標】
（１）計量経済分析の基本知識を身につけること
（２）表計算ソフト（Excel）をデータ分析へ活用する手法を身につけること
（３）統計ソフト（R）の基本操作を身につけること

【講義計画】
第１回　平均・分散
第２回　度数分布
第３回　散布図・相関係数
第４回　回帰分析とは何か
第５回　最小二乗法の公式
第６回　単回帰の活用例いろいろ
第７回　決定係数と単回帰分析のまとめ
第８回　重回帰分析
第９回　推計結果の評価
第10回　要因分解
第11回　確率分布（１）
第12回　確率分布（２）
第13回　区間推定の演習
第14回　区間推定の演習
第15回　統計ソフトの基本操作（１）
第16回　統計ソフトの基本操作（２）
第17回　回帰における統計的推論（１）
第18回　回帰における統計的推論（２）
第19回　ｔ検定の演習
第20回　ダミー変数
第21回　応用分析（１）ビデオ教材導入の効果
第22回　応用分析（２）大卒と高卒の賃金格差
第23回　応用分析（３）平均寿命の国際比較
第24回　応用分析（４）死刑制度は凶悪犯罪を抑制するか
第25回　応用分析（５）人種・性別賃金格差は存在するか
第26回　応用分析（６）プロ野球の順位予想
第27回　応用分析（７）収束仮説の検証
第28回　応用分析（８）構造変化の検証
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%

【参考文献】
すべての講義資料と実習用教材は、担当者の個人 Web サイトから参照可能です。
http://rio.andrew.ac.jp/araki/

科目名　クラス　講義区分	
原価計算システム　＜春＞	
坂　手　恭　介	２単位

【講義概要】
「製品原価」の計算をするための「基礎・入門」に重点を置く。①まず、日常的な営業、企業活動の切り口との関連で原価計算のイメージが沸くようにガイドする。つづいて、ヒト、モノ、サービスの消費が原価として把握されるプロセスを会計的な仕組のなかで理解し表現できるように、問題を解きながら習熟させる。③この段階で、市場取引の仕組みと製品生産の大まかな理解を得たうえで、製品別原価の計算について基礎力を涵養する。

【学習目標】
①原価計算の基礎用語、計算方法に慣れる。
②「数字は苦手」という意識を克服した状態に到達する。
③日本商工会議所主催の簿記検定試験２級（工業簿記）に独力で取り組める。

【講義計画】
第１回　企業会計の基礎
第２回　原価と原価計算の基礎
第３回　材料費計算
第４回　労務費計算、経費計算
第５回　製造間接費計算
第６回　部門別原価計算
第７回　活動基準原価計算
第８回　単純総合原価計算
第９回　工程別総合原価計算
第10回　その他の総合原価計算
第11回　標準原価計算（１）
第12回　標準原価計算（２）
第13回　直接原価計算（１）
第14回　直接原価計算（２）
第15回　総合演習（期末テスト）

【成績評価の方法】
試験　60%　出席　40%

【教科書】
加登豊編著 インサイト原価計算 中央経済社

【参考文献】
岡本清・廣本敏郎『簿記講義（工業簿記）』平成21年度版、中央経済社。

【備考】
【準備学習の指示】
前回の講義で指示された練習問題を解いてくること。

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［２］－＜2010＞		
野　田　浩　之 吉　井　　泉 吉　井　　泉 眞　来　省　二	101＜通期＞ 102＜通期＞ 103＜通期＞ 104＜通期＞	２単位

【講義概要】
本演習では、学校教育の中でも小学校から取り入れられ、私たちにとっても身近な競技となったバスケットボールの特性を理解し、実技を通して必要な技能を習得します。さらに実際にゲームを通じて、スポーツマンシップやルールについて理解を深めていただきたいと思います。

【学習目標】
本演習は、バスケットボールを通してチームメートと協力することや、自らが積極的にスポーツを楽しむ精神を学んでいただきたいと思います。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　ファンドリル・身体ならし
第３回　基本動作（ボールの持ち方、フットワーク、ドリブル）、簡易ゲーム・１
第４回　基本技術（チェストパス、ワンハンドプッシュパス、ラテラルパス）、簡易ゲーム・２
第５回　基本技術（ドリブル、チェンジ、ダックイン）、簡易ゲーム・３
第６回　基本技術（ブレイクスルー、キャリーセーフリー）、簡易ゲーム・４
第７回　ボールコントロール
第８回　シュート
第９回　パス
第10回　１vs１
第11回　２vs２
第12回　３vs３
第13回　ボールのもらい方
第14回　パス＆ランプレイ①
第15回　パス＆ランプレイ②
第16回　スクリーンプレイ①
第17回　スクリーンプレイ②
第18回　トランジッション①
第19回　トランジッション②
第20回　リーグ戦①
第21回　リーグ戦②
第22回　リーグ戦③
第23回　リーグ戦④
第24回　ゲームの企画・運営、ゲーム分析①
第25回　ゲームの企画・運営、ゲーム分析②
第26回　ゲームの企画・運営、ゲーム分析③
第27回　ゲームの企画・運営、審判法
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、履修態度、レポートなどから総合評価します。

【備考】
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>		
高橋　ひとみ 高橋　ひとみ 藤木　泰治 松浦　義昌 吉井　　泉 志水　正俊	111<通期> 112<通期> 113<通期> 114<通期> 115<通期> 116<通期>	2単位

【講義概要】
バドミントンは、老若男女を問わず体力や技術にあわせて楽しむことができるため、レクリエーションスポーツとして行われている。今後の生涯スポーツに繋げるために、競技特性を理解し、傷害や障害を招かないで、安全に配慮して実施する方法を習慣づけるため、準備運動やストレッチも重点的に行う。さらに、1年間の運動継続の効果を知るために、各学期の前後に、握力・体重・体脂肪・柔軟性・覚醒時拍数などを計測する。

【学習目標】
まずは、シャトル・ラケットに慣れ、基本的なショットを習得する。その後、簡易ゲームを通してルールを理解し、ゲームを楽しみながら技能の向上を目指す。
自己の体力にあわせてプレイすることも大切であるが、競技スポーツとしてバドミントンを体験し、楽しさ、激しさを実感し、体感してほしい。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
　　競技の紹介、用具、傷害、心構えなど
第2回　シャトルの動きに慣れる
第3回　ラケットに慣れる
第4回　技能練習(1)サーブ、ドロップ、ロブ、ヘアピン、ハイクリア
第5回　技能練習(2)スマッシュ、ドライブ、プッシュ、
第6回　技能練習(3)コンビネーションショット
第7回　技能練習(4)ノック・スマッシュを中心に
第8回　技能練習(5)ダブルスのサーブとレシーブ
第9回　技能練習(6)ダブルスのフォーメーションとパターン練習
第10回　簡易ゲーム(1)ダブルスのルールを確認しながら
第11回　簡易ゲーム(2)
第12回　ゲーム実習(1)
第13回　ゲーム実習(2)
第14回　ゲーム実習(3)
第15回　ゲーム実習(4)
第16回　リーグ戦(1)
第17回　リーグ戦(2)
第18回　リーグ戦(3)
第19回　リーグ戦(4)
第20回　リーグ戦(5)
第21回　リーグ戦(6)これまでの成績を考慮して組替
第22回　技能練習　新チームでのフォーメーションとパターン練習
第23回　リーグ戦(7)
第24回　リーグ戦(8)
第25回　リーグ戦(9)
第26回　リーグ戦(10)
第27回　リーグ戦(11)
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席、学習態度、レポートなどから総合評価をする。

【参考文献】
特になし（必要に応じて資料を配付）

【備考】
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>		
藤木　泰治 高　　成廈	121<通期> 122<通期>	2単位

【講義概要】
サッカーは世界中で多くの人々に楽しまれているスポーツです。ボールひとつあれば「いつでも、どこでも、気軽に」楽しむことができます。
本演習は、ゲームを中心に展開し、楽しく真剣にゲームを行うことを目的とします。サッカーをより楽しむためには技術や戦術の習得も必要となりますし、チームメイトとのコミュニケーションもゲームにおいて大切な要素のひとつです。よってそれらの点を重視し授業を展開します。また、同時にルールや審判法の理解と実践も行います.

【学習目標】
学習目標は以下の通りである。
1．積極的、自発的な授業への参加。
2．積極的なコミュニケーション。
3．基本技術の習得。
4．基本戦術の理解と習得。
5．審判法の理解と実践。

【講義計画】
第1回　ガイダンス・・・授業計画の概略説明
第2回　ボールフィーリング①
第3回　ボールフィーリング②
第4回　ゴールを目指す①　～パス＆コントロール～
第5回　ゴールを目指す②　～パス＆コントロール～
第6回　ゴールを奪う①　～シュート～
第7回　ゴールを奪う②　～突破～
第8回　ボールを奪う＆ゴールを守る
第9回　スモールサイドゲーム①
第10回　スモールサイドゲーム②
第11回　スモールサイドゲーム③
第12回　スモールサイドゲーム④
第13回　審判法の理解と実践
第14回　まとめ
第15回　個人戦術Ⅰ:有効な視野の確保とパスの優先順位
第16回　個人戦術Ⅱ:ポジショニングとチャレンジの優先順位技
第17回　グループ戦術Ⅰ:コンビネーションプレー
第18回　グループ戦術Ⅱ:チャレンジ&カバー
第19回　スモールサイドゲームとプレーの原則
第20回　スモールサイドゲームとゴールを意識したプレー
第21回　リーグ戦①
第22回　リーグ戦②
第23回　リーグ戦③
第24回　リーグ戦④
第25回　リーグ戦⑤
第26回　リーグ戦⑥
第27回　リーグ戦⑦
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
授業内容については、必要に応じて変更する場合がある。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>　123<通期>	
野　田　浩　之	2単位

【講義概要】
本演習では、『指導する』という角度からサッカーに関わってもらいたいと思います。サッカーの指導に必要な技術の習得・戦術の理解はもちろん指導理論・指導方法を学習します。そして実際に小学生を対象に指導の場（サッカー教室）を設けて指導実践を行います。指導実践後はレポートを提出していただいて、評価および次回以降の演習の参考としたいと思います。

【学習目標】
本演習は、サッカーの指導技能の習得・向上を目標としています。さらに実際に地域の小学生を指導するなかで、社会生活において必要なコミュニケーションスキルを向上させ、地域貢献の精神を育んでいただきたいと思います。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　コーチ学①
第３回　コーチ学②
第４回　コーチ学③
第５回　発育・発達論①
第６回　発育・発達論②
第７回　発育・発達論③
第８回　暑熱対策
第９回　プレーの原則①
第10回　プレーの原則②
第11回　プレーの原則③
第12回　プレーの原則④
第13回　Ｍ－Ｔ－Ｍ法
第14回　指導実践のプランニング
第15回　指導実践のリハーサル
第16回　指導実践①
第17回　指導実践②
第18回　指導実践③
第19回　指導実践④
第20回　指導実践⑤
第21回　指導実践⑥
第22回　指導実践⑦
第23回　指導実践⑧
第24回　指導実践⑨
第25回　指導実践⑩
第26回　指導実践⑪
第27回　指導実践⑫
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
予備登録の前に演習概要についてガイダンスを行います。履修希望者は、必ず下記のガイダンスに出席してください。出席しない場合、予備登録ができません。
【ガイダンス（09生対象）】
日程：2010年３月18日（木）、場所：武道場、時間：16時
【ガイダンス（10生対象）】
日程：2010年４月３日（土）、場所：武道場、時間：16時

またサッカー教室は５月～11月の開催を予定しているので、秋学期も継続して履修が可能な学生のみ受講可能となります。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>		
今　西　俊　次 見　正　秀　基 高　　成　廈 松　浦　義　昌 高　　成　廈 今　西　俊　次	131<通期> 132<通期> 133<通期> 134<通期> 135<通期> 136<通期>	2単位

【講義概要】
テニスのポイントは、約８割がミス（ネットやオーバー）によって決まるといわれます。つまり、ポイントを得るために、相手よりも１本多く返球し続けることが重要です。ミスを少なくしポイントを積み重ねるには、体を機能的に使い、再現性の高い技術を身につけることが求められます。
また、ボールを打ち合うことは、ボールを介した対話ともいえます。対話をうまく成立させるためには、くり返し練習すること、相手を認め、ルールを理解し、マナーを身につけることが大切です。テニスのルールやマナーは、われわれが社会生活をスムーズに送るために求められる要素でもあります。

【学習目標】
生涯スポーツとしてテニスを楽しめるよう、スキルの獲得、ルールの理解と審判方法等の習得を目指します。マナーやルールを理解し、課題を明確に練習やゲームに取り組みたいものです。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（体調とスポーツ経験の確認、服装、用具、施設）
第２回　テニスの技術構造
第３回　ラケッティング、グリップと打点の確認、基本姿勢
第４回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第５回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第６回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第７回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第８回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第９回　基本ストロークの確認（ボールの方向、高さ、距離、回転、スピード）
第10回　基本ストローク（ボールのコース判断）、サーブとサービスリターン
第11回　簡易ゲーム（課題の確認）
第12回　課題練習、競技規則の確認（主審の役割、セルフジャッジ）
第13回　ダブルス・ゲーム
第14回　ダブルス・ゲーム
第15回　ラケットワークとフットワークの確認
第16回　ボールコントロール（ボールの方向、距離、高さ、回転、スピード）
第17回　課題練習
第18回　ボールコントロールとポジショニング
第19回　サーブ → サービスリターン → ラリー
第20回　コンビネーションドリル
第21回　簡易ゲーム（ミニテニス、半面、バックコートを使用）
第22回　シングルス・ゲーム（シングルスの戦い方）
第23回　ダブルス・ゲーム（ダブルスの陣形と戦い方）
第24回　ダブルス・ゲーム（チームワークの習得）
第25回　シングルス・ゲーム、ダブルス・ゲーム
第26回　シングルス・ゲーム、ダブルス・ゲーム
第27回　シングルス・ゲーム、ダブルス・ゲーム
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合的に評価します。

【参考文献】
必要に応じ資料を配布します。

【備考】
授業内容については、必要に応じて変更する場合がある。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>		
藤　木　泰　治 松　本　直　也	141<通期> 142<通期>	2単位

【講義概要】
サッカーは多くの仲間を作り、世界共通のスポーツ文化としてあらゆる国々で楽しまれています。室内サッカーはメインアリーナで実施します。1チームの人数を6～7人に編成し、リーグ戦形式で展開します。
サッカーはチームが一体になってゴールを目指すという「共通の目的」を持って楽しむスポーツである。個人戦術をベースに、ゴールするために視野の広いルックアップの姿勢から攻守における切り替えの速さと状況判断・状況認識が大切である。チームプレーを常に意識しながら、室内サッカーのゲームにチャレンジしてもらいます。室内サッカーを生涯スポーツとして生活の中に取り入れ心を豊かに育むことをねらいとします。

【学習目標】
学習目標は以下の通りである。
1．積極的、自発的な授業への参加。
2．積極的なコミュニケーション。
3．試合に必要な基本技術の習得。
4．試合に必要な基本戦術の習得。
5．審判法の理解と実践。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　チーム編成のためのゲーム①　5対5
第3回　チーム編成のためのゲーム②　5対5
第4回　リーグ戦①
第5回　リーグ戦②
第6回　リーグ戦③
第7回　リーグ戦④
第8回　リーグ戦⑤
第9回　リーグ戦⑥
第10回　リーグ戦⑦
第11回　リーグ戦⑧
第12回　リーグ戦⑨
第13回　リーグ戦⑩
第14回　リーグ戦⑪
第15回　まとめ
第16回　チーム編成のためのゲーム①　5対5
第17回　チーム編成のためのゲーム②　5対5
第18回　リーグ戦①
第19回　リーグ戦②
第20回　リーグ戦③
第21回　リーグ戦④
第22回　リーグ戦⑤
第23回　リーグ戦⑥
第24回　リーグ戦⑦
第25回　リーグ戦⑧
第26回　リーグ戦⑨
第27回　リーグ戦⑩
第28回　リーグ戦⑪
第29回　リーグ戦⑫
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。(必要に応じて資料を配布する。)

【備考】
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>　146<通期>	
児　玉　公　正	2単位

【講義概要】
ソフトボールは野球型のスポーツに含まれる。守備側の投手が攻撃側の打者に対し投球を起こすことからプレーが始まる。しかし、この投法が上手投げではなく下手投げを要求する。さらに、投球だけではなく打撃も野球とは全く異なる性質を持つ。特に大きく異なる点は塁間が短いことにある。野球以上に瞬時の判断やスピードが要求される。一方でソフトボールは皆が親しみやすいスポーツの一つとして位置づけられている。職場や地域のレクリエーションスポーツとして接する機会も多い。そのような場面で困らないように、この授業はソフトボールの基礎をマスターし、競技が持つ楽しさと素晴らしさを理解する場としたい。

【学習目標】
投、打、守、そして走、これがソフトボールの運動形態となる。これらの基本を学ぶ機会を提供する。担当する教員は野球が専門である。大学ソフトボール競技の指導も約20年にわたり経験し、野球以上に基本が大切な種目であることを認識した。野球経験者はみなソフトボールをなめてかかっている傾向が強い。それを一掃し、送球、投球、打撃、守備の基本に取り組み、そののち、ゲームを通じてソフトボールの持つ楽しさと素晴らしさを体感する機会とする。なお、初心者にはゲームに取り組む場合でも希望があった場合、常にマンツーマンのクリニックを提供する。雨天時は体育館種目に取り組む。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション（授業展開を紹介）、キャッチボールの基本理論と実践
第2回　打撃練習①　打撃の基本理論と実践（トスバッティング）
第3回　打撃練習②　打撃の基本理論と実践（ロングティ）
第4回　打撃練習③　打撃の基本理論と実践（左右へ打ち分け）
第5回　守備練習①　守備の基本理論と実践（ゴロ）
第6回　守備練習②　守備の基本理論と実践（フライ）
第7回　守備練習③　守備の基本理論と実践（ピックオフプレー、連係プレー）
第8回　審判法とルールの確認（基本と実践）
第9回　ゲーム①※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第10回　ゲーム②※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第11回　ゲーム③※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第12回　ゲーム④※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第13回　ゲーム⑤※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第14回　ゲーム⑥※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第15回　ゲーム⑦※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第16回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第17回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第18回　ゲーム⑧※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第19回　ゲーム⑨※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第20回　ゲーム⑩※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第21回　ゲーム⑪※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第22回　ゲーム⑫※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第23回　ゲーム⑬※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第24回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第25回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第26回　ゲーム⑭※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第27回　ゲーム⑮※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第28回　ゲーム⑯※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第29回　ゲーム⑰※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第30回　ゲーム⑱、個人成績発表（打数、安打、本塁打、盗塁、投手登板、捕手）、まとめ

【成績評価の方法】
出席状況と授業への意欲を評価し、あわせて個人成績（打率など）も加味し総合評価する。

【備考】
必要に応じ、資料を配布する。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>		
末野幹敏 末野幹敏 松本直也 松本直也 前山　直 眞来省二	151<通期> 152<通期> 153<通期> 154<通期> 155<通期> 156<通期>	2単位

【講義概要】
卓球は老若男女を問わず多くの人たちに楽しまれているスポーツです。本演習では、ゲームを楽しむためのストロークやサービスなどの基本的技能を習得しながら、今ある技術でシングルス、ダブルス、ミックスダブルスといったゲームを楽しみながら行うことを目的とします。また、卓球の持つ楽しさを感じることで生涯スポーツとしての卓球の魅力に触れていければと思います。積極的に参加できる学生の履修を希望します。

【学習目標】
学習目標は以下の通りである。
1．積極的、自発的な授業への参加。
2．積極的なコミュニケーション。
3．シングルスに必要な基本技術の習得。
4．ダブルスに必要な基本戦術の習得。
5．審判法の理解と実践。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　ラケットとボールに慣れる①
第3回　ラケットとボールに慣れる②
第4回　ラリーをしてみる①
第5回　ラリーをしてみる②
第6回　ボールの回転とコース①
第7回　ボールの回転とコース②
第8回　ボールの回転とコース③
第9回　サーブの習得①
第10回　サーブの習得②
第11回　ダブルスのゲームを楽しむ①
第12回　ダブルスのゲームを楽しむ②
第13回　ダブルスのゲームを楽しむ③
第14回　ダブルスのゲームを楽しむ④
第15回　シングルスのゲームを楽しむ①
第16回　シングルスのゲームを楽しむ②
第17回　シングルスのゲームを楽しむ③
第18回　シングルスのゲームを楽しむ④
第19回　審判法の理解と実践
第20回　リーグ戦①
第21回　リーグ戦②
第22回　リーグ戦③
第23回　リーグ戦④
第24回　リーグ戦⑤
第25回　リーグ戦⑥
第26回　リーグ戦⑦
第27回　リーグ戦⑧
第28回　リーグ戦⑨
第29回　リーグ戦⑩
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>		
見正秀基 見正秀基 志水正俊	161<通期> 162<通期> 163<通期>	2単位

【講義概要】
東京オリンピックにおいてバレーボール競技が正式種目に制定されて以来、世界中で親しみ楽しまれる種目となってきたが、昨今はビーチバレーやソフトバレーも普及しつつある。本演習では6人制バレーの実践を主として考えているが、履修学生のリクエストがあれば9人制バレー、ソフトバレーの導入も考えたい。

【学習目標】
授業の目標はゲーム形式で競技の本質を理解させたいと願っているが、より楽しくゲームに親しめるよう基本的な分習法から全習法へと展開していく。なお履修者のスキルに差異もあると思われるが、実践レベルは初心者が競技を楽しめる基準で展開していくことを考えている。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
　　基礎的な身体トレーニングと基礎技術
第2回　基礎的な身体トレーニング　バレーボールの特性・基本的技術の練習
第3回　基礎的技術の練習
第4回　スキルテスト（パス、スパイク、サーブ）
第5回　基本技術の練習（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第6回　基本技術の練習（パス、スパイク、ブロック、サーブ）
第7回　応用技術の練習（サーブレシーブフォーメーションと三段攻撃）
第8回　応用技術の練習（サーブレシーブフォーメーションと三段攻撃）
第9回　ゲーム形式の練習（アンダーハンドサーブのみ）
第10回　（スパイクヒットを用いないパスゲーム）
　　ゲーム形式の練習（サーブは2本まで許容、サーブレシーブに主眼をおく）
第11回　（スパイクヒットを用いないパスゲーム）
　　ゲーム形式の練習（サーブは2本まで許容、サーブレシーブに主眼をおく）
第12回　（スパイクヒットを用いないパスゲーム）
　　ゲーム形式の練習（サーブは2本まで許容、サーブレシーブに主眼をおく）
第13回　リーグ戦Ⅰ(Step1)　審判法の説明　リーグ戦6試合（1面2試合）
第14回　リーグ戦9試合（1面3試合）
第15回　リーグ戦9試合（1面3試合）
第16回　リーグ戦9試合（1面3試合）
第17回　リーグ戦Ⅱ(Step2)　セッター練習　リーグ戦6試合（1面2試合）
第18回　リーグ戦Ⅱ(Step2)　セッター練習　リーグ戦6試合（1面2試合）
第19回　リーグ戦9試合（1面3試合）
第20回　リーグ戦Ⅲ(Step3)　二段トスとスパイクの練習　リーグ戦6試合（1面2試合）
第21回　リーグ戦Ⅲ(Step3)　二段トスとスパイクの練習　リーグ戦6試合（1面2試合）
第22回　リーグ戦Ⅳ(Step4)　リーグ戦6試合（1面3試合）
第23回　リーグ戦Ⅳ(Step4)　リーグ戦6試合（1面3試合）
第24回　リーグ戦Ⅳ(Step4)　リーグ戦6試合（1面3試合）
第25回　リーグ戦Ⅳ(Step4)　リーグ戦6試合（1面3試合）
第26回　リーグ戦Ⅳ(Step4)　リーグ戦6試合（1面3試合）
第27回　リーグ戦Ⅳ(Step4)　リーグ戦6試合（1面3試合）
第28回　トーナメント戦
第29回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
※授業計画は履修学生の皆さんのスキルの程度により、適宜アレンジする事も考えられる。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>　166<通期>	
今　西　俊　次	2単位

【講義概要】

水中運動が健康の保持・増進や体力づくりに効果的な運動であることは、一般的に認識されていることです。水中環境で運動を行うことによって、生体は水温、浮力、水圧の影響を受けます。水泳を行うことによって、多くのエネルギーを消費（水温の影響）、バランストレーニング（浮力が関与）、全身の筋力を鍛える（抵抗の影響）、呼吸筋を鍛える（水圧の影響）、心地よさ・リラクセーション効果など、陸上運動にはない利点と効果が期待できます。

ビギナーの受講を歓迎します。

各自で競泳用水着、キャップ、ゴーグルを用意してください。

【学習目標】

ビギナーにとっては、クロール（背泳）で25メートルを泳ぐことが目標になります。経験者は、より効率的な泳法の習得を目指します。水中運動がからだに及ぼす影響について理解を深めたい。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション（健康状態と水泳経験の確認、施設と用具）
第２回　水中運動と安全
第３回　水中運動の特徴（水中環境の特性、水泳・水中運動の利点と効果）
第４回　浮き身、基本姿勢（ストリームラインの確認）
第５回　クロール（キック、ストローク）
第６回　クロール（キック、ストローク、息つぎ）
第７回　背泳ぎ（ストリームラインの確認、キック、ストローク）
第８回　背泳ぎ（コンビネーション）
第９回　タイムの測定、課題の確認
第10回　リレー、課題練習
第11回　平泳ぎ
第12回　バタフライ
第13回　持久泳
第14回　持久泳
第15回　体調の確認、ストリームラインの確認
第16回　クロール、背泳の復習
第17回　クロール、背泳の復習と課題の確認
第18回　平泳ぎ（足の動き、手の動き、息つぎ）
第19回　平泳ぎ（ストロークとキックのタイミングを確認）
第20回　バタフライ（ドルフィンキック）
第21回　バタフライ（ストロークのタイミング：１ストローク２キック）
第22回　４泳法（課題の確認と修正）
第23回　４泳法（キレイに）
第24回　４泳法（キレイに、長く）
第25回　タイムの測定
第26回　持久泳
第27回　リレー
第28回　まとめ

【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合的に評価します。

【参考文献】

必要に応じて資料を配布します。

【備考】

・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>　171<通期>	
前　山　　直	2単位

か行

【講義概要】

健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。

カナダ生まれのキンボールを使って、リードアップゲーム、ルールバリエーション、オフィシャルゲームを体験する。ゲームを通して人と人との繋がりの大切さを実感出来ればいいなぁと思います。みんなの笑顔で気持ちのいい汗を流しましょう。

【学習目標】

・キンボールを体験し、種目の特性に触れながら技能の上達を図る。
・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
・グループでの活動に必要な態度を身につける。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション
第２回　リードアップゲーム　①
第３回　リードアップゲーム　②
第４回　ルールバリエーション紹介
第５回　ゲーム体験
第６回　フェイント　①個人技術の上達を図る
第７回　フェイント　②チーム練習
第８回　ゲーム体験
第９回　ルール確認及びレフリーのジェスチャーについて
第10回　リーグ戦　①
第11回　リーグ戦　②
第12回　リーグ戦　③
第13回　チーム練習
第14回　リーグ戦　④
第15回　リーグ戦　⑤
第16回　オフィシャルルール紹介
第17回　チーム練習　ゲーム
第18回　チーム練習　ゲーム
第19回　チーム練習　ゲーム
第20回　リーグ戦　①
第21回　リーグ戦　②
第22回　リーグ戦　③
第23回　チーム練習
第24回　リーグ戦　④
第25回　リーグ戦　⑤
第26回　リーグ戦　⑥
第27回　リーグ戦　⑦
第28回　リーグ戦　⑧
第29回　まとめ

【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】

・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［２］－＜2010＞　176＜通期＞	
児　玉　公　正	２単位

【講義概要】
野球は競技人口の多さから見ても国内において上位に位置する人気種目である。この演習では軟式球を用いて、野球のすばらしさと楽しさを再確認する場としたい。授業はゲームを中心に展開する。チームの編成には、教員は介入しない。しかし、チーム力に大きな差が生じた場合はトレードを実施する。運動量を意識しながら歓喜が沸き起こるようなストレス解消の場としても意識していただきたい。雨天プログラムは体育館種目を順にこなす。

【学習目標】
学習目標は、卒業後に予想される会社や地域などのコミュニティ現場を意識したい。ある程度の技術水準を、ゲームをこなしながら身に付ける。また、運動量を増やす意図からヒットエンドランやランエンドヒットなどの機動力を生かした作戦を期待したい。個人の技術水準を高めるためのクリニックは申し出があればマンツーマンで随時実施する。内容はスローイング、ゴロ捕球、および打撃の基本などになる。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業展開を紹介）、キャッチボールの基本理論と実践
第２回　打撃練習①　打撃の基本理論と実践（トスバッティング）
第３回　打撃練習②　打撃の基本理論と実践（ロングティ）
第４回　打撃練習③　打撃の基本理論と実践（左右へ打ち分け）
第５回　守備練習①　守備の基本理論と実践（ゴロ）
第６回　守備練習②　守備の基本理論と実践（フライ）
第７回　守備練習③　守備の基本理論と実践（ピックオフプレー、連係プレー）
第８回　審判法とルールの確認（基本と実践）
第９回　ゲーム①※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第10回　ゲーム②※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第11回　ゲーム③※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第12回　ゲーム④※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第13回　ゲーム⑤※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第14回　ゲーム⑥※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第15回　ゲーム⑦※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第16回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第17回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第18回　ゲーム⑧※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第19回　ゲーム⑨※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第20回　ゲーム⑩※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第21回　ゲーム⑪※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第22回　ゲーム⑫※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第23回　ゲーム⑬※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第24回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第25回　ゲーム形式練習（班ごとに課題へ取り組む）
第26回　ゲーム⑭※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第27回　ゲーム⑮※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第28回　ゲーム⑯※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第29回　ゲーム⑰※クリニックは随時実施、雨天時は体育館種目
第30回　ゲーム⑱、個人成績発表（打数、安打、本塁打、盗塁、投手登板、捕手）、まとめ

【成績評価の方法】
評価は出席と授業態度を重視する。技術評価はチーム勝率と自主申告による個人打率・登板回数・盗塁数・本塁打数とで行う。

【備考】
必要に応じ、資料を配布する。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［２］－＜2010＞　181＜通期＞	
横　山　　誠	２単位

【講義概要】
ニュースポーツやレクリエーションは、こどもから高齢者、障がい者を問わず、いつでも・だれでも・どこでも・だれとでも楽しむことのできる活動です。授業では、自らの活動を楽しみ、仲間と共にその楽しさを共有し、そこから生まれる更なる楽しさや笑顔のすばらしさについて体験を通して学びます。

【学習目標】
様々な場面や対象者によってのアレンジを意識し、多くの人が楽しめる環境作りや雰囲気作りを目指します。また、個人が楽しむことはもちろん、仲間との協調性を図り集団としての楽しむことができる意識や態度を身につけます。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の心構え・注意事項・評価について）
　　アイスブレーキング１
第２回　アイスブレーキング２
第３回　ドッチボール
第４回　ドッチビー
第５回　ディスクゴルフ・スカイクロス
第６回　グラウンドゴルフ
第７回　ターゲットバードゴルフ
第８回　チャレンジ・ザ・ゲーム体験・練習会
第９回　チャレンジ・ザ・ゲーム記録会
第10回　イベントの企画と運営・リスクマネジメント
第11回　企画書作成
第12回　グループ指導演習１
第13回　グループ指導演習２
　　グループ指導演習２
第14回　グループ指導演習３
第15回　まとめ・レポート
第16回　オリエンテーション・自由時間について
第17回　ソフトバレーボール
第18回　ふらば～る
第19回　フリンゴ
第20回　シッティングバレー
第21回　シッティングサッカー
第22回　ペタンク・ニチレクボール
第23回　アルティメット
第24回　キンボール
第25回　イベントの企画と運営・リスクマネジメント
第26回　企画書作成
第27回　グループ指導演習１
第28回　グループ指導演習２
第29回　グループ指導演習３
第30回　まとめ・レポート

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　60%
授業への取り組み等で10%　積極的な受講を望みます

【教科書】
必要に応じて配布

【備考】
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>　183<通期>	
髙　　成　廈	2単位

【講義概要】
ゴルフは競技スポーツ、生涯スポーツ、社交と健康のスポーツとして男女の初心者から経験者まで履修できます。授業は学外のイズミゴルフセンターで実施します。本演習ではゴルフの基本技術を学習します。アプローチショット（コントロール）とフルショット（飛ばし）の違いを習得します。そのためには、クラブやボールの特性と体の関連を知ることが大切です。すべてのクラブでショットできるようチャレンジしてもらいます。

【学習目標】
ゴルフを通して自己の可能性に挑戦し、スポーツ文化としてのゴルフを学習します。マインドコントロールやメンタルトレーニングの大切さを知るとともにゴルフでもっとも重要なマナー、エチケットを学びます。その上でゴルフラウンドを実施し経験します。卒業後、生涯スポーツとして生活の中に取り入れて豊かな心を育むことをねらいとします。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション・・・授業計画の概略説明
第２回　ゴルフの基本スイング①（ボディスイング・アームスイング）
第３回　ゴルフの基本スイング②（ボディスイング・アームスイング）
第４回　ゴルフの基本スイング①（グリップ・クラブスイング）
第５回　ゴルフの基本スイング②（グリップ・クラブスイング）
第６回　ゴルフの基本スイング①（フォームのチェック）
第７回　ゴルフの基本スイング②（フォームのチェック）
第８回　ゴルフの基本スイング①（バックスイング・ダウンスイング）
第９回　ゴルフの基本スイング②（バックスイング・ダウンスイング）
第10回　ゴルフの基本スイング（フォロースイングのチェック）
第11回　アプローチショットとパッティング①
第12回　ゴルフ場ショートコースラウンド
第13回　ゴルフ場ショートコースラウンド
第14回　ゴルフ場ショートコースラウンド
第15回　機能的スイングつくり①
第16回　機能的スイングつくり②
第17回　機能的スイングつくり③
第18回　機能的スイングつくり④
第19回　機能的スイングつくり⑤
第20回　コース攻略のイメージつくり①
第21回　コース攻略のイメージつくり②
第22回　コース攻略のイメージつくり③
第23回　コース攻略のイメージつくり④
第24回　コース攻略のイメージつくり⑤
第25回　ゴルフ場コースラウンド
第26回　ゴルフ場コースラウンド
第27回　ゴルフ場コースラウンド
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。
注意・・・経費がかかります。（備考参照）
第12回～14回と第25回～27回は学外ゴルフ場のコースラウンドを他日に実施するため、イズミゴルフ場での授業は行いません。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
平常の授業は学外施設（ｲｽﾞﾐｺﾞﾙﾌ：泉北・光明池）で行います。大学と学外施設間で大学シャトルバスを運行します。（所要時間約10分）
この授業は、打球場でのボール代２万２千円（１回１千円×22回）と学外コースラウンドレッスン２回の費用２万円（１万円×２回）、合計４万２千円程度が別途必要になります。
授業内容については、必要に応じて変更する場合がある。
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>　185<通期>	
髙　橋　ひとみ	2単位

【講義概要】
一般的な持久力を高める有酸素運動に、柔軟性・筋力・瞬発力などの要素も取り入れたエアロビクスを皆で楽しみながら実践する。具体的には、エアロバイク、トランポリン、跳び縄、フラフープ、エアロビックエクササイズなどを使用し、毎時、変化をつけて効果的に行う。

【学習目標】
自己の体力にあわせて、無理なく、楽しく、手軽に実施することができるエアロビクスの実践を通して、運動の効果を体得し、生涯スポーツに繋げることを目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　エアロビクスとは
第２回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（１）
第３回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（２）
第４回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（３）
第５回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（１）
第６回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（２）
第７回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（３）
第８回　エアロバイクをこぎながらシェイプアップ（１）
第９回　エアロバイクをこぎながらシェイプアップ（２）
第10回　エアロバイクをこぎながらシェイプアップ（３）
第11回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（１）
第12回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（２）
第13回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（３）
第14回　エアロビックエクササイズでシェイプアップ（１）
第15回　エアロビックエクササイズでシェイプアップ（２）
第16回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（４）
第17回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（５）
第18回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（６）
第19回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（４）
第20回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（５）
第21回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（６）
第22回　エアロバイクをこいでシェイプアップ（４）
第23回　エアロバイクをこいでシェイプアップ（５）
第24回　エアロバイクをこいでシェイプアップ（６）
第25回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（４）
第26回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（５）
第27回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（６）
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
出席、授業態度、レポートなどを総合的に評価する。

【参考文献】
特になし（必要に応じ資料を配付）

【備考】
・09～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－<2010>　291<秋集>	
今　西　俊　次	2単位

【講義概要】

スノースポーツ・クラスは、秋学期におこなう週1回の授業と2月に実施される長野県戸隠での集中授業（現地4泊5日）によって構成されています。秋学期の授業開始後にアンケートをとり、カービングスキーかスノーボードのどちらかを選択してもらいます。

学内の授業では、フィジカル・トレーニングとスノースポーツに関する基礎的な知識や安全対策を確認します。戸隠では安全を心がけ、経験に応じて少人数グループを編成してスキル・トレーニングをおこないます。

【学習目標】

スキー、スノーボードは、ボードや板を操作し、雪の斜面を安全に滑走するスポーツです。雪質は気温や斜面の向きによって変化し、緩斜面があれば急斜面もあります。安全で安定した滑りを身につけるためには、状況に応じて動きやフォームをコントロールし、ボードや板のずれと角づけを適切に調整する必要があります。

戸隠でのスキル・トレーニングを通して、安全で安定した滑走技術と総合的な判断力の獲得を目指します。

【講義計画】

第1回　オリエンテーション、フィジカル・トレーニング
第2回　健康調査アンケートの実施（協力：本学保健室）
第3回　スキーとスノーボードの特徴
第4回　スノースポーツの安全対策
第5回　フィジカル・トレーニング
第6回　フィジカル・トレーニング
第7回　フィジカル・トレーニング
第8回　スノースポーツの歴史
第9回　フィジカル・トレーニング
第10回　フィジカル・トレーニング
第11回　フィジカル・トレーニング
第12回　アンケートの結果と実習中の健康管理（協力：本学保健室）
第13回　フィジカル・トレーニング
第14回　まとめ（戸隠でのスキル・トレーニングにむけて）
第15回　戸隠：スキル・トレーニング（班編成）
第16回　戸隠：スキル・トレーニング
第17回　戸隠：スキル・トレーニング（班再編成）
第18回　戸隠：スキル・トレーニング
第19回　戸隠：スキル・トレーニング
第20回　戸隠：スキル・トレーニング（班別ミーティング）
第21回　戸隠：スキル・トレーニング
第22回　戸隠：スキル・トレーニング
第23回　戸隠：スキル・トレーニング
第24回　戸隠：スキル・トレーニング
第25回　戸隠：スキル・トレーニング
第26回　戸隠：スキル・トレーニング
第27回　戸隠：スキル・トレーニング（ミーティング、レポート作成）
第28回　戸隠：スキル・トレーニング（まとめ）

【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合的に評価します。

【参考文献】

必要に応じ資料を配布します。

【備考】

・07～10生対象
・07・08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
野　田　浩　之 眞　来　省　二 野　田　浩　之 眞　来　省　二	101<春> 102<春> 201<秋> 202<秋>	2単位

【講義概要】

本演習は、世界でもとてもポピュラーな競技であるバスケットボールの特性を理解し、実技を通して技能の習得、ルールやマナーの理解を深めることが目的です。そのなかでみなさんにはチームメートとコミュニケーションを深め、積極的にスポーツを楽しむ態度を身につけていただきたいと思います。

【学習目標】

本演習では、バスケットボールの個人技術、戦術、ゲーム運営などを獲得することで、生涯にわたって健康を保持増進する資質を獲得することを目標とします。また受講する中で、自己表現や他者理解、チームワークの重要性について学び、コミニュケーション能力の向上を目指します。

【講義計画】

第1回　オリエンテーション（1回目の授業にて本講義の内容や注意事項を説明します）
第2回　ファンドリル、コーディネーショントレーニングなどを中心に身体ならし
第3回　ボールコントロール、シュート、ドリブル
第4回　パス、フットワーク
第5回　1対1の攻撃と防御
第6回　2対2の攻撃と防御
第7回　審判法
第8回　リーグ戦①
第9回　リーグ戦②
第10回　リーグ戦③
第11回　ゲーム分析
第12回　グループワーク①
第13回　グループワーク②
第14回　まとめ

【成績評価の方法】

出席率、履修態度、レポートなどから総合評価します。

【備考】

・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
濵口雅行 志水正俊 濵口雅行 志水正俊	111＜春＞ 112＜春＞ 211＜秋＞ 212＜秋＞	2単位

【講義概要】
バドミントンは「レクリエーションスポーツ」「生涯スポーツ」として誰もが気軽に親しみやすいスポーツです。本演習では身体活動の重要性、ゲームを通しての自己表現およびコミュニケーションの大切さを学びます。

【学習目標】
バドミントンの特性を知り、身体を動かすことの大切さやゲームの楽しさを体験する。また、バドミントンを生活の中に取り入れ心身を豊かにし、生涯スポーツとして実践していく能力と習慣を養う。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　基礎技術（クリアー、ドライブ）の習得とシングルスの簡易ゲーム1
第3回　基礎技術（クリアー、ドライブ）の習得とシングルスの簡易ゲーム2
第4回　基礎技術（カット、ヘアーピン）の習得とシングルスの簡易ゲーム1
第5回　基礎技術（カット、ヘアーピン）の習得とシングルスの簡易ゲーム2
第6回　基礎技術（スマッシュ、サービス）の習得とシングルスの簡易ゲーム1
第7回　基礎技術（スマッシュ、サービス）の習得とシングルスの簡易ゲーム2
第8回　基礎技術（フットワーク）の習得とシングルスの簡易ゲーム1
第9回　基礎技術（フットワーク）の習得とシングルスの簡易ゲーム2
第10回　戦術（サイド・バイ・サイド）の学習と理解。ダブルスのゲーム1
第11回　戦術（サイド・バイ・サイド）の学習と理解。ダブルスのゲーム2
第12回　戦術（トップ・アンド・バック）の学習と理解。ダブルスのゲーム
第13回　戦術（ローテーション）の学習と理解。ダブルスのゲーム
第14回　まとめ（リーグ戦）

【成績評価の方法】
出席率、履修態度、レポートなどから総合評価します。

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
松本直也	121＜春＞ 221＜秋＞	2単位

【講義概要】
サッカーは世界中で多くの人々に楽しまれているスポーツです。ボールひとつあれば「いつでも、どこでも、気軽に」楽しむことができます。
本演習は、ゲームを中心に展開し、楽しく真剣にゲームを行うことを目的とします。サッカーをより楽しむためには技術や戦術の習得も必要となりますし、チームメイトとのコミュニケーションもゲームにおいて大切な要素のひとつです。よってそれらの点を重視し授業を展開します。また、同時にルールや審判法の理解と実践も行います.

【学習目標】
学習目標は以下の通りである。
1．積極的、自発的な授業への参加。
2．積極的なコミュニケーション。
3．基本技術の習得。
4．基本戦術の理解と習得。
5．審判法の理解と実践。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　ボールフィーリング①
第3回　ボールフィーリング②
第4回　スモールサイドゲームと有効な視野の確保とパスの優先順位
第5回　スモールサイドゲームコンビネーションプレー
第6回　スモールサイドゲームとプレーの原則
第7回　スモールサイドゲームとゴールを意識したプレー
第8回　審判法の理解と実践
第9回　リーグ戦①
第10回　リーグ戦②
第11回　リーグ戦③
第12回　リーグ戦④
第13回　リーグ戦⑤
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［２］－2010春 健康・スポーツ学演習［２］－2010秋		
末野幹敏 今西俊次 末野幹敏 今西俊次	131＜春＞ 132＜春＞ 231＜秋＞ 232＜秋＞	２単位

【講義概要】

テニスのポイントは、約８割がミス（ネットやオーバー）によって決まるといわれます。つまり、ポイントを得るために、相手よりも１本多く返球し続けることが重要です。ミスを少なくしポイントを積み重ねるには、体を機能的に使い、再現性の高い技術を身につけることが求められます。

また、ボールを打ち合うことは、ボールを介した対話ともいえます。対話をうまく成立させるためには、くり返し練習すること、相手を認め、ルールを理解し、マナーを身につけることが大切です。テニスのルールやマナーは、われわれが社会生活をスムーズに送るために求められる要素でもあります。

【学習目標】

生涯スポーツとしてテニスを楽しめるよう、スキルの獲得、ルールの理解と審判方法等の習得を目指します。マナーやルールを理解し、課題を明確に練習やゲームに取り組みたいものです。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション（体調とスポーツ経験の確認、服装、用具、施設）
第２回　ラケッティング、グリップと打点の確認、基本姿勢
第３回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第４回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第５回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第６回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第７回　ドリルワークによる基本ストロークの習得
第８回　ミニテニス、サーブとサービスリターン
第９回　課題の確認（ラケットワークとボールコントロール）
第10回　シングルスゲーム（半面）、課題練習
第11回　ダブルス・ゲーム
第12回　ダブルスの陣形とチームワーク
第13回　ダブルス・ゲーム
第14回　まとめ

【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合的に評価します。

【参考文献】

必要に応じ資料を配布します。

【備考】

・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［２］－2010春 健康・スポーツ学演習［２］－2010秋		
髙　成　廈	141＜春＞ 241＜秋＞	２単位

【講義概要】

サッカーは多くの仲間を作り、世界共通の「スポーツ文化」としてあらゆる国々で楽しまれています。室内サッカーはメインアリーナで実施します。１チームの人数を５～７人に編成し、リーグ戦形式で展開します。

サッカーはチームが一体になってゴールを目指すという「共通の目的」を持って楽しむスポーツである。個人戦術をベースに、ゴールするために視野の広いルックアップの姿勢から攻守における切り替えの速さと状況判断・状況認識が大切である。チームプレーを常に意識しながら、室内サッカーのゲームにチャレンジしてもらいます。

【学習目標】

M-T-M方式で展開する。　M-T-MとはMatch-Training- Matchのことで、その意味は実際に試合をすることによって発生した課題に対して焦点を絞り、その局面を重点的に練習した上で再度、ゲームに戻すトレーニング方法です。課題は基本技術から個人・グループ・チーム戦術までさまざまなものが想定されます。　個人とチームの課題を探し、克服していくことが重要です。室内サッカーを生涯スポーツとして生活の中に取り入れ心を豊かに育むことをねらいとする。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション・・・授業計画の概略説明
第２回　バランスのとれたチーム編成するためのゲーム①
第３回　バランスのとれたチーム編成するためのゲーム②
第４回　リーグ戦①
第５回　リーグ戦②
第６回　リーグ戦③
第７回　リーグ戦④
第８回　リーグ戦⑤
第９回　リーグ戦⑥
第10回　リーグ戦⑦
第11回　リーグ戦⑧
第12回　リーグ戦⑨
第13回　リーグ戦⑩
第14回　まとめ

【成績評価の方法】

出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】

適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】

授業内容については、必要に応じて変更する場合がある。
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
今　西　俊　次	146＜春＞ 246＜秋＞	2単位

【講義概要】
ソフトボールは、ベースボールを元に生まれた野球型のスポーツです。投げる、打つ、走る要素から成り立っています。
ソフトボールはチーム間の対戦ですが、勝ち負けは個人的なプレイの積み重ねによって決まります。チームワークを大切に、一つ一つのプレイに集中することが必要です。
本授業では、基本的な技術練習をおこなった後、ゲームを中心に進めます。
チームの勝率、打率や守備等に関する記録を残し、レポートの作成に活用します。

【学習目標】
技術練習とゲームを通して自己の可能性に挑戦し、お互いがチームの勝利のために協力しあうことの難しさと楽しさを体験する。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション（体調とスポーツ経験の確認、施設・用具）
　　フィジカル・トレーニング
第2回　ソフトボールにおけるケガ・事故とその予防
第3回　基礎技術の確認と練習（グラウンダーとフライの捕球・送球）
第4回　基礎技術の確認と練習（復習、バッティングと守備）
第5回　チーム編成とチーム別練習
第6回　ゲーム形式の練習（守備位置と打順の確認）
第7回　ゲーム（個人、チーム成績の記録）
第8回　ゲーム（個人、チーム成績の記録）
第9回　ゲーム（個人、チーム成績の記録、勝因と敗因の分析）
第10回　チーム再編成、ゲーム（個人、チーム成績の記録）
第11回　ゲーム（個人、チーム成績の記録）
第12回　ゲーム（個人、チーム成績の記録）
第13回　ゲーム（個人、チーム成績の記録）
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合的に評価します。

【参考文献】
必要に応じて資料を配布します。

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
松　本　直　也 濵　口　雅　行 松　本　直　也 濵　口　雅　行	151＜春＞ 152＜春＞ 251＜秋＞ 252＜秋＞	2単位

【講義概要】
卓球は老若男女を問わず多くの人たちに楽しまれているスポーツです。本演習では、ゲームを楽しむためのストロークやサービスなどの基本的技能を習得しながら、今ある技術でシングルス、ダブルス、ミックスダブルスといったゲームを楽しみながら行うことを目的とします。また、卓球の持つ楽しさを感じることで生涯スポーツとしての卓球の魅力に触れていければと思います。積極的に参加できる学生の履修を希望します。

【学習目標】
学習目標は以下の通りである。
1．積極的、自発的な授業への参加。
2．積極的なコミュニケーション。
3．シングルスに必要な基本技術の習得。
4．ダブルスに必要な基本戦術の習得。
5．審判法の理解と実践。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　ラケットとボールに慣れる①
第3回　ラケットとボールに慣れる②
第4回　ラリーをしてみる
第5回　ボールの回転とコース①
第6回　ボールの回転とコース②
第7回　サーブの習得
第8回　ダブルスのゲームを楽しむ①
第9回　ダブルスのゲームを楽しむ②
第10回　ダブルスのゲームを楽しむ③
第11回　シングルスのゲームを楽しむ①
第12回　シングルスのゲームを楽しむ②
第13回　シングルスのゲームを楽しむ③
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［２］－2010春 健康・スポーツ学演習［２］－2010秋		
松　浦　義　昌	161＜春＞ 261＜秋＞	２単位

【講義概要】
健康・スポーツ学演習（バレーボール）の具体的なスポーツの実践によって、自らの健康状態を把握し、日常生活における健康管理の具体的な方法について学習する。また、スポーツ（バレーボール）の実践を通じて人間関係的なコミュニケーション育成を目指し、キャンパスライフに反映できるように授業を展開する。

【学習目標】
自らの健康管理の具体的な実践を目指して、バレーボールの基本技術、応用技術を習得する。また、ゲーム等のチームプレーを通じて、学生間の信頼関係の絆を培い、将来的になんでも相談できるような友人を獲得することを目標とする。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の基本的な進め方と捉え方）
第２回　基本技術（サーブ、レシーブ、トス、パス）その後ゲーム展開
第３回　基本技術（サーブ、レシーブ、トス、パス）その後ゲーム展開
第４回　基本技術（サーブ、レシーブ、トス、パス）その後ゲーム展開
第５回　基本技術（サーブ、レシーブ、トス、パス）その後ゲーム展開
第６回　応用技術（トス、パス、スパイク、ブロック）その後ゲーム展開
第７回　応用技術（トス、パス、スパイク、ブロック）その後ゲーム展開
第８回　応用技術（トス、パス、スパイク、ブロック）その後ゲーム展開
第９回　応用技術（トス、パス、スパイク、ブロック）その後ゲーム展開
第10回　チームプレーの基本技術（ゲームの中でのフォーメションプレー、三段攻撃）
第11回　チームプレーの基本技術（ゲームの中でのフォーメションプレー、三段攻撃）
第12回　チームプレーの応用技術（ゲームの中でのフォーメションプレー、フェイント技術の展開）
第13回　チームプレーの応用技術（ゲームの中でのフォーメションプレー、フェイント技術の展開）
第14回　まとめとレポート課題
　　レポート提出及び総括

【成績評価の方法】
出席状況、授業の参加状況、レポートから総合的に評価する。

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［２］－2010春 健康・スポーツ学演習［２］－2010秋		
濵　口　雅　行	166＜春＞ 266＜秋＞	２単位

【講義概要】
水中運動が健康の保持・増進や体力づくりに効果的な運動であることは、一般的に認識されていることです。水中環境で運動を行うことによって、生体は水温、浮力、水圧の影響を受けます。水泳を行うことによって、多くのエネルギーを消費（水温の影響）、バランストレーニング（浮力が関与）、全身の筋力を鍛える（抵抗の影響）、呼吸筋を鍛える（水圧の影響）、心地よさ・リラクセーション効果など、陸上運動にはない利点と効果が期待できます。ビギナーの受講を歓迎します。各自で競泳用水着、キャップ、ゴーグルを用意してください。

【学習目標】
ビギナーにとっては、クロール（背泳）で25メートルを泳ぐことが目標になります。経験者は、より合理的な泳法を目指し、水中運動がからだに及ぼす影響について理解を深めたい。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（健康状態と水泳経験の確認）
第２回　水中運動と安全
第３回　水中運動の特徴（水中環境の特性、水泳・水中運動の利点と効果）
第４回　浮き身、基本姿勢（ストリームラインの確認）
第５回　クロール（キック、ストローク）
第６回　クロール（キック、ストローク、息つぎ）
第７回　背泳ぎ（ストリームラインの確認、キック、ストローク）
第８回　背泳ぎ（コンビネーション）
第９回　タイムの測定
第10回　リレー
第11回　平泳ぎ
第12回　バタフライ
第13回　持久泳
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、履修態度、レポートなどから総合評価します。

【備考】
水泳は健康管理上、特にウォーミングアップが重要な意味を持ちます。そこで本授業は、開始時にサブアリーナまたは卓球場に集合し、バドミントンや卓球を20分程度行います。
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－2010春　171＜春＞	
前　山　　直	2単位

【講義概要】
健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。
カナダ生まれのニュースポーツ「キンボール」を使ってリードアップゲームやオフィシャルゲームを体験し、笑顔を絶やさず身体を動かす喜びを皆さんに伝えていきたい。

【学習目標】
・キンボールを体験し、種目の特性に触れながら技能の上達を図る。
・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
・グループ活動に必要な態度を身につける。

【講義計画】
第1回　オリエンテーション
第2回　リードアップゲーム　①
第3回　リードアップゲーム　②
第4回　ルールバリエーション
第5回　効果的なヒットについて
第6回　レシーブ練習
第7回　ルール説明とゲーム体験
第8回　チーム作り・・・技術練習
第9回　チーム作り・・・戦術を考える
第10回　リーグ戦　①
第11回　リーグ戦　②
第12回　リーグ戦　③
第13回　リーグ戦　④
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
児　玉　公　正	176＜春＞ 276＜秋＞	2単位

【講義概要】
野球は競技人口の多さから見ても国内において上位に位置する人気種目である。この演習では軟式球を用いて、野球のすばらしさと楽しさを再確認する場としたい。授業はゲームを中心に展開する。チームの編成には、教員は介入しない。しかし、チーム力に大きな差が生じた場合はトレードを実施する。運動量を意識しながら歓喜が沸き起こるようなストレス解消の場としても意識していただきたい。雨天プログラムは体育館種目を順にこなす。

【学習目標】
学習目標は、卒業後に予想される会社や地域などのコミュニティ現場を意識したい。ある程度の技術水準を、ゲームをこなしながら身に付ける。また、運動量を増やす意図からヒットエンドランやランエンドヒットなどの機動力を生かした作戦を期待したい。個人の技術水準を高めるためのクリニックは申し出があればマンツーマンで随時実施する。内容はスローイング、ゴロ捕球、および打撃の基本などになる。

【講義計画】
第1回　ガイダンス、送球・投球の基本と実際
第2回　打撃の基本と実際①（トスバッティング）
第3回　打撃と基本の実際②（ロングティ）
第4回　守備の基本と実際①（ゴロ、フライ）
第5回　守備の基本と実際②（ピックオフ、連係プレー）
第6回　審判法の基本と実際
第7回　ゲーム①
第8回　ゲーム②
第9回　ゲーム③
第10回　班別に課題を確認し、対策練習（形式練習）
第11回　ゲーム④
第12回　ゲーム⑤
第13回　ゲーム⑥
第14回　ゲーム⑦、まとめとして個人成績結果の配布（安打数、打率、ホームラン数など）

【成績評価の方法】
出席状況と授業への意欲を評価し、あわせて個人成績（打率など）も加味し総合評価する。

【備考】
必要に応じ資料を配布する。
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
横　山　　誠	181＜春＞ 281＜秋＞	2単位

【講義概要】
ニュースポーツやレクリエーションは、こどもから高齢者、障がい者を問わず、いつでも・だれでも・どこでも・だれとでも楽しむことのできる活動です。授業では、自らの活動を楽しみ、仲間と共にその楽しさを共有し、そこから生まれる更なる楽しさや笑顔のすばらしさについて体験を通して学びます。

【学習目標】
様々な場面や対象者によってのアレンジを意識し、多くの人が楽しめる環境作りや雰囲気作りを目指します。また、個人が楽しむことはもちろん、仲間との協調性を図り集団としての楽しむことができる意識や態度を身につけます。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション（授業の心構え・注意事項・評価について）
　　自由時間について・アイスブレーキング
第２回　ソフトバレーボール
第３回　ふらば～る
第４回　フリンゴ
第５回　シッティングバレー
第６回　シッティングサッカー
第７回　ペタンク・ニチレクボール
第８回　アルティメット
第９回　キンボール
第10回　イベントの企画と運営・リスクマネジメント
第11回　企画書・指導案作成
第12回　グループ指導演習１
第13回　グループ指導演習２
第14回　グループ指導演習３
第15回　まとめ・レポート

【成績評価の方法】
レポート　30%　出席　60%
授業への意欲等で10%　積極的な受講を望みます。

【教科書】
必要に応じて配布

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分		
健康・スポーツ学演習［2］－2010春 健康・スポーツ学演習［2］－2010秋		
髙　橋　ひとみ	185＜春＞ 285＜秋＞	2単位

【講義概要】
一般的な持久力を高める有酸素運動に、柔軟性・筋力・瞬発力などの要素も取り入れたエアロビクスを皆で楽しみながら実践する。具体的には、エアロバイク、トランポリン、跳び縄、フラフープ、エアロビックエクササイズなどにより、毎時、変化をつけて効果的に行う。

【学習目標】
自己の体力にあわせて、無理なく、楽しく、手軽に実施することができるエアロビクスの実践を通して、運動の効果を体得し、生涯スポーツに繋げることを目指す。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　エアロビクスとは
第２回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（１）
第３回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（２）
第４回　トランポリンを楽しみながらシェイプアップ（３）
第５回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（１）
第６回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（２）
第７回　フラフープを楽しみながらシェイプアップ（３）
第８回　エアロバイクをこぎながらシェイプアップ（１）
第９回　エアロバイクをこぎながらシェイプアップ（２）
第10回　エアロバイクをこぎながらシェイプアップ（３）
第11回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（１）
第12回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（２）
第13回　縄跳びを楽しみながらシェイプアップ（３）
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席、学習態度、レポートなどにより総合的に評価する。

【参考文献】
特になし（必要に応じ資料を配付）

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学演習［2］－2010秋　271＜秋＞	
前　山　　直	2単位

【講義概要】
健康や体力、スポーツ文化に対する認識を深め、生涯を通じた心身の健康の保持増進を図るため、科学的にその知識や方法を講義と実技を一体化して実施する。
カナダ生まれのニュースポーツ「キンボール」を使ってリードアップゲームやオフィシャルゲームを体験し、笑顔を絶やさず身体を動かす喜びを皆さんに伝えていきたい。

【学習目標】
・キンボールの練習やゲームを通じて、技能や体力の向上を図る。
・生涯にわたるスポーツライフを設計し、実践する能力を育成する。
・グループでの活動に必要な態度を身につける。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　リードアップゲーム紹介
第３回　ヒットとレシーブ練習
第４回　ルールバリエーション紹介
第５回　ゲーム体験
第６回　グループ練習　①
第７回　グループ練習　②
第８回　リーグ戦　①
第９回　リーグ戦　②
第10回　リーグ戦　③
第11回　グループ練習　③
第12回　リーグ戦　④
第13回　リーグ戦　⑤
第14回　まとめ

【成績評価の方法】
出席率、学習態度、レポートなどから総合評価する。

【参考文献】
適宜指示する。（必要に応じて資料を配布する。）

【備考】
・02～08生対象（02～07生は読替一覧参照）

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学講義－健康科学概論　＜春集＞	
高　橋　ひとみ	4単位

【講義概要】
長寿社会を迎え、単に寿命の延長という時間的なモメントのみを追求していた時代が終焉し、延長した時間の内実が問われるようになった。そこで、QOL（quality of life）を高めるライフスタイルについて、運動と栄養と休養の面から学習する。

【学習目標】
長寿と健康と幸福は、古今東西を問わず人の普遍的な望みである。健康を追求するということは、寿命を探求することにつながり、同時に幸福を探求することに連なっている。健康と幸福と寿命は分節化して考えることはできない表裏一体の関係にある。「生まれてきてよかった」と思える一生を送るために必要な身体的・精神的・社会的健康について学習し、自分と家族と社会のために実践する能力を養う。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　健康の概念
第２回　子どもの健康を守るために（１）
第３回　子どもの健康を守るために（２）
第４回　子どもの健康を守るために（３）
第５回　子どもの健康を守るために（４）
第６回　子どもの健康を守るために（５）
第７回　子どもの健康を守るために（６）
第８回　子どもの健康を守るために（７）
第９回　子どもの健康を守るために（８）
第10回　子どもの健康を守るために（９）
第11回　子どもの健康を守るために（10）
第12回　青年期の健康を求めて（１）
第13回　青年期の健康を求めて（２）
第14回　青年期の健康を求めて（３）
第15回　青年期の健康を求めて（４）
第16回　青年期の健康を求めて（５）
第17回　壮年期・熟年期・高齢期を健康に過ごそう（１）
第18回　壮年期・熟年期・高齢期を健康に過ごそう（２）
第19回　壮年期・熟年期・高齢期を健康に過ごそう（３）
第20回　壮年期・熟年期・高齢期を健康に過ごそう（４）
第21回　壮年期・熟年期・高齢期を健康に過ごそう（５）
第22回　ストレス社会で健康を保つには（１）
第23回　ストレス社会で健康を保つには（２）
第24回　健康な身体を作るための栄養とは（１）
第25回　健康な身体を作るための栄養とは（２）
第26回　健康な身体を守るための休養とは（１）
第27回　健康な身体を守るための休養とは（２）
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
出席はとらないが、ビデオ学習後にはコメントペーパー（感想）を提出してもらうことがある。

【参考文献】
必要に応じて紹介する。

【備考】
準備学習の指示：授業前後に予習復習をして臨んでほしい。

科目名　クラス　講義区分	
健康・スポーツ学講義［2］－スポーツ論　＜秋＞	
高　　成　廈	2単位

【講義概要】

本講義は、現代社会におけるスポーツの様々な諸問題を取り上げ、講義を展開する。具体的な事例として、企業スポーツが廃部・休部に追い込まれ崩壊している現状。また、スポーツ界におけるプロ化の動向とその背景について検討し追究する。

海外のスポーツ事情、スポーツビデオ、新聞の切抜き等、時事的な話題を素材にしてスポーツの意義や重要性について理解を深める。

【学習目標】

現代社会におけるスポーツの基礎的な知識を学習し、自己のスポーツ観を確立させる。

【講義計画】

第１回　オリエンテーション・・・講義計画・展開および評価方法の確認等
第２回　現代社会の特徴とスポーツ
第３回　日本のスポーツ政策
第４回　VTR「眠れる再生力を呼びさませ」
第５回　体育とスポーツ
第６回　企業スポーツの現状「バブル経済の崩壊と相次ぐ休廃部」
第７回　企業スポーツの歴史と役割
第８回　中間まとめ
第９回　プロスポーツについて
第10回　JFAテクニカルレポート
第11回　海外のスポーツ事情①
第12回　海外のスポーツ事情②
第13回　海外のスポーツ事情③
第14回　Jリーグの百年構想
第15回　まとめ

【成績評価の方法】

①出席・授業毎の要約　③テスト等を総合的に評価する。

【参考文献】

講義でその都度、指示をする。

【備考】

講義内容については、必要に応じて変更する場合がある。
・08～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
言語学－意味論とその射程　＜春集＞	
清　水　真　一	4単位

【講義概要】

日常生活をおくるなかで、意味というものに思索をめぐらしてみることなどめったにないのではなかろうか。しかし、ことばを今一度考えてみる段になると、意味は欠かすことのできないことばの「構成要素」であることにあらためて気づかされる。意味をいろいろな角度から眺め直すことで言語をもう一度考え直す契機としたい。分析の対象となるデータはすべて英語のみであり、英英辞典からの情報、さまざまのジャンルから抽出された英文パラグラフが資料として利用される。また、英語文献の要約が課せられることもある。

【学習目標】

本講では、受講生が各自みずからが（英語の）データ分析することに多くの時間を費やすことによって授業に参加するかたちをとることになるであろう。また、数理的な道具も利用しながら意味についての自らの明確な理解に向かう契機となれば本講の目的が半ば達せられたと考える。講義の理解度をチェックするために小テストを定期的に実施する。従って、当然出席が重要視されることになろう。

【講義計画】

第１回　導入
第２回　日常の中の意味
第３回　辞書と情報（１）
第４回　辞書と情報（２）
第５回　語の意味（１）
第６回　語の意味（２）
第７回　語の意味（３）
第８回　語の意味（４）
第９回　語の意味（５）
第10回　意味と集合論（１）
第11回　意味と集合論（２）
第12回　意味と集合論（３）
第13回　論理と意味（１）
第14回　論理と意味（２）
第15回　論理と意味（３）
第16回　句・文の意味（１）
第17回　句・文の意味（２）
第18回　句・文の意味（３）
第19回　句・文の意味（４）
第20回　句・文の意味（５）
第21回　意味と意味論のひながた（１）
第22回　意味と意味論のひながた（２）
第23回　意味と意味論のひながた（３）
第24回　パラグラフの意味（１）
第25回　パラグラフの意味（２）
第26回　意味と文脈（１）
第27回　意味と文脈（２）
第28回　まとめ

【成績評価の方法】

試験　100％
ただし、試験の100％は、学期末試験の60％と、授業中に実施される小テスト40％から成る。従って、出席も評価の一部をなすこともある。

【教科書】

プリントを配布する。

【参考文献】

授業にて適宜指示する。

【備考】

【準備学習の指示】
より効果的な授業であるためにも、各自、授業前に参考文献などに目をとおし、また、復習をしっかりとしておくこと。

科目名　クラス　講義区分	
言語学概論　＜通期＞	
西　岡　武　彦	4単位

【講義概要】
近年の新しい言語学の潮流を紹介し、多角的に言語の問題にアプローチして行く。

【学習目標】
日常使用する言語がいかに機能的に使用されているかを実感することを目標とする。

【講義計画】
第１回　「言語学概論」でどのような分野を扱うのかを紹介するとともに授業のオリエンテーションを行う。
第２回　意味の研究１
第３回　意味の研究２
第４回　意味の研究３
第５回　意味の研究４
第６回　意味の研究５
第７回　意味の研究６
第８回　意味の研究７
第９回　意味の研究８
第10回　意味の研究９
第11回　意味の研究10
第12回　言語の運用１
第13回　言語の運用２
第14回　言語の運用３
第15回　言語の運用４
第16回　言語の運用５
第17回　言語の運用６
第18回　言語の運用７
第19回　言語の運用８
第20回　言語の運用９
第21回　言語の運用10
第22回　新たな言語学の潮流１
第23回　新たな言語学の潮流２
第24回　新たな言語学の潮流３
第25回　新たな言語学の潮流４
第26回　新たな言語学の潮流５
第27回　新たな言語学の潮流６
第28回　新たな言語学の潮流７
第29回　新たな言語学の潮流８
第30回　新たな言語学の潮流９

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　30%　出席　40%

【参考文献】
授業中の随時紹介する。

科目名　クラス　講義区分	
言語の習得　＜春集＞	
Kevin　R.　Gregg	4単位

【講義概要】
ヒトは健常者であれば誰でも母語を早いうちにマスターするが、どのようにして母語を身につけるのかという疑問については、未だに満足の行く説明がなされていない。本授業では、この根本的かつ基本的な問題に関して、現在まで組み立てられた理論を検討した上で、言語獲得の問題をさまざまな角度から考察してゆく。

【学習目標】
この授業は、言語獲得論をテーマとしている。この理論は、とりわけ乳幼児が母語を身につけてゆく過程を解明しようとする試みである。授業において受講生は、獲得論の基礎概念や、説明すべき問題点を把握したうえで、仮説の形成、検証方法、データの分析をある程度理解することを目標とする。

【講義計画】
第１回　科学理論の基礎概念、こころの構造の理論
第２回　科学理論の基礎概念、こころの構造の理論
第３回　獲得論の基礎概念：言語能力／言語運用、刺激の貧困、学習可能性、等
第４回　獲得論の基礎概念：言語能力／言語運用、刺激の貧困、学習可能性、等
第５回　最終状態：普遍文法とパラメーター
第６回　最終状態：普遍文法とパラメーター
第７回　最終状態：普遍文法とパラメーター
第８回　初期状態
第９回　初期状態
第10回　事例研究（１）：英語の文法
第11回　事例研究（１）：英語の文法
第12回　事例研究（１）：英語の文法
第13回　事例研究（１）：英語の文法
第14回　事例研究（１）：英語の文法
第15回　事例研究（２）：英語の語
第16回　事例研究（２）：英語の語
第17回　習得メカニズムと習得原理
第18回　習得メカニズムと習得原理
第19回　習得メカニズムと習得原理
第20回　入力：肯定的、否定的
第21回　入力：肯定的、否定的
第22回　心の理論と言語獲得
第23回　心の理論と言語獲得
第24回　年齢と言語獲得
第25回　年齢と言語獲得
第26回　第２言語獲得の問題
第27回　第２言語獲得の問題
第28回　第２言語獲得の問題
第29回　まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%
学期末試験以外に、小テストが複数ある。授業に出席するかどうかは各自次第であるが、出席して念入りにノートをとらない限り、単位を得ることは、事実上不可能である。

【教科書】
William O'Grady（内田聖二監訳）子どもとことばの出会い 研究社
授業に持参する必要はないが、受講生各自が担当者の指示に従って読んだ、という前提に基づいて講義や試験を行なう。

【参考文献】
Steven Pinker（椋田直子訳）『言語を生みだす本能』（上、下）NHK

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
言語と社会　＜秋集＞	
橋　内　　武	４単位

【講義概要】
本講では言語と社会の関係を明らかにしようとする。この学問分野は社会言語学と称されるが、ミクロ社会言語学とマクロ社会言語学の両方についての基礎事項を学習する。

【学習目標】
ミクロ社会言語学は主に家族や友人とのコミュニケーションを研究するのに対して、マクロ社会言語学は国家の言語政策や言語と民族の関係を考察する。これらの基本的事項をおさえることを主な学習目標とする。二次的には外国人への言語サービスや外国語教育への応用にも触れることで、この分野が社会的にも役立つことを学びたい。

【講義計画】
第１回　イントロダクション（講義計画・教科書・評価法等）
第２回　社会言語学とは何かーさまざまな社会言語学
第３回　談話分析ー談話とは何か
第４回　ことばの構造と機能
第５回　テクストとコンテクスト
第６回　談話とコミュニケーション
第７回　発話行為論と語用論
第８回　ポライトネスと敬語
第９回　コミュニケーションの民族誌
第10回　会話分析ー電話のやりとり
第11回　非言語コミュニケーションー目は口ほどにものを言い
第12回　アコモデーション理論ー言語社会心理学
第13回　相互行為の社会言語学
第14回　批判的談話分析ー言語と権力
第15回　言語の変種ー社会方言とレジスター
第16回　言語のゆれと言語変化ー新方言
第17回　言語とジェンダーーフェミニズムと言語変革
第18回　言語と民族ー少数民族語の維持・交替・消滅
第19回　言語と国家ー国語と公用語・言語問題と言語計画
第20回　言語とアイデンティティー国民・民族・地域住民
第21回　言語接触ー外来語とバイリンガリズム
第22回　言語接触ーピジン・クレオール
第23回　言語監査ー外国人住民への言語サービス
第24回　外国語教育への応用ー言語教育政策
第25回　外国語教育への応用ーコミュニカティブ・アプローチ
第26回　外国語教育への応用ーバイリンガル教育
第27回　社会言語学の歴史と未来展望
第28回　社会言語学の今後の課題
第29回　まとめと補遺

【成績評価の方法】
出席20%、レポート20%、期末試験60%である。
レポートの課題は、授業が始まってから教室で指示する。

【教科書】
橋内　武 ディスコースー談話の織りなす世界 くろしお出版
大谷　泰照　他 EUの言語教育政策 くろしお出版

【参考文献】

真田信治編、『社会言語学の展望』、くろしお出版。
真田信治他、『方言の機能』（シリーズ方言学４）、岩波書店
JACETバイリンガリズム研究会編、『日本のバイリンガル
教育ー学校の事例から学ぶ』、三修社。
東照二著、『社会言語学入門』、研究社。
ロング、ダニエル編著、『応用社会言語学を学ぶ人のために』、世界思想社。
小池生夫編集主幹、『応用言語学事典』、研究社。
ジョンソン、K.『外国語教育学大辞典』、大修館書店。
中島平三編、『言語の事典』、朝倉書店。
雑誌『言語』、『日本語学』、『ことばと社会』

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
言語表現論　＜通期＞	
西　岡　武　彦	４単位

【講義概要】
われわれが日常生活のコミュニケーションで交わす言語の表現形式は、いったい何を表現しているのだろうか。言語形式に託す意味を考えるのが本講義の趣旨です。

【学習目標】
実際に発話する文章は、文章以上のことを語っているという点を理解し、必要最小限の言語表現で、非常に多くのことを語ることができることばの面白さを認識することを目標にします。

【講義計画】
第１回　今学期は言語形式と意味の問題を文法と関連づけて考えることを主眼とします。第１回目はそのオリエンテーションを行います。
第２回　「言語形式と意味」の理解１
第３回　「言語形式と意味」の理解２
第４回　「言語形式と意味」の理解３
第５回　「言語形式と意味」の理解４
第６回　「言語形式と意味」の理解５
第７回　「言語形式と意味」の理解６
第８回　「言語形式と意味」の理解７
第９回　「言語形式と意味」の理解８
第10回　「言語形式と意味」の理解９
第11回　「言語形式と意味」の理解10
第12回　「言語形式と意味」の理解11
第13回　「言語形式と意味」の理解12
第14回　「言語形式と意味」の理解13
第15回　「言語形式と意味」の理解14
第16回　言語と意味の問題に対するアプローチの仕方において、春学期とは異なったアプローチの仕方を紹介し意味の奥深さを考える視点を説明します。
第17回　日本語の文末表現から意味を探る１
第18回　日本語の文末表現から意味を探る２
第19回　日本語の文末表現から意味を探る３
第20回　日本語の文末表現から意味を探る４
第21回　日本語の文末表現から意味を探る５
第22回　日本語の文末表現から意味を探る６
第23回　日本語の文末表現から意味を探る７
第24回　日本語の文末表現から意味を探る８
第25回　日本語の文末表現から意味を探る９
第26回　日本語の表現から発話主体を探る１
第27回　日本語の表現から発話主体を探る２
第28回　日本語の表現から発話主体を探る３
第29回　日本語の表現から発話主体を探る４
第30回　日本語の表現から発話主体を探る５

【成績評価の方法】
試験　30%　レポート　30%　出席　40%

【参考文献】
授業中に適宜紹介します。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
現代アジア論　＜通期＞	
原　山　　煌	4単位

【講義概要】
現在経済的にも大きく飛躍し、世界中から注目されているアジア。そこは広大な世界であり、さまざまな政治･経済、歴史、文化、民族、言語がある。それゆえ地域によってさまざまな特徴を見せ、多くの魅力を持って人々をひきつける。
この講義は、こうしたアジア世界のさまざまな地域の政治･経済や社会、文化などについて、複数の講師がインテグレーション形式で担当する。東アジア、東南アジア、南アジア、内陸アジア、西アジアなど、それぞれの講師が専門とするアジア各地の「現代」について論じ、アジア世界の持つ魅力や、現在直面している諸問題を検討する。

【学習目標】
これまでアジアについては、経済発展と貧困、紛争の頻発といった問題がクローズアップされてきたが、近年、経済のグローバル化のもと多くの地域で少子高齢化が進み、国境を越えて人も文化も融合するといった新しい現象も見られるようになっている。こうした事柄を表面的に理解するだけでなく、その背後にある思想や文化にも洞察を深めることを目標とする。

【講義計画】
第１回　アジアとは
第２回　朝鮮半島における現代文化①
第３回　朝鮮半島における現代文化②
第４回　朝鮮半島における現代文化③
第５回　日・韓のスポーツ－サッカーを中心として－①
第６回　日・韓のスポーツ－サッカーを中心として－②
第７回　チンギス・カンの後裔たち－モンゴルは今－①
第８回　チンギス・カンの後裔たち－モンゴルは今－②
　　チンギス・カンの後裔たち－モンゴルは今－②
第９回　チンギス・カンの後裔たち－モンゴルは今－③
第10回　中国伝統思想の現代的意義①
第11回　中国伝統思想の現代的意義②
第12回　中国伝統思想の現代的意義③
第13回　東南アジア地域研究①
第14回　東南アジア地域研究②
第15回　東南アジアという地域の多様性･同質性・一体化①
第16回　東南アジアという地域の多様性・同質性・一体化②
第17回　東南アジアという地域の多様性・同質性･一体化③
第18回　現代インドネシア研究①
第19回　現代インドネシア研究
　　現代インドネシア研究②
第20回　現代インドネシア研究③
第21回　「中国」「拡大中国」、そして「中華の世界」①
第22回　「中国」「拡大中国」、そして「中華の世界」②
第23回　「中国」「拡大中国」、そして「中華の世界」③
第24回　西アジア・イスラーム世界①
第25回　西アジア・イスラーム世界②
第26回　西アジア・イスラーム世界③
第27回　南アジアの開発と文化①
第28回　南アジアの開発と文化②

【成績評価の方法】
レポート　60%　出席　40%
最初の講義で、講義の内容や進め方、成績評価の方法などを詳しく瀬梅視するので、必ず出席すること。
毎回講義の最後に、最も関心を持った点について具体的なコメントを記述する。そのことによって出席状況の確認と理解度を把握する。これとは別に、前期、後期のそれぞれに、自らの関心を最も引いた講義テーマについてリポートを提出する。それらを総合的に判断して成績評価するものとする。

【参考文献】
各講師から授業中に適宜紹介される。

【備考】
・インテグレーション科目
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
現代英語圏文化の諸問題－シェイクスピア劇の女性＜通期＞	
宮之原　匡　子	4単位

【講義概要】
400年以上も前の劇作家であるにもかかわらず、シェイクスピアの劇作品は現代でも上演され、映画化され、読まれ続けている。
家父長制というゆるぎない基盤が存在し、女は男に従うものとされていた時代において、シェイクスピアはしばしば、自分の考えを口に出し、行動する女性を描いている。この講義ではいくつかの作品に登場する、そのような現代的であるとも言える女性に注目する。

【学習目標】
この講義ではLove's Labour's Lost、The Merchant of Venice、Much Ado About Nothing、Othello、King Learを取り上げる予定であるが、受講者の反応を見て調整する。
シェイクスピアの生きた時代の政治的・社会的・文化史的・演劇史的背景をふまえたうえで、各作品の名場面、名セリフを原文で読み、映画や舞台の映像を観て、作品全体を鑑賞する。各作品の内容を把握し、女性たちの人物像を読み取る。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
第２回　シェイクスピア時代のイギリス
第３回　シェイクスピア時代のイギリス
第４回　シェイクスピアについて
第５回　シェイクスピアについて
第６回　Love's Labour's Lost
第７回　Love's Labour's Lost
第８回　Love's Labour's Lost
第９回　Love's Labour's Lost
第10回　Love's Labour's Lost
第11回　The Merchant of Venice
第12回　The Merchant of Venice
第13回　The Merchant of Venice
第14回　The Merchant of Venice
第15回　Much Ado About Nothing
第16回　Much Ado About Nothing
第17回　Much Ado About Nothing
第18回　Much Ado About Nothing
第19回　Othello
第20回　Othello
第21回　Othello
第22回　Othello
第23回　Othello
第24回　King Lear
第25回　King Lear
第26回　King Lear
第27回　King Lear
第28回　King Lear
第29回　まとめ

【成績評価の方法】
学期末レポート：50%、出席：30パーセント、小レポート：20%

【教科書】
プリントを配布する。

【参考文献】
授業中に適宜指示する。

【備考】
辞書は必携。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
現代英語圏文化の諸問題－ミュージカルの贈物　＜秋集＞	
小　野　良　子	4単位

【講義概要】
20世紀に英米で誕生した大衆娯楽であるミュージカルは、そもそも16世紀末にイタリアで王侯貴族の娯楽として生まれた音楽劇（オペラ）と、その後、17世紀に時代の世相や生活習俗を映した現代喜劇的な音楽劇(オペラ・ブーファ）から発展して19世紀後半に生まれたオペレッタが原型である。
イギリスを本家としてアメリカでも独自の発展を遂げたミュージカルは、歌、踊り、演劇を組み合わせた、娯楽性と芸術性を兼ね備えた総合芸術を提供する。

【学習目標】
時代を代表する英米のミュージカル作品を取り上げ、それぞれの作品を鑑賞(映像）しながら、娯楽の枠組みの中でミュージカルが観客・聴衆に発信する社会的メッセージを考える。

【講義計画】
第１回　概要紹介
第２回　ミュージカルの歴史(１)
第３回　ミュージカルの歴史(２)
第４回　『マイ・フェア・レデイ』(1958年、米)：イギリスの階級社会(１)
第５回　　(２)
第６回　　(３)
第７回　　(４)
第８回　『屋根の上のバイオリン弾き』(1964年、米)：ユダヤ民族の悲劇(１)
第９回　　(２)
第10回　　(３)
第11回　　(４)
第12回　　(５)
第13回　『ジーザス・クライスト・スーパースター』(1971年、英)(１)
第14回　　(２)
第15回　　(３)
第16回　　(４)
第17回　『キャッツ』(1982年、英)：野良猫たちの物語(１)
第18回　　(２)
第19回　　(３)
第20回　　(４)
第21回　『ヘアースプレイ』(2006年、米)：人種の対立と融合(１)
第22回　　(２)
第23回　　(３)
第24回　　(４)
第25回　『レント』(2000年、米)：AIDS・ドラッグ・友情(１)
第26回　　(２)
第27回　　(３)
第28回　　(４)
第29回　　(５)
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　０％　レポート　40%　出席　60%
１．小レポート：毎時間終了時に提出(小クイズ)
２．課題レポート：学期末に提出

【教科書】
テキストは使用しない。
資料はプリントを配布する。

【参考文献】
授業中に紹介する。

【備考】
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
現代技術論　＜秋集＞	
辻　　洋一郎	4単位

【講義概要】
最近は製造業だけでなく、流通、サービス、物流や金融の現場でも「技術」を知らないと仕事になりません。しかし、小難しい数式や理屈は理系＝工学部出身者に任せておけばよいのです。具体的な中身ではなく、技術の『考え方』さえ知っておけば、将来、営業や経理・企画で活躍する皆さん方が、技術者に翻弄されることなく、彼らをコントロールできるのです。
この講義では、身近な新製品や新技術を例にあげて『技術の構図』、『技術的なものの見方』や『技術的な考え方』をマーケティングとからめて理解することに力点を置きます。考え方さえ習得すれば、文科系でも理科系に負けない企画やビジネスチャンスをものにすることも可能です。

【学習目標】
この講義では、現代技術に対する恐怖心をなくし、技術に親しむことを第一にしています。 以下の授業計画は順不同です。受講生の水準に応じて、必要と思われる内容を適宜追加することもあります。

【講義計画】
第１回　経済を支える技術革新
第２回　技術の歴史と進化－その１
第３回　技術の歴史と進化－その２
第４回　技術の歴史と進化－その３
第５回　身近な製品にみる技術－その１
第６回　身近な製品にみる技術－その２
第７回　身近な製品にみる技術－その３
第８回　身近な製品にみる技術－その４
第９回　身近な製品にみる技術－その５
第10回　身近な製品にみる技術－その６
第11回　身近な製品にみる技術－その７
第12回　身近な製品にみる技術－その８
第13回　技術の歴史と進化－その１
第14回　技術の歴史と進化－その２
第15回　技術の歴史と進化－その３
第16回　特許と技術－その１
第17回　特許と技術－その２
第18回　特許と技術－その３
第19回　技術とマーケティング－その１
第20回　技術とマーケティング－その２
第21回　技術とマーケティング－その３
第22回　技術とマーケティング－その４
第23回　経済を支える技術革新
第24回　技術戦略と経済
第25回　技術の進歩／技能の進化
第26回　技術を取り巻く要因
第27回　技術の限界と社会
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　80%　レポート　20%
上記のほか、平常点を加味して評価します。
詳細は第１回目の講義時に説明します。

【参考文献】
適宜指示します。

尚、本講義の予習は必要ありませんが、毎回、その日のうちに復習しておくことをお奨めします。方法は、講義中に示します。

科目名　クラス　講義区分	
現代思想　＜春集＞	
岩　津　洋　二	４単位

【講義概要】
私たちは人生の途上でさまざまな恐怖に遭遇する。爆弾テロを怖がり、地震を怖がり、お化けを怖がり、友達から嫌われるのを怖がる。じつに多くの恐怖が私たちの生活につきまとっており、恐怖ゆえに、私たちはしたいことを思いとどまり、したくないことをあえておこなっている。しかし、私たちの行動の決定にかくも深くかかわっている恐怖がどのようなものであるかについて正しく認識している人は多くない。
この講義は、哲学のみならず心理学・生理学・民族学・民俗学などの多様な視点から恐怖を解剖し、その作業をとおして、恐怖にとらわれている自分を見つめなおし、恐怖から自分を解放し、より自由になるための手がかりをさぐるという実践的な課題を追求する。

【学習目標】
自分の日常生活を哲学的な反省の対象としてみることをとおして、世界と自分自身を再発見するきっかけとしたい

【講義計画】
第１回　ガイダンス
第２回　恐怖の諸相
第３回　近代人の恐怖理解
第４回　恐怖の心理学
第５回　恐怖の生理学
第６回　恐怖の精神分析
第７回　過剰な恐怖
第８回　対人恐怖
第９回　対人恐怖と日本文化
第10回　規範としての恐怖
第11回　現代日本の恐怖
第12回　和合としての恐怖
第13回　伝統的恐怖対象Ⅰ
第14回　伝統的恐怖対象Ⅱ
第15回　近代人の恐怖Ⅰ
第16回　近代人の恐怖Ⅱ
第17回　テロリズム論批判
第18回　恐怖の利用Ⅰ
第19回　恐怖の利用Ⅱ
第20回　集合的恐怖Ⅰ
第21回　集合的恐怖Ⅱ
第22回　現代アメリカの恐怖Ⅰ
第23回　現代アメリカの恐怖Ⅱ
第24回　恐怖への接近
第25回　恐怖愛好の構造
第26回　恐怖への接近の仕方
第27回　恐怖とのつき合い方
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　30%
試験もレポートも、授業中に事前の予告なく、随時おこなうことがある。

【教科書】
教科書は使わないが、毎回レジュメを利用する。

【参考文献】
授業中に適宜指示する

科目名　クラス　講義区分	
現代資本主義論　＜秋集＞	
鈴　木　　健	４単位

【講義概要】
現代資本主義あるいは現段階の資本主義に著しく特徴的なのは、それがグローバル資本主義として現れていることである。資本（独占資本）の本性は世界主義であるから、グローバル資本主義はその発現として必然なのだが、資本主義はつねにグローバル資本主義と特徴づけられる有り方をしてきたわけではない。現代資本主義がグローバル資本主義と特徴づけられるのは、資本主義の本性である世界主義を発現させる諸条件が世界の諸国家の合意を前提に形成され、文字通りグローバルな資本運動を一般化させる条件が画段階的に形成されつつあるからに他ならない。
本講義では、グローバル資本主義の諸側面を取り上げ、資本主義がグローバル資本主義として発現するに至った所以について、可能な限り歴史的・理論的に検討を加え、グローバル資本主義の全体としての把握を試みることにする。

【学習目標】
本講義の獲得目標は次の三つである。第一は、資本主義もまた歴史的に制限された経済システムであることを受講生の認識として確立すること、第二は、現代資本主義が独占段階の資本主義であり、しかも、第二次世界大戦後の新しい条件によって規定される独占資本主義であることを明瞭にすること、そして第三は、現代資本主義の一大特徴である「金融化」が如何なる事態を惹き起こすのかということについて、受講生の明瞭な理解を確立することである。総じて、受講生の現代資本主義理解を一歩前進させることである。

【講義計画】
第１回　１、ガイダンス－本講義の課題と講義計画－現代資本主義論序論
－現代資本主義の提起する諸問題、
－現代資本主義論の課題
第２回　独占資本主義論－自由競争段階から独占段階へ①
第３回　独占資本主義論－自由競争段階から独占段階へ②
第４回　独占資本主義論－独占資本・支配的資本①
第５回　独占資本主義論－独占資本・支配的資本②
第６回　独占資本主義論－国家独占資本主義論①
第７回　独占資本主義論－国家独占資本主義論②
第８回　独占資本主義論－国家独占資本主義論③
第９回　独占資本主義論－独占資本支配と帝国主義戦争①
第10回　独占資本主義論－独占資本支配と帝国主義戦争②
第11回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開①
第12回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開②
第13回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開③
第14回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開④
第15回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開⑤
第16回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開⑥
第17回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開⑦
第18回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開⑧
第19回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開⑨
第20回　第二次大戦後の資本主義世界経済－国際的国家独占資本主義の展開⑩
第21回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界①
第22回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界②
第23回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界③
第24回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界④
第25回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界⑤
第26回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界⑥

第27回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界⑦
第28回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界⑧
第29回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界⑨
第30回　現代資本主義のグローバル化－新自由主義的対外膨張の進展と限界⑩

【成績評価の方法】
試験　100%
講義時間中に10回のテストを行い、６回以上の受験、６割以上の得点を合格とする。受験回数は出席回数でもあるから、評価のうえで大きなウェイトを占めることになる。テキストは使わず、レジュメにもとづく講義が中心なので、出席する意図のない者には単位取得は困難である。

【教科書】
テキストは使用せず、教員が用意するレジュメを用いて講義する。

【参考文献】
講義中に適宜紹介する。

【備考】
受講者は、講義終了後、講義用に配布されたレジュメ・資料などを参照しながら講義の内容を復習し、併せて次回の講義内容について、あらかじめ予習することが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
現代社会論　01＜春集＞ 現代社会論　02＜秋集＞	
篠　原　千　佳	４単位

【講義概要】
現代社会論の講義では、社会学の基礎知識を身に付け、さまざまな社会問題について日本社会を中心に学び考える。トピックとしては、孤立化社会、学校・教育と就職問題、非行と犯罪、地域社会の崩壊と再生、グローバル化と社会の多様化、社会階層と格差、メディアと大衆文化、人権問題と雇用均等、福祉国家、安心社会から信頼社会への変化、幸福感と関連社会意識、グローバル化社会と日本の役割など。

【学習目標】
社会学の理論・研究方法など基礎知識を習得しながら、最近のグローバル化する社会で起こっている様々な問題を社会学的に理解・分析する基礎的能力を育てることを目標とする。この学期の最終目標は、多様化する現代社会の現象や問題を多角的な視点で理解・分析し、解決方法を模索し提示できるようになることである。

【講義計画】
第１回　講義紹介
第２回　社会学って何？グローバル化社会って何？
第３回　現代社会をキャッチする－社会学理論と調査方法
第４回　孤人化社会と親密性の罠１－ヒキコモリとか人間関係とか…
第５回　孤人化社会と親密性の罠２－ケータイに着信がないと孤独
第６回　学校から職業へ１－未来予想図は見える？
第７回　学校から職業へ２－学歴社会のホント
第８回　非行文化喪失と少年犯罪１－野ブタ。をプロデュースの世界
第９回　非行文化喪失と少年犯罪２－ピアーとソーシャル・ネットワークの力
第10回　地域社会の崩壊と再生１－シャッター商店街、増えるホームレス
第11回　地域社会の崩壊と再生２－外国人も一緒、多様化社会、ボランティア社会
第12回　格差と不平等１－上流・下流、勝ち組・負け組、二極化社会
第13回　格差と不平等２－少子高齢化社会と階層社会
第14回　これまでのまとめと復習
第15回　社会変動と大衆文化１－何で読む？本、PC、それともケータイ？
第16回　社会変動と大衆文化２－日本のメディアとポップ・カルチャー
第17回　家族とジェンダー１－世界と日本の家族と雇用政策と性別役割
第18回　家族とジェンダー２－LGBT
第19回　福祉国家１－ネオリベラリズムと福祉国家の社会保障制度
第20回　福祉国家２－大丈夫？日本の出産、保険、年金、介護
第21回　安心社会から信頼社会へ１－リスク社会、安心社会、信頼社会
第22回　安心社会から信頼社会へ２－市民社会とNGO・NPO
第23回　グローバル化と社会意識の変化１－世界がもし100人の村だったら
第24回　グローバル化と社会意識の変化２－グローバル化と幸福感の変化
第25回　グローバル社会と日本の役割１－日本とUN国際機関の役割
第26回　グローバル社会と日本の役割２－グローバル化社会の制度と文化
第27回　まとめ
第28回　試験準備
第29回　期末試験

【成績評価の方法】
基本的な理解を試験と自由選択テーマの論述で確認するほかに、授業への参加・貢献の総合的な判断で評価する。毎回講義時間内外の課題に取り組み、積極的に参加・貢献することに加えて、協調性を持って他の受講生とも課題に取り組むことが求められる。

【教科書】
友枝敏雄・山田真茂留（編）Do！ソシオロジー　現代日本を社会学で診る 有斐閣アルマ

【備考】
準備学習
講義時の指示に従い、教科書等を毎回必ず予習・復習し授業に臨むこと。基本的には、教科書の該当する章（約10～20ページ）を熟読し、その章の設問に答えられるよう準備をしておくこと。講義時間内外での提出課題は個人、ペア、グループ・ワークなど多様であり、自立心と積極性に加えて協調性が求められる。

科目名　クラス　講義区分	
現代中国社会　＜春＞	
坂井田　夕起子	２単位

【講義概要】
中華人民共和国は2009年に建国60周年を迎えた。本講義では、この60年間の社会・政治の移り変わりと現代中国の諸問題について影像資料（映画やドキュメンタリーフィルム）を用いながら講義を行う。影像資料の内容については、受講生の基礎知識や興味に合わせて若干の変更も行う。

【学習目標】
現代中国の政治、経済、民族、教育、環境問題および台湾との関係について理解を深め、日本との関わりを考えていく。

【講義計画】
第１回　ガイダンス。受講生の中国近現代史、現代社会に対する基礎知識を確認し、今後の授業内容について説明を行う。
第２回　改革開放政策と格差社会について
第３回　現代中国メディアと報道の自由の問題について
第４回　現代中国の教育問題について
第５回　現代中国の教育と格差社会の問題について
第６回　現代中国の土地問題と訴訟について
第７回　ドキュメンタリー映画『失われた龍の系譜』の前半を用いた授業。
第８回　ドキュメンタリー映画『失われた龍の系譜』の後半を用いた授業。
第９回　日中戦争の歴史と中国残留孤児について
第10回　中国残留日本兵の問題について
第11回　台湾政治と中国
第12回　台湾と日本
第13回　中国の民族問題　チベットの改革開放
第14回　ドキュメンタリー映画『女工哀歌』とグローバリゼーション
第15回　現代中国の環境問題について

【成績評価の方法】
レポート　70%　出席　30%
毎回の授業でレポートを提出してもらい、それと出席をあわせて評価を行う。欠席は４回まで、15分以上の遅刻は認めないが、就職活動でやむをえず欠席が多くなる学生には課題も考慮する。

【参考文献】
興梠　一郎『中国激流―13億のゆくえ』岩波新書。
阿古智子『貧者を喰らう国』新潮社。
アレクサンドラ・ハーニー『中国貧困絶望工場「世界の工場」のカラクリ』日経BP社。
水谷尚子『中国を追われたウイグル人』文春新書。
城山英巳『中国臓器市場』新潮社
ジャッキー・チェン『僕はジャッキー・チェン　初めて語られる香港帝王の素顔』近代映画社
有田芳生『私の家は山の向こう　テレサ・テン十年目の真実』文春文庫

【備考】
・06～10生対象

科目名　クラス　講義区分	
現代中国政治　＜春＞	
副　島　昭　一	２単位

【講義概要】
この授業では20～21世紀の中国の政治と社会の変容と現在の問題を取りあげる。現在の政権政党である中国共産党の成立から，現在までを通観してみることにより，現代中国の抱える諸問題や社会主義的市場経済の世界史的な意味について考える。

【学習目標】
中国の政治の仕組みは日本やヨーロッパとどこがどのように違うのか，なぜそのような違いが生まれたのか，などの素朴な疑問を歴史を少しさかのぼって明らかにし，日本人として中国を見る基本的な視点を持てるようにする。

【講義計画】
第１回　世界の政治体制の諸類型と中国の特徴
第２回　現代中国政治体制の創出過程
第３回　国家と政党
第４回　抗日戦争における民族的統一と近代国民国家形成への動き
第５回　中国共産党の指導の確立と中華人民共和国の成立
第６回　新民主主義から社会主義へ　１
第７回　新民主主義から社会主義へ　２
第８回　「大躍進」と人民公社　１
第９回　「大躍進」と人民公社　２
第10回　調整期から文化大革命へ
第11回　改革開放政策への転換，市場経済と社会主義
第12回　市場経済の進展と中国政治
第13回　一国両制と香港・台湾
第14回　現代化政策と政治改革
第15回　期末テスト

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　０%　出席　30%
受講生数によっては毎回の出席確認はしないので，上記の数字は変動することもある。授業の最初にコメント用紙を配布して，最後に回収する。したがって遅刻者はコメント用紙を提出できない場合もある。
また名簿をもとに授業中に質問をし，その答え方を評価することもある。
なお受講生が非常に多い場合の成績評価は試験のみによる。

【教科書】
池田・安井・副島・西村編 図説中国近現代史 法律文化社

【参考文献】
天児慧『中国・アジア・日本』（ちくま新書，700円＋税）
上村幸治『中国の今がわかる本』（岩波ジュニア新書，780円＋税）
西村成雄・国分良成『党と国家』（岩波書店，2,200円＋税）

【備考】
【準備学習の指示】
参考文献のうちの１冊以上を読んでおくことが望ましい。
・06～10生対象

か行

科目名　クラス　講義区分	
憲法　01＜通期＞ 憲法　02＜通期＞	
浅　川　千　尋	4単位

【講義概要】
本講義は、日本国憲法について、基本的人権、統治機構を中心にして、憲法の基本的内容を扱う。その際に、憲法の各テーマに関する学説を考察していく。また、裁判例を取り上げて具体的な観点から理解を深めるよう工夫をしていく。

【学習目標】
本授業の到達目標は、近代立憲主義および、それに基づく日本国憲法の体系を理解することにある。すなわち、憲法が「最高法規」であり「人権の法」であることの理解を理論的に深めていくことにある。抽象的な理論だけでなく、できるかぎり身近な素材や事例から、これら憲法の基礎を習得していく。

【講義計画】
第１回　近代憲法主義の意義
第２回　日本国憲法の成立と特色
第３回　憲法の分類
第４回　国民主権
第５回　選挙制度の概要
第６回　選挙制度の課題
第７回　国民主権と天皇制
第８回　国会の地位
第９回　国会の権能
第10回　国会の活動
第11回　議院内閣制
第12回　衆議院の解散
第13回　司法制度の原則
第14回　違憲審査制
第15回　人権思想の系譜
第16回　新しい人権
第17回　人権の享有主体
第18回　思想・信条の自由
第19回　平等原則の審査基準
第20回　平等原則の裁判例
第21回　自己決定権
第22回　信教の自由の意義
第23回　政教分離原則
第24回　表現の自由の意義
第25回　表現の自由の制約基準
第26回　社会権
第27回　平和主義
第28回　戦後改憲論の系譜
第29回　まとめ
第30回　試験

【成績評価の方法】
試験　100%
前期（春学期）小テスト（40点）を行い、後期（秋学期）試験（60点）を行って、成績評価をする。授業中何か書いてもらうときには、それを参考とする。

【教科書】
浅川千尋 リーガル・リテラシー憲法教育 法律文化社

科目名　クラス　講義区分	
憲法・基本的人権　＜秋集＞	
前　田　徹　生	4単位

【講義概要】
憲法は、大別すると「基本的人権」と「統治機構」の２分野で構成されている。本講義では、とりわけ「基本的人権」を中心に講義をおこなう。講義は、各種試験の受講者にも有益であるように解釈論を核とし、また、理解を早めるために個別分野ごとに具体的な事件・判例を紹介し、可能な限り憲法訴訟論的アプローチを加味しながら憲法学説の体系的な解説を試みる。さらに，今日もはや憲法理解に不可欠となっている欧米との比較憲法的視点を織り交ぜながらできる限り多角的な視野から考察をしていく。

【学習目標】
憲法・基本的人権の分野での基本概念の修得および憲法の通説的理解を目標とする。

【講義計画】
第１回　ガイダンス「憲法(学)とは何か」
第２回　日本国憲法成立史（１）
第３回　日本国憲法成立史（２）
第４回　基本的人権の享有主体
第５回　基本的人権の私人間効力
第６回　基本的人権と公共の福祉
第７回　特別な法律関係における人権
第８回　法の下の平等
第９回　個人の尊重と幸福追求権
第10回　プライバシーの権利
第11回　自己決定権
第12回　思想・良心の自由
第13回　信教の自由
第14回　政教分離の原則
第15回　学問の自由
第16回　表現の自由(１)
第17回　表現の自由(２)
第18回　被疑者・被告人の権利(１)
第19回　被疑者・被告人の権利(２)
第20回　裁判員制度
第21回　職業選択の自由（１）
第22回　職業選択の自由（２）
第23回　財産権の保障
第24回　生存権
第25回　教育を受ける権利
第26回　労働基本権
第27回　国務請求権
第28回　参政権

【成績評価の方法】
試験　80%　出席　20%
２／３以上の出席を単位認定の最低条件とする。出席点および定期試験を総合して判断する。

【教科書】
芦部信喜著、高橋和之補訂 憲法第４版 岩波書店
高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 憲法判例百選Ⅰ［第５版］有斐閣
高橋和之・長谷部恭男・石川健治編 憲法判例百選Ⅱ［第５版］有斐閣

【参考文献】
佐藤功『日本国憲法概説』(全訂第五版) 学陽書房
野中・中村・高橋・高見『憲法Ⅰ』(第４版) 有斐閣
佐藤幸治『憲法』(第三版) 青林書院
粕谷友介・向井久了・矢島基美編『青林法学双書　憲法』(第二版) 青林書院

【備考】
【準備学習の指示】
毎回の講義テーマに該当する箇所を教科書で学習しておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
憲法・統治機構　＜春集＞	
松　田　聰　子	４単位

【講義概要】
憲法IIでは、いわゆる統治機構に関する事項を学ぶ。憲法は人権保障の法であり、そのための統治構造を定めた法であることは、憲法Iですでに学んでいる。憲法IIでは、日本国憲法における国民主権、権力分立、地方自治、財政、平和主義に関する原理と解釈を体系的に学んでいく。できるだけ具体的な事件や判例を通して理解を深めていく。また、わが国の憲法解釈に不可欠な比較憲法からのアプローチも試みる。なお、国家試験の問題などにも適宜ふれていく。

【学習目標】
次の三点を学習の目標にする。
①日本国憲法の各条文について通説的見解を理解すること。
②憲法判例で重要な判例を理解すること。
③報道される憲法問題について、何が論点かを的確に指摘できるようになること。

【講義計画】
第１回　憲法と立憲主義
第２回　国法の体系と法の支配
第３回　憲法の類型
第４回　国民主権と主権概念
第５回　国民主権と憲法改正
第６回　国民主権と国民投票制度
第７回　国民主権と選挙制度（１）
第８回　国民主権と選挙制度（２）
第９回　国民主権と選挙制度（３）
第10回　国民主権と天皇制
第11回　国会の地位と権能（１）
第12回　国会の地位と権能（２）
第13回　国会の地位と権能（３）
第14回　国会の地位と権能（４）
第15回　国会議員の特権
第16回　議院内閣制（１）
第17回　議院内閣制（２）
第18回　衆議院の解散（１）
第19回　衆議院の解散（２）
第20回　司法権の意味と範囲
第21回　司法権の意味と範囲
第22回　国民主権と司法権
第23回　違憲立法審査制（１）
第24回　違憲立法審査制（２）
第25回　司法制度の課題
第26回　地方自治制度と財政制度
第27回　平和主義と戦後改憲論の系譜
第28回　憲法保障
第29回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％

【教科書】
芦部信喜・高橋和之補訂『憲法　第四版』岩波書店

【参考文献】
佐藤幸治『憲法（第三版）』（青林書院）、渋谷秀樹他『憲法２（第三版）』（有斐閣）、辻村みよ子『憲法（第三版）』（日本評論社）

【備考】
テキストの該当部分を予め読んでおくこと。授業を受けたあと、わからない用語や理論があれば書きだして調べておくこと。
・02～07生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
憲法入門　＜春＞	
前　田　徹　生	２単位

【講義概要】
憲法入門は、憲法学の学習を容易にするため、「具体から抽象へ」、「素材（基本事例）の習得から理論的整理へ」を基本に、その前段階の憲法学習の基本となる素材（基本事例）の習得に力点が置かれる。憲法の基礎概念や各条文に関わる代表的な判例を取り上げ、事例から発想する憲法学を展開する。

【学習目標】
憲法の解釈学を中心とした学習での抽象的な概念整理に必要な素材（基本事例）の獲得を目標にする。具体的には、憲法学での興味深い判例や基本概念の理解に不可欠な具体的事例を紹介し解説する。「生きた法」の現実を具体的に学習し、法律学の学問としての面白さを学び、法学学習への意欲を高めることをねらいとする

【講義計画】
第１回　憲法入門ガイダンス
第２回　「12．三菱樹脂事件」と基本的人権の私人間効力（「」内番号は憲法判例百選第５版事件番号、以下同じ）
「26．校則によるバイク制限」
第３回　「30．尊属殺重罰規定判決」と「法の下の平等」
第４回　「46．宗教上の理由に基づく「剣道」の不受講」と信教の自由
第５回　「47．津地鎮祭訴訟」と政教分離の原則
第６回　「57．チャタレイ事件」と表現の自由
第７回　「74．北方ジャーナル事件」と事前抑制の禁止
第８回　「101．小売市場事件」・「102．薬事法違憲判決」と経済的自由
第９回　「142．朝日訴訟」「143．堀木訴訟」と生存権
第10回　「151．全逓東京中郵事件」「153．全農林警職法事件」と労働基本権
第11回　「161　議員定数不均衡と選挙の平等」
第12回　「180．恵庭事件」「181～182．長沼事件」と第９条
第13回　「207．警察予備隊違憲訴訟」と違憲審査制
第14回　「203．板まんだら事件」と司法権の意味と範囲
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　80％　出席　20％
出席数と定期試験の結果を総合して成績評価の判断をおこなう。

【教科書】
高橋和之・長谷部恭男・石川健治編　別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅰ［第５版］』有斐閣
高橋和之・長谷部恭男・石川健治編　別冊ジュリスト『憲法判例百選Ⅱ［第５版］』有斐閣

【参考文献】
芦部信喜著・高橋和之補訂『憲法〔第４版』岩波書店

【備考】
【準備学習の指示】
『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』の該当事例につき、事前に呼んでおくこと。
・10J生対象

か行

科目名　クラス　講義区分	
語彙・意味論　＜春＞	
藤　原　　健	２単位

【講義概要】

ことばによる表現が単語を一定の文法規則に従って文の形にまとめ上げることであるとすれば、表現にはいくつかの単語が使われていると考えるのが普通であろう。私たちが使っている日本語も、数多くの単語を意味伝達の手段として、それを文や文章、談話の形にまとめ上げているのである。「語彙」とは、このような文章や談話を形成するための要素として用いられる単語の集まりのことであり、言語にとって文法と同等に重要な要素である。

日本語の語彙を形式の面からとらえ、音声構造や意味の範囲、広がりなどについて観察する。

【学習目標】

上記の講義概要に沿って、おおよそ下記の授業計画をもとに日本語の語彙・単語の意味・形式の特徴を考えていく。

実際の授業では、日常的な平易な用例をもとに、日本語の語彙の意味や構成を分類し、普段使っている日本語の語彙について、いろいろな面から考えてみたい。

【講義計画】

第１回　１．単語と語彙
　　１）単語とは
第２回　　２）語彙とは
第３回　　３）語形
第４回　２．語の数
　　１）基礎語彙と基本語彙
第５回　　２）使用語彙と理解語彙
第６回　　３）語数とカバー率
第７回　３．語の種類
第８回　４．語構成と造語法
　　１）語の構成成分
第９回　　２）造語法
第10回　　３）造語に伴う音声変化（１）
第11回　　３）造語に伴う音声変化（２）
第12回　５．語の意味の範囲と変化
第13回　６．意味に関する問題点
第14回　７．語彙教育のポイント
第15回　テスト（予定）

【成績評価の方法】

試験　100％
定期試験（半期科目であるので、春学期１回）により評価する。
詳しくは、授業初回に説明する。

【教科書】

森田良行・村木新次郎・相沢正夫（編）『ケーススタディ・日本語の語彙』おうふう（桜風社）

【参考文献】

浅野百合子（著）『教師用日本語教育ハンドブック（５）語彙』（国際交流基金／凡人社）

【備考】

【準備学習の指示】

予習は特に必要はない。その代わりに、毎回きちんと出席して授業をよく聞き、次回の授業までにしっかりと復習をしてほしい。

内容が積み上げの部分もあり、既習の事柄がわからないと、その先が理解できないことがあるので、復習を心掛けてほしい。

習い終わったことの復習が、次回以降の予習につながる。

科目名　クラス　講義区分	
公共経済論　＜通期＞	
竹　歳　一　紀	４単位

【講義概要】

公共経済学の基礎について講義する。公共経済学の扱う範囲は広いが、ひとことで言えば、市場経済において公共部門の介入が必要となる諸問題を経済理論により分析することである。特にこの講義では、（１）公共財と財政、（２）外部性と環境問題、（３）所得分配と社会保障、といったテーマをとりあげる予定である。

公共経済学を理解するためには、主としてミクロ経済学の知識が必要となるが、この講義ではごく基本的な範囲にとどめる。その上で、理論だけでなく上記のテーマに関する実態・政策面についての解説も行う。

【学習目標】

①市場経済において公共部門（政府）の介入が必要となるのはどのような問題に対してか
②適切な介入（政策）とはどういうものか
③上記①②に関してどのような実態があるのか
といった点について理解を深めることが目標である。

【講義計画】

第１回　ガイダンス
第２回　公共経済学の対象
第３回　厚生経済学の基礎（１）
第４回　厚生経済学の基礎（２）
第５回　厚生経済学の基礎（３）
第６回　厚生経済学の基礎（まとめ）
第７回　公共財の理論（１）
第８回　公共財の理論（２）
第９回　公共投資と日本の財政（１）
第10回　公共投資と日本の財政（２）
第11回　公共投資と日本の財政（３）
第12回　公共投資と日本の財政（４）
第13回　公共財と公共投資（まとめ）
第14回　外部性の理論（１）
第15回　外部性の理論（２）
第16回　外部性の理論（３）
第17回　環境問題と環境政策（１）
第18回　環境問題と環境政策（２）
第19回　環境問題と環境政策（３）
第20回　環境問題と環境政策（４）
第21回　環境問題と環境政策（５）
第22回　外部性と環境問題（まとめ）
第23回　所得分配の理論（１）
第24回　所得分配の理論（２）
第25回　所得分配の実態と社会保障制度（１）
第26回　所得分配の実態と社会保障制度（２）
第27回　所得分配の実態と社会保障制度（３）
第28回　所得分配と社会保障（まとめ）

【成績評価の方法】

試験　100％
中間試験および学年末試験の成績による。

【参考文献】

奥野信宏『公共経済学（第３版）』岩波書店
麻生良文『公共経済学』有斐閣
植田和弘『環境経済学』岩波書店
日引聡・有村俊秀『入門　環境経済学』中公新書
西村和雄『現代経済学入門　ミクロ経済学』岩波書店
荒井一博『ファンダメンタル　ミクロ経済学（第２版）』中央経済社

【備考】

需要曲線・供給曲線など、ミクロ経済学の基礎的知識が必要となる。この講義の中でも説明をするが、ミクロ経済学の講義をとるか、参考文献にあげたテキストなどにより自分である程度勉強しておくのが望ましい。

科目名　クラス　講義区分	
工業簿記　＜秋＞	
河　野　　勉	２単位

【講義概要】
本講義では、初級の商業簿記の履修を終えた学生を対象に、製造業の簿記（初歩の原価計算を含む）を講義する。

【学習目標】
簿記の学習には、計算方法や簿記的な考え方に慣れることが必要なため、毎時間、練習を解く学習を中心につとめて実践的に授業を進めたい。
　原価計算論学習のための基礎知識や公認会計士等の資格試験受験の出発点として必要な簿記能力の習得に役立つと思うので、受け身にならず積極的に授業に参加してもらいたい。

【講義計画】
第１回　工業簿記の基礎
第２回　工業簿記の構造（勘定連絡図）
第３回　材料費の計算
第４回　労務費の計算・経費の計算
第５回　個別原価計算・製造間接費
第６回　部門費計算
第７回　単純総合原価計算
第８回　級別総合原価計算・組別総合原価計算
第９回　工程別総合原価計算
第10回　仕損、減損、副産物の計算
第11回　工場会計の独立・財務諸表（製造業）の作成
第12回　標準原価計算
第13回　直接原価計算
第14回　総復習

【成績評価の方法】
定期考査の成績に、適宜ホームワークを課しその提出物等を加味して、総合的に評価する。

【教科書】
小林哲夫・伊藤　博（共著）「最新工業簿記三訂版」（実教出版）
岡本　清・廣本敏朗（編著）「新検定簿記ワークブック２級工業簿記」（中央経済社）

科目名　クラス　講義区分	
考古学概論　＜秋集＞	
井　上　　敏	４単位

【講義概要】
考古学の基本的理論や歴史について紹介し、それらの理論を使いながらどのように人類の過去を復元していくか、を各時代に分けて講義する。また現代における遺跡の保存の難しさについても講義する。

【学習目標】
考古学の基本的な考え方を理解するとともに本学の周辺にある豊かな歴史的環境の中には色々な情報が含まれていることを理解する。

【講義計画】
第１回　考古学とは何か
第２回　考古学史（１）
第３回　考古学史（２）
第４回　考古学史（３）
第５回　考古学の方法論（１）
第６回　考古学の方法論（２）
第７回　考古学の方法論（３）
第８回　旧石器・縄文時代の考古学（１）
第９回　旧石器・縄文時代の考古学（２）
第10回　旧石器・縄文時代の考古学（３）
第11回　弥生時代の考古学（１）
第12回　弥生時代の考古学（２）
第13回　弥生時代の考古学（３）
第14回　古墳時代の考古学（１）
第15回　古墳時代の考古学（２）
第16回　古墳時代の考古学（３）
第17回　歴史考古学（１）
第18回　歴史考古学（２）
第19回　歴史考古学（３）
第20回　考古学と科学（１）
第21回　考古学と科学（２）
第22回　考古学と科学（３）
第23回　骨から何が見えるか
第24回　天皇陵と古墳（１）
第25回　天皇陵と古墳（２）
第26回　考古学と現代社会（１）－埋蔵文化財保護の現実－
第27回　考古学と現代社会（２）－埋蔵文化財とジャーナリズム－
第28回　考古学と現代社会（３）－埋蔵文化財とイデオロギー－
第29回　考古学と現代社会（４）－危機に立つ制度－
第30回　まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％
現段階では試験で成績評価する予定であるが、最終的な決定は１回目の講義で受講生と話し合って決める。

【参考文献】
講義中に指示する。

【備考】
「準備学習の指示」
考古学は他の研究分野などの成果を取り入れて、日々新たな成果をあげており、そのことは新聞などによる遺跡の報道で見ることができる。考古学の参考文献を読むだけでなく、新聞やテレビなどの新たなた遺跡に関する報道なども普段からチェックして、知識を増やしておくこと。また本学キャンパスのある和泉地方は豊かな歴史的環境の地域である。それらの遺跡や関連の博物館なども普段から見学しておくこと。
・08～09生対象

科目名　クラス　講義区分	
更生保護論　＜集中＞	
藤　本　了　勝	1単位

【講義概要】
① 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。
② 更生保護を中心に，刑事政策上，特に矯正分野等で活躍する組織や団体及び専門職について理解する。
③ 各関係機関との連携の在り方について理解する。
④ 更生保護対象者を社会福祉分野として理解する。

【学習目標】
① 相談援助活動において必要となる更生保護制度について理解する。
② 更生保護を中心に，刑事政策上，特に矯正分野等で活躍する組織や団体及び専門職について理解する。
③ 各関係機関との連携の在り方について理解する。
④ 更生保護対象者を社会福祉分野として理解する。

【講義計画】
第１回　更生保護制度の概要①
・ 刑事政策上の位置づけ
・ 更生保護制度の歴史
・ 更生保護の機構・組織
第２回　更生保護制度の概要②

第３回　保護観察の種類並びに現状と問題点
第４回　少年院教育の現状
第５回　保護司等民間の担い手
第６回　関係機関・団体との連携
第７回　医療観察制度等，近年の動向と課題
第８回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　100％
講義終了後，レポート提出を求め，それをもって評価する。
レポートのテーマは「更生保護の現状と課題について，思うことを記せ。」の予定。

【参考文献】
「犯罪白書」法務総合研究所編，「更生保護便覧」法務省保護局
「少年法の歴史的展開」森田　明著　信山社
「更生保護制度」弘文堂，「更生保護」ミネルヴァ書房
「注釈　少年法」有斐閣等

【備考】
月刊「更生保護」やDVD資料等も使用予定
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
公的扶助論Ａ　＜春＞	
瀧　澤　仁　唱	2単位

【講義概要】
〔授業の目的・ねらい〕
① 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢，福祉需要とその実際について理解する。
② 相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。
③ 自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。

〔授業全体の内容の概要〕
1　公的扶助理念の発達，概念と範囲，役割と意義　　2　低所得問題対策の概要
3　生活保護制度のしくみ　　4　生活保護の最近の動向
5　生活保護法及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

【学習目標】
〔授業修了時の達成課題　（到達目標）〕
社会福祉士および精神保健福祉士受験合格のための知識をつける。

【講義計画】
第１回　公的扶助の概念

第２回　貧困・低所得者問題と社会的排除　　低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢，福祉需要と実際
第３回　公的扶助制度の歴史
第４回　生活保護制度の仕組み　　生活保護制度における組織及び団体の役割と実際
第５回　最低生活保障水準と生活保護基準
第６回　生活保護の動向
第７回　低所得者対策の概要
第８回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体（１）　生活保護制度における専門職の役割と実際
第９回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体（２）　生活保護制度における多職種連携，ネットワーキングと実際
第10回　生活保護の運営実施体制と関係機関・団体（３）　福祉事務所の役割と実際
第11回　貧困・低所得者に対する相談援助活動，低所得者対策
第12回　生活保護における自立支援プログラムの意義と実際
第13回　低所得者への住宅政策
第14回　ホームレス対策
第15回　試験

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
論述式筆記試験に合格した場合に単位認定する。

【教科書】
制度改正があるので，使用教科書は授業開始後指示する。

【参考文献】
より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法(2010年版)又は『社会福祉六法2010(平成22)年版』(新日本法規)

必要に応じ一部条文はコピーしてわたすので、購入する必要はない。古い六法は使えないので、ご注意いただきたい。

【備考】
準備学習の指示：準備学習として予習を重視するので、指示・配布された教材に常に注意をはらうこと。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
公的扶助論Ｂ　＜秋＞	
瀧　澤　仁　唱	２単位

【講義概要】
公的扶助論Ａの知識を基に、さらに法律学的観点から公的扶助、とりわけ生活保護制度について詳しく講義し、加えて生活保護に関わる裁判について述べる。
この講義を受講する者は公的扶助論Ａの単位を取得していることが望ましく、そうでない場合は講義理解が難しいのでご注意いただきたい。
（制度変更，授業進度及び学生の希望により講義順序，内容および回数が変わる場合がある）

【学習目標】
１　現代社会における公的扶助の理念と意義について理解させる。
２　生活保護制度のしくみと判例の動向について理解させる。

【講義計画】
第１回　講義目的，ガイダンス

第２回　「社会保障」の意味
第３回　社会保険の意味
第４回　国家扶助の意味
第５回　公衆衛生・医療及び社会福祉の意味
第６回　権利とはなにか
第７回　社会保障の権利
第８回　生存権の意味
第９回　日本国憲法第25条の意味と解釈
第10回　生活保護に関わる事件と判決①
第11回　生活保護に関わる事件と判決②
第12回　生活保護に関わる事件と判決③
第13回　生活保護に関わる事件と判決④
第14回　生活保護に関わる事件と判決⑤
第15回　試験・まとめ

【成績評価の方法】
試験　100％　レポート　０％　出席　０％
論述式筆記試験に合格した場合に単位認定する。

【教科書】
制度改正があるので，使用教科書は授業開始後指示する。

【参考文献】
より詳しく調べたい方は、社会福祉小六法(2010年版)又は『社会福祉六法2010(平成22)年版』(新日本法規)

必要に応じ一部条文はコピーしてわたすので、購入する必要はない。古い六法は使えないので、ご注意いただきたい。

【備考】
準備学習の指示：準備学習として予習を重視するので、指示・配布された教材に常に注意をはらうこと。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
高齢者福祉論Ａ　＜春＞	
秦　　康　宏	２単位

【講義概要】
担当教員の秦（はた）は，大阪府枚方市の高齢者施設で22年間勤務しました.24時間ホームヘルパーやデイサービス，地域包括支援センター，認知症グループホームのことをやってきました．テーマは重いかもしれませんが，実践現場の楽しい雰囲気をできるだけ伝えていきたいと考えています．パワーポイント,DVD，ビデオなどの視聴覚教材も使用します．支援の方法論と制度の両方から，高齢者福祉を皆さんが考えるヒントを提供したいと考えています.

【学習目標】
高齢者福祉論の基本的枠組みを理解できるようになることが本講義の目的です．常に問題意識をもって，各項目における自分なりの目標を定めてください．大教室の講義になります．主体的に取り組んでください．基本的にチャイム終了と同時に出欠を取ります.
★なお，授業に関係のない私語，音楽を聴く，ゲーム，授業中における教室の出入り，食事，携帯いじりをする人には名前を聞いた上で退出を命じます.

【講義計画】
第１回　教員自己紹介，スウェーデンの高齢者福祉，学習の心構え，オリエンテーション
第２回　ビデオから考える高齢者福祉，なぜ老人福祉法は昭和30年代にできたのか?
第３回　今日，高齢者福祉は完璧なのか⇒No
第４回　アセスメントする情報には客観的情報と主観的情報がある
第５回　ビデオから高齢者のアセスメント
第６回　老夫婦世帯高齢者ビデオからのアセスメント，生活ニーズの４原則,SMAP！
第７回　一人暮らし高齢者のアセスメント，エンパワーメント志向のアセスメント
第８回　介護サービス計画の作成，モニタリング,ICFとアセスメントとの関係
第９回　老人福祉施設の紹介，介護保険のしくみを理解する４つの軸
第10回　介護保険の目的と歴史，基本的しくみ
第11回　介護保険のサービス（給付）
第12回　介護保険のサービス（施設給付）
第13回　書いて覚える介護保険におけるお金の流れ
第14回　ターミナルケアについて考える
第15回　試験内容の概説，

【成績評価の方法】
試験　70％　レポート　10％　出席　20％

【参考文献】
☆三島亜紀子（2007)『社会福祉学の＜科学＞性ソーシャルワーカーは専門職か』勁草書房
☆桧垣陽子（2003)『私は誰になっていくの？　アルツハイマー病患者からみた世界』クリエイツかもがわ.

【備考】
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
高齢者福祉論B　＜秋＞	
川　井　太加子	2単位

【講義概要】
高齢者の特性、高齢者介護の必要性から介護の概念や対象、理念、介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方、さらには、認知症ケアや終末期ケア等について学ぶ。

【学習目標】
1　介護の概念や対象及びその理念等について理解する。
2　介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。
3　認知症ケアや終末期ケアの在り方（人間観や倫理を含む。）について理解する。

【講義計画】
第１回　オリエンテーション
　　高齢化社会と介護問題
第２回　介護の概念と範囲
第３回　介護の理念とその対象
第４回　高齢者を支える専門職の役割
第５回　地域包括支援センターの役割と実際　①
第６回　地域包括支援センターの役割と実際　②
第７回　介護予防について　①介護予防の基本的な考え方
第８回　介護予防について　②介護予防プランの実際
第９回　介護過程について　①介護過程の概要
第10回　介護過程について　②介護過程の展開
第11回　認知症ケア　①認知症のある高齢者のケア
第12回　認知症ケア　②認知症のある高齢者の家族への支援
第13回　終末期ケア　①終末期にある高齢者のケア
第14回　介護と住環境
第15回　試験　まとめ

【成績評価の方法】
試験　50%　レポート　30%　出席　10%
授業への参加度、レポート、テストにより総合的に評価する。

【教科書】
川廷宗之 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規
このテキストは、高齢者福祉論A、Cでも使用する。

【備考】
【準備学習の指示】
日頃から新聞記事や雑誌等に目を通し、特に高齢者問題に関する記事について読んでおくことが期待される。
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
高齢者福祉論C　＜秋＞	
秦　　康　宏	2単位

【講義概要】
担当教員の秦（はた）は，大阪府枚方市の高齢者施設で22年間勤務しました.24時間ホームヘルパーやデイサービス，地域包括支援センター，認知症グループホームのことをやってきました．テーマは重いかもしれませんが，実践現場の楽しい雰囲気をできるだけ伝えていきたいと考えています．パワーポイント,DVD，ビデオなどの視聴覚教材も使用します．支援の方法論と制度の両方から，春学期に取り上げなかった高齢者福祉を皆さんが考えるヒントを提供したいと考えています.

【学習目標】
高齢者福祉分野で活躍するソーシャルワーカー，例えば地域包括支援センターの社会福祉士や介護支援専門員にとって必要な基礎的知識，技術，倫理を身につける

【講義計画】
第１回　25年前の高齢者福祉　かねこじゅうぞうさんの事例
第２回　認知症のテストを実際に受けてみよう
第３回　クリスティーン・ブライデンさんの声　There is no instruction book to care
第４回　ドールセラピー　ロボットセラピーと認知症
第５回　認知症の「認知(にんち)」という意味
第６回　介護過程のヒント
第７回　高齢ホームレス者の事例
第８回　事故から考える研修のあり方と職務基準書　ハインリッヒの法則とリスクマネジメント
第９回　場面を記録にする
第10回　高齢者福祉（社会福祉）を理解する上で，役に立つ社会扶助（援助）システムの類型
第11回　計画書に記載する前に自分自身の考えを整理しておく必要
第12回　事例研究１
第13回　事例研究２
第14回　事例研究３
第15回　総括

【成績評価の方法】
試験　70%　レポート　10%　出席　20%

【備考】
・02～08生は読替一覧参照

科目名　クラス　講義区分	
コース演習Ⅰ　01＜通期＞ コース演習Ⅰ　02＜通期＞	
上　野　勝　男	4単位

【講義概要】
基本的な内容は、勉学面についての大学生活に慣れるための学習と、中国と中国ビジネスについて基礎知識を少しずつ増やすとともに、「勉強のスタイル」と人に伝え説明する「やり方」を身につけるトレーニングをすることです。
また、この授業はコースの他の科目と連絡・連携して、皆さんの学習の様子をチェックしたり、アドバイスしたりする時間ともなります。

【学習目標】
(1)大学を知って大学生活にはやく慣れよう。
(2)中国について貪欲に知ろう。
(3)仕事やビジネスの現場を知ろう。
(4)読んで、理解し、伝え説明するための「やり方」を訓練しよう。

【講義計画】
第1回　ガイダンス：授業の進め方、成績評価の方法
第2回　大学を知って大学に慣れよう　その1　キャンパスあちこち
第3回　大学を知って大学に慣れよう　その2　カリキュラムを理解する
第4回　大学を知って大学に慣れよう　その3　メールやインターネット
第5回　大学を知って大学に慣れよう　その4　図書館を利用する
第6回　君を紹介してください　その1　まずはパワーポイントの使い方
第7回　君を紹介してください　その2　続き
第8回　君を紹介してください　その3　プレゼン
第9回　新聞（中国関係記事）を拾い読みして解説する、一緒に考える　その1
第10回　新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える　その2
第11回　新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える　その3
第12回　新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える　その4
第13回　新聞を拾い読みして解説する、一緒に考える　その5
第14回　工場見学の事前学習
第15回　春学期のまとめ
第16回　工場見学のレポート作成　その1
第17回　工場見学のレポート作成　その2
第18回　工場見学のレポート作成　その3
第19回　工場見学のレポート作成　その4
第20回　工場見学プレゼン準備　その1
第21回　工場見学プレゼン準備　その2
第22回　中国についてのグループ研究　その1
第23回　グループ研究　その2
第24回　グループ研究　その3
第25回　グループ研究　その4
第26回　グループ研究　その5
第27回　グループ研究　その6　発表
第28回　年間のまとめ

【成績評価の方法】
コース演習は必修科目です。
なによりもまず出席してください。
理由もなく、連絡もなしに休めば、落第そして留年となります。
なにはなくとも毎回出席だ！

【備考】
事前学習の指示
毎回の授業で、次の授業までにしておくべき準備あるいは課題などについて具体的に指示します。

科目名　クラス　講義区分	
コース演習Ⅱ　＜通期＞	
中　野　瑞　彦	4単位

【講義概要】
秋学期の留学研修に向け、その準備として日本と中国に関する知識を身に付ける。

【学習目標】
1．留学時に必要な中国の経済・社会に関する知識を習得する。
2．日本の経済・社会についての知識を深め、自分の言葉で説明できるようにする。

【講義計画】
第1回　イントロダクション（講義内容の紹介）
第2回　日本の経済社会の課題①
第3回　日本の経済社会の課題②
第4回　日本の経済社会の課題③
第5回　日本の経済社会の課題④
第6回　中国の経済社会の課題①
第7回　中国の経済社会の課題②
第8回　中国の経済社会の課題③
第9回　中国の経済社会の課題④
第10回　留学準備①
第11回　留学準備②
第12回　留学準備③
第13回　留学準備④
第14回　留学準備⑤
第15回　留学準簿⑥
第16回　中国の経済社会の現状①
第17回　中国の経済社会の現状②
第18回　中国の経済社会の現状③
第19回　中国の経済社会の現状④
第20回　現地から見た中国の経済社会の課題①
第21回　現地から見た中国の経済社会の課題②
第22回　現地から見た中国の経済社会の課題③
第23回　現地から見た中国の経済社会の課題④
第24回　留学研修の成果報告①
第25回　留学研修の成果報告②
第26回　留学研修の成果報告③
第27回　留学研修の成果報告④
第28回　まとめ

【成績評価の方法】
レポート　50%　出席　50%
本講義は中国ビジネスキャリアコースのための講義である。
講義内容は連続しているので、必ず出席すること。

【教科書】
別途指示する。

【参考文献】
別途指示する。

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ＩＡ　01<春>	
坂井田　夕起子	１単位

【講義概要】
現代中国の社会や文化、経済状況などに関する文章を用いながら、中国語の文法事項や正しい発音を確認しつつ講読を行う。また、現代中国に関する影像資料などを用いて、中国語のヒヤリング練習なども行う。

【学習目標】
現代中国の社会、文化、経済を学ぶ上で必要な中国語の語彙と文法を習得し、中国語レベルのステップアップをはかる。

【講義計画】
第１回　簡単なテストを行い、受講生の中国語レベルを確認する。その上で教科書の指定や補助教材の選定を行う。
第２回　テキスト第一課。発音練習と文法確認。
第３回　テキスト第一課。練習問題。
第４回　テキスト第二課。発音練習と文法確認。
第５回　テキスト第二課。練習問題。
第６回　テキスト第三課。練習問題。
第７回　テキスト第三課。発音練習と文法確認。
第８回　テキスト第四課。練習問題。
第９回　テキスト第四課。発音練習と文法確認。
第10回　テキスト第五課。練習問題。
第11回　テキスト第五課。発音練習と文法確認。
第12回　テキスト第六課。練習問題。
第13回　テキスト第六課。発音練習と文法確認。
第14回　まとめテスト
第15回　期末テスト

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
授業中の学習状況や小テスト、宿題、出席など総合的に評価する。

【教科書】
受講生のレベルを最初に確認して決定する。

【参考文献】
相原茂ほか『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ＩＡ　02<春>	
坂井田　夕起子	１単位

【講義概要】
中国語の基礎的な発音と、発音記号（ピンイン）の習得を目指し、中国語学習の基礎的な訓練を行う。

【学習目標】
基本的な単語と基礎的な文法事項を習得し、簡単な中国語の挨拶、応対表現や会話ができるようになることを目指す。中国の漢字（簡体字）に慣れ、入門段階における文法習得を目指す。

【講義計画】
第１回　中国語についての説明。学習する中国語（北京語）とその他の中国国内方言や簡体字の歴史、中国語の特徴である声調（四声）についての説明。発音記号（ピンイン）の読み方と発音練習。
第２回　母音と子音の発音練習。四声の練習。聞き取り練習。
第３回　発音練習。簡単な中国語の単語を発音記号と簡体字を覚えながら行う。
第４回　テキスト第一課。発音練習と文法説明。
第５回　テキスト第一課。暗誦練習と簡単な作文練習。
第６回　テキスト第二課。発音練習と文法説明。
第７回　テキスト第二課。暗誦練習と簡単な作文練習。
第８回　テキスト第三課。発音練習と文法説明。
第９回　テキスト第三課。暗誦練習と簡単な作文練習。
第10回　テキスト第四課。発音練習と文法説明。
第11回　テキスト第四課。暗誦練習と簡単な作文練習。
第12回　テキスト第五課。発音練習と文法説明。
第13回　テキスト第五課。暗誦練習と簡単な作文練習。
第14回　復習テスト
第15回　まとめのテスト

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
授業中の学習、小テスト、暗誦テスト、出席を総合して評価する。

【教科書】
劉顥、喜多山幸子、松田かの子　１冊目の中国語　講読クラス　白水社

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ＩＢ　01＜春＞ コース中国語ＩＢ　02＜春＞	
陳　　梅　隠	１単位

【講義概要】
中国の経済発展によって中国を訪れる観光客が増えている一方、日本企業の進出も増えてきている。言うまでもなく、中国人や中国企業と接触する際に言葉での交流は重要であるが、相手国の風習や、習慣および考え方についての大体の理解があれば、観光であってもビジネスであってもプラスとなるだろう。従って、この授業では会話を中心として勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、学生を中心とする会話の練習を取り込みたい。

【学習目標】
まず、中国の文化、風習についての紹介を通じて中国語の学習に対する興味を起こし、単語の量を増やすことを望んでいる。その同時に日常生活でよく使う会話を身につけることを目標とする。

【講義計画】
第１回　発音（Ｉ）最初の３週間は週に一回の授業を利用し、発音を基本とした授業を行う予定である。よく知られているように、中国語の発音は多種類であり、アクセントも厳しく分かれているため、発音が似ていながら意味がまったく異なる言葉がたくさんある。従って、この授業では簡単な会話の練習を加え３回（３週）をかけて発音の授業を進めたい。
第２回　発音（Ⅱ）
第３回　発音（Ⅲ）
第４回　名前を聞く
第５回　身分を聞く、家族を聞く
第６回　趣味を聞く
第７回　外見、服装を聞く
第８回　存在の場所を聞く
第９回　動作の場所を聞く
第10回　ルート、出所を聞く
第11回　年月日を聞く
第12回　時刻を聞く
第13回　時点、起点、終点を聞く
第14回　試験

【成績評価の方法】
春学期の定期試験60%、出欠席10%、授業中の参加態度10%、小テストなど20%

【教科書】
相原 茂 、郭 雲輝、田禾他著 新概念中国語会話　訊くが勝ち 朝日出版社

【備考】
【準備学習の指示】：毎回の授業は学生を中心とする会話練習を行うので、授業後の宿題（暗記等）を確実に行うこと。そして、指示に従って、必ず予習すること。この予習と復習によって、中国語が話せる感覚と喜びを掴めてくるはずである。そして毎回、予習と復習をチェックして点数をつけ、成績評価と結びつける。

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ⅡＡ　01＜秋＞	
坂井田　夕起子	１単位

【講義概要】
現代中国の社会や文化、経済状況などに関する文章を用いながら、中国語の文法事項や正しい発音を確認しつつ講読を行う。また、現代中国に関する影像資料などを用いて、中国語のヒヤリング練習なども行う。

【学習目標】
現代中国の社会、文化、経済を学ぶ上で必要な中国語の語彙と文法を習得し、中国語レベルのステップアップをはかる。

【講義計画】
第１回　前期の復習テスト。
第２回　テキスト第七課、発音練習と文法確認。
第３回　テキスト第七課、練習問題。
第４回　テキスト第八課、発音練習と文法確認。
第５回　テキスト第八課、練習問題。
第６回　テキスト第九課、発音練習と文法確認。
第７回　テキスト第九課、練習問題。
第８回　テキスト第十課、発音練習と文法確認。
第９回　テキスト第十課、練習問題。
第10回　テキスト第十一課、発音練習と文法確認。
第11回　テキスト第十一課、練習問題。
第12回　テキスト第十二課、発音練習と文法確認。
第13回　テキスト第十二課、練習問題。
第14回　まとめテスト
第15回　期末テスト

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
授業中の学習内容や小テスト、宿題、出席など総合的に判断する。

【教科書】
前期に使用したテキストを引き続いて用いる。

【参考文献】
相原茂ほか『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書』同学社

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ⅡA　02＜秋＞	
坂井田　夕起子	1単位

【講義概要】
中国語の発音練習と基本例文の暗誦によって、基本的な単語（700語程度）と基本的な文法事項を学習し、作文の練習を繰り返し行う。

【学習目標】
中国語の正しい発音と基本的な単語（700語程度）を身につけ、中国語での簡単な会話ができるようになること、そして初級文法の習得により、簡単な中国語作文ができるようになることを目指す。

【講義計画】
第１回　テキスト１～５課までの復習テスト。
　　テキスト第六課の発音練習と文法説明。
第２回　テキスト第六課の暗誦練習と作文練習。
第３回　テキスト第七課の発音練習と文法説明。
第４回　テキスト第七課の暗誦練習と作文練習。
第５回　テキスト第八課の発音練習と文法説明。
第６回　テキスト第八課の暗誦練習と作文練習。
第７回　テキスト第九課の発音練習と文法説明。
第８回　テキスト第九課の暗誦練習と作文練習。
第９回　テキスト第十課の発音練習と文法説明。
第10回　テキスト第十課の暗誦練習と作文練習。
第11回　テキスト第十一課の発音練習と文法説明。
第12回　テキスト第十一課の暗誦練習と作文練習。
第13回　テキスト第十二課の発音練習と文法説明。
第14回　テキスト第十二課の暗誦練習と作文練習。
第15回　まとめテスト

【成績評価の方法】
試験　50%　出席　50%
授業中の学習、小テスト、暗誦テスト、出席を総合して評価する。

【教科書】
劉頴、喜多山幸子、松田かの子　1冊目の中国語　講読クラス　白水社

科目名　クラス　講義区分	
コース中国語ⅡB　01＜秋＞ コース中国語ⅡB　02＜秋＞	
陳　　梅　隠	1単位

【講義概要】
春学期と同様に会話を中心にして勉強するとともに、中国の文化、風習を紹介し、中国のことをもっと理解してもらいたい。

【学習目標】
春学期を通じて勉強した中国語の基礎知識の上で、さらに単語の量を増やし、日常生活でよく使う会話を身につけることを秋学期の学習目標とする。

【講義計画】
第１回　・復習・小テスト
　　・持続する時間を聞く
第２回　年齢、値段を聞く
第３回　サイズ、重さ、距離を聞く
第４回　早さ、高さ、温度を聞く
第５回　方法手段を聞く
第６回　作り方、過ごし方を聞く
第７回　天気、体調を聞く
第８回　仕事を聞く
第９回　生活状況を聞く
第10回　学習状況を聞く
第11回　髪型などを聞く
第12回　将来を聞く
第13回　自分の意見を聞く
第14回　試験

【成績評価の方法】
秋学期の定期試験60%、春学期の定期試験20%、出欠席10%、小テスト等10%

【教科書】
相原 茂、郭 雲輝、田禾他著 新概念中国語会話 訊くが勝ち 朝日出版社

【備考】
【準備学習の指示】：毎回の授業は学生を中心とする会話練習を行うので、授業後の宿題（暗記等）を確実に行うこと。そして、指示に従って、必ず予習すること。この予習と復習によって、中国語が話せる感覚と喜びを掴めてくるはずである。そして毎回、予習と復習をチェックして点数をつけ、成績評価と結びつける。